

目 次

《*大学の特色等》	1
《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》	6
《II 教育の内容》	8
《III 教育の実施体制》	23
《IV 教育目標の達成度と教育の効果》	32
《V 学生支援》	61
《VI 研究》	71
《VII 社会的活動》	75
《VIII 管理運営》	77
《IX 財務》	92
《X 改革・改善》	95

《* 大学の特色等》

(1) 大学を設置する学校法人（以下「法人」という）の沿革（概要）及び大学の沿革（概要）

※桐生大学医療保健学部に関する記事をゴシック体とする

1900年	明治34年12月	桐生女子裁縫専門女学館設立
1901年	明治37年12月	桐生裁縫女学校と改称
1934年	昭和 9年 2月	女子中学校として校名を桐生高等家政女学校と改称
1934年	昭和 9年 4月	財団法人 桐生高等家政女学校を開校
1946年	昭和21年 4月	校名を桐生高等家政女学校から桐丘高等女学校と改称
1948年	昭和23年 4月	学制改革により桐丘高等学校となり桐丘中学校を併置
1949年	昭和24年 4月	短期速成科設置
1951年	昭和26年 2月	私立学校法により財団法人桐丘学園が学校法人となる
1952年	昭和27年10月	桐丘幼稚園設立認可
1961年	昭和36年 4月	桐丘学園専門部設置
1963年	昭和38年 4月	桐丘女子短期大学設立被服科新設
1964年	昭和39年 4月	食物科・生活デザイン科増設
1968年	昭和43年 4月	短期大学 笠懸学舎に移転
1971年	昭和46年 4月	桐丘女子短期大学を桐丘短期大学と校名変更，共学とする
1988年	昭和63年 4月	食物科を生活科学科と科名変更・改組 短大創立25周年記念事業9号館新築工事着工(8月)
1989年	平成元年 4月	桐丘短期大学を桐生短期大学と校名変更・定員増 生活科学科100名，生活デザイン科60名 桐丘高等学校を桐生第一高等学校と校名変更 桐丘幼稚園を桐生短期大学附属幼稚園と園名変更 短大創立25周年記念事業・校舎落成式挙
1990年	平成 3年 3月	被服科廃止
1990年	平成 3年 4月	短期大学 学科臨時定員増 生活科学科150名，生活デザイン科80名
1991年	平成 6年 9月	新デザイン棟完成
1994年	平成 6年 9月	短期大学 栄養士課程30名定員増(定員80名)
1997年	平成 9年 4月	短期大学 看護学科開設(定員80名)
1999年	平成11年12月	コミュニティホール完成
2001年	平成13年 4月	専攻科(助産学専攻)新設
2002年	平成14年 4月	専攻科(助産学専攻)大学評価・学位授与機構認定
2005年	平成17年 4月	短期大学生活科学科，生活デザイン科定員減 (臨時定員増の終了)

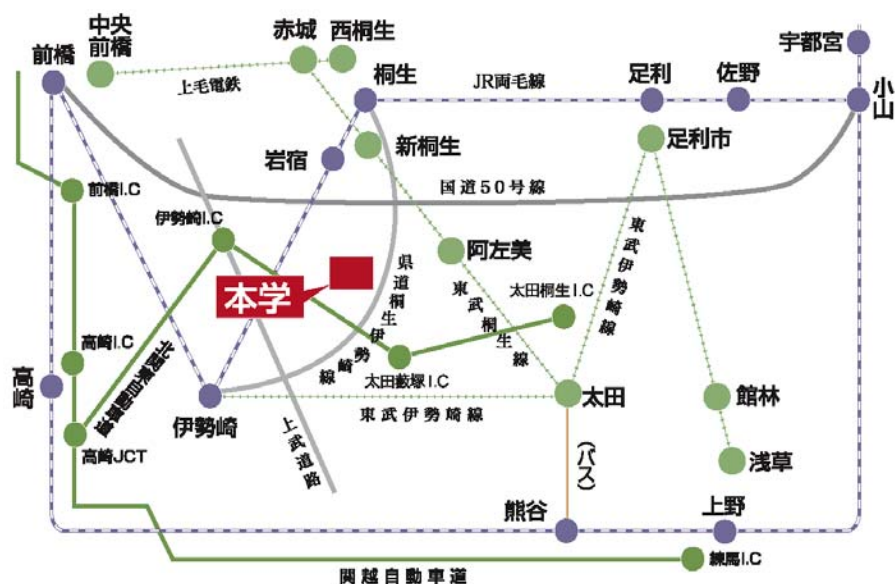
		生活科学科 100名	生活デザイン科60名
2006年	平成18年 4月	生活デザイン科からアート・デザイン学科に名称変更	
2007年	平成19年 4月	専攻科(助産学専攻)定員増	定員30名
2008年	平成20年 4月	桐生大学医療保健学部（看護学科・栄養学科）開設	
		桐生短期大学を桐生大学短期大学部に校名変更	
		定員変更	生活科学科40名
		桐生短期大学看護学科学生募集の停止	
2010年	平成22年 3月	桐生短期大学看護学科廃止	
2011年	平成23年 3月	桐生短期大学専攻科助産学専攻廃止	
2011年	平成23年 4月	桐生大学別科助産学専攻開設	

(2) 大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等

所在地：群馬県みどり市笠懸町阿左美 606 番 7

周囲の状況：本学の所在するみどり市は、平成 18 年 3 月 27 日に、新田郡笠懸町、山田郡大間々町、勢多郡東村が合併して誕生した新しい市で群馬県の東部に位置している。人口約 5 万 2 千人である。本学は、伊勢崎市と桐生市を結ぶ県道桐生伊勢崎線沿いにあり、自動車で伊勢崎市中心街から約 20 分、桐生市中心街から約 15 分の場所に位置している。また、北関東自動車道太田藪塚 I C からは約 5km、自動車で約 10 分のところに位置している。最寄り駅は東武桐生線阿左美駅であり、徒歩で 15 分ほどかかる。J R 両毛線桐生駅からはスクールバスで約 25 分程度かかる。

みどり市の主要産業は、農業と中小企業を中心とした工業であるが、第 1 次産業と第 2 次産業は、年々従事者が減少しており、他市へ通勤する勤労者も増えている。市内に岩宿遺跡や草木湖、高津戸峡などの名所・旧跡、富弘美術館・岩宿博物館などの文化施設があり、市ではそうした観光資源の活用にも力を入れている。





(3) 法人理事長、学長の氏名、及びその略歴

法人名称	学校法人 桐丘学園
理事長	関崎 悦子
住 所	群馬県みどり市笠懸町阿左美606番7
連絡先	TEL 0277-76-2400 FAX 0277-76-9454 E-Mail sekizaki-e@kiryu-u.ac.jp
略 歴	昭和23年8月12日生 和洋女子大学 家政学部 生活科学科 管理栄養士専攻卒業 現在 学校法人 桐丘学園理事長 学校法人 桐丘学園評議員 桐生大学附属幼稚園 園長

大学名称	桐生大学
学長名	多田隈 卓史
住 所	群馬県みどり市笠懸町阿左美606番7
連絡先	TEL 0277-76-2400 FAX 0277-76-9454 E-Mail tadakuma-ta@kiryu-u.ac.jp
略 歴	昭和15年11月16日生 慶應義塾大学大学院 医学研究科修了(医学博士) 現在 桐生大学及び桐生大学短期大学部 学長 桐生大学 医療保健学部 栄養学科 教授 学校法人 桐丘学園理事 学校法人 桐丘学園評議員

(4) 平成20年度から23年度までの学科ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率(%)、収容定員、在籍者数、収容定員充足率(%) (在籍者数は毎年度5月1日時

点)

平成 20 年度～平成 23 年度の設置学科、入学定員等

学科・専攻名		H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	備考
看護学科	入学定員	80	80	80	80	
	入学者数	75	76	97	85	
	入学定員充足率(%)	93.8%	95.0%	121.3%	106.3%	
	編入学定員	—	—	10	10	
	編入学者数	—	—	6	6	
	編入学定員充足率(%)	—	—	60.0%	60.0%	
	収容定員	80	160	250	340	
	在籍者数	75	145	243	327	
	収容定員充足率(%)	93.8%	90.6%	97.2%	96.2%	
栄養学科	入学定員	60	60	60	60	
	入学者数	33	56	61	62	
	入学定員充足率(%)	55.0%	93.3%	101.7%	103.3%	
	編入学定員	—	—	10	10	
	編入学者数	—	—	3	3	
	編入学定員充足率(%)	—	—	30.0%	30.0%	
	収容定員	60	120	190	260	
	在籍者数	33	87	144	205	
	収容定員充足率(%)	55.0%	72.5%	75.8%	78.8%	
別科助産 専攻	入学定員	—	—	—	20	
	入学者数	—	—	—	20	
	入学定員充足率(%)	—	—	—	100.0%	
	収容定員	—	—	—	20	
	在籍者数	—	—	—	20	
	収容定員充足率(%)	—	—	—	100.0%	

(5) 平成20年度～23年度入学した学生(編入学生を除く)の出身地別人数及び割合
(毎年5月1日現在)

出身地別学生数(平成20年度～22年度)

県・地域等	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
群馬県	72	66.7%	88	66.7%	97	61.8%	99	67.3%
栃木県	19	17.6%	18	13.6%	29	18.5%	19	12.9%
茨城県	1	0.9%	3	2.3%	1	0.6%	1	0.7%
埼玉県	10	9.3%	3	2.3%	7	4.5%	4	2.7%
新潟県	0	0.0%	6	4.5%	7	4.5%	7	4.8%
長野県	1	0.9%	2	1.5%	4	2.5%	7	4.8%
青森県	1	0.9%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%
岩手県	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
秋田県	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
宮城県	0	0.0%	1	0.8%	1	0.6%	1	0.7%
山形県	2	1.9%	1	0.8%	2	1.3%	0	0.0%
福島県	0	0.0%	1	0.8%	5	3.2%	8	5.4%
東京都	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	0.7%
神奈川県	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
千葉県	0	0.0%	1	0.8%	1	0.6%	0	0.0%
富山県	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
山梨県	0	0.0%	2	1.5%	2	1.3%	0	0.0%
静岡県	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
北海道	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	2	1.5%	0	0.0%	0	0.0%

(6) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者

数

(平成23年5月1日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
桐生大学 短期大学部	群馬県みどり市笠懸町阿左美606番7	100	200	187
桐生第一高等学校	群馬県桐生市小曾根町9-17	540	1,580	1,198
桐生大学附属中学校	群馬県桐生市小曾根町1-5	30	30	17
桐生大学附属幼稚園	群馬県桐生市新宿1丁目4番54号	35	105	57
桐生大学附属保育園	群馬県桐生市新宿1丁目4番54号	12	12	5

《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》

【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

建学の精神・教育理念は「社会に出て役立つ人間の育成」である。

本学は、基礎教養の知能を授けると共に専門原理の探求と応用技能を修得させ、自ら進んで思索し、自由と責任、独立と共同の意識を学習することを目的として教育を行っている。その結果、「社会に出て役立つ人材」が育成できると考えている。

本学園の創設者は、明治34年に桐生裁縫専門女学館を設立し、「女性の経済的自立」を可能にするよう、「実学実践」の教育方針のもと、高い教養と確かな専門技術の修得を教育の中心に据えた。そうした教育を実践することにより、地域産業を支える多くの人材を輩出してきた。

こうした学園の建学の精神及び教育方針の下に、昭和38年(1963年)に設置された桐丘女子短期大学が3学科を有する桐生短期大学へと発展し、平成20年4月、桐生短期大学の生活科学科および看護学科を基礎として、桐生大学医療保健学部を設置するという歴史をたどった。桐生大学設置にいたるまで、地域社会の日常生活の場において必要とされる人間を育成するという教育方針は学園創設当時から変わることなく続いているのである。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

本学に入学を希望する者や、桐丘学園のステークホルダーに配布するために作成している「学校案内」には、学園創設時の建学の理想・教育方針と、桐生大学及び短期大学部の教育理念・教育目標を巻頭に示している。

次に、毎年新入生に配布している「学生生活ハンドブック」にも、同様に学園の建学の理想・教育方針および、桐生大学及び短期大学部の教育理念・教育目標について、「教育方針」の章で示している。

第三に、すべての人が閲覧可能な「桐生大学・桐生大学短期大学部ホームページ (<http://www.kiryu-u.ac.jp/>)」には、「大学案内」の「概要」において、学園創設の経緯、建学の精神、大学及び短期大学部の理念と特徴を提示している。

新入生には、入学式後の新入生全員を対象とした「オリエンテーション」において、桐生大学及び短期大学部の創設の経緯、建学の理念、教育方針等を説明している。

新任教職員に対しては、4月当初の教職員全体会議のなかで、学園創設の経緯、建学の精神、桐生大学及び短期大学部の創設の経緯、建学の理念、教育方針等を説明している。

【教育目的、教育目標について】

(1) 全学的に示された教育目的や教育目標ならびに各学科が設定している具体的な教育目的や教育目標

1. 桐生大学の教育目的・教育目標

「実学実践」、「悦己悦人（他人の喜びをもって自分の喜びとする）」と「人と環境」への姿勢という教育的風土のうえに、現代の保健医療的課題への対応や社会的要請に応えるために、「幅広い知識と確かな技術をもつ、対応力に優れた」スペシャリスト教育をめざす

2. 医療保健学部看護学科の教育目的・教育目標

以下の教育目標を設定している。

- ① 自立した専門職としての知識・技能・態度・及び考え方の総合的能力の育成
- ② 人間理解と協働意識に基づく豊かな人間性の育成
- ③ 地域社会及び国際社会に貢献できる専門的職業人の育成
- ④ 地域社会の保健・医療・福祉環境の中で力を発揮できる実践的職業人の育成

3. 医療保健学部栄養学科の教育目的・教育目標

以下の教育目標を設定している。

- ① 自立した専門職としての知識・技能・態度・及び考え方の総合的能力の育成
- ② 人間愛と奉仕の精神に基づく豊かな人間性の育成
- ③ 健康維持・増進、疾病・障害対策のための栄養管理と栄養教育に対応できる管理栄養士の育成
- ④ 地域の保健・医療・福祉分野における「食と健康」に関する実践的職業人の養成

(2) 各学科の教育目的や教育目標の公表の方法と内容

専任の教職員には年度当初の全教職員会議（全体会）の中で各学科より示しており、兼任の教員に対しては年度当初の打合せの中で説明している。また学生には、クラス別オリエンテーションにおいて、教育課程との関わりの中で説明している。一方学外者に対してはホームページにて公表しており、また入学希望者には、オープンキャン

パスや進学説明会等で各学科の「入学者受入方針」と関連をさせながら、分かりやすい表現で説明している。

【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検

建学の精神や教育理念の解釈の見直しは、自己点検評価委員会で実施することになっている。ただし、大学・短期大学の基本方針・基本的運営方法を審議する大学運営評議会（原則として月2回開催）でも、建学の精神や教育理念については、必要に応じて、点検がなされている。

教育目的や教育目標の点検については、各学科の会議で教育課程を検討する際に、それとともに実施している。教育目的や教育目標を変更する場合は、教授会で審議することとしている。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または教授会の関与。

本学園の建学の精神は、時代を超え通用する理念であるため、学園が発展する中でも、変わらずに続いてきている。本学園の発展は、時代に沿った地域社会の要求に応え、かつ建学時の教育理念にしたがって、将来計画検討チーム(企画部など)及び理事会で計画・検討した結果である。(現在については上記の通りである。)

建学の精神・教育理念に基づく教育目的・教育目標は、各学科の会議等で点検し、これまでの教育目的・教育目標では不都合である場合には、各学科からの提案により、教授会で審議することとしている。

《Ⅱ 教育の内容》

【教育課程について】

(1) 各学科の現在の教育課程

医療保健学部看護学科 教育課程

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
学部共通科目 (教養科目)	哲学・倫理学	○				2						
	心理学	○				2		1			96	亀岡
	教育原論	○				2		1			68	熊谷
	法学	○				2		1			53	松原
	日本国憲法	○				2		1			88	松原
	国際文化論	○				2						
	家族関係論	○				2			1		48	笹澤

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
学部共通科目 (教養科目)	スポーツ科学Ⅰ(レクリエーションとしてのスポーツ)			○		1				1	69	中澤
	スポーツ科学Ⅱ(トレーニングの方法)			○		1				1	61	中澤
	環境論	○				2						
	人間発達学	○				2		1			81	齊藤
	物理学	○				2				1	37	桃沢
	生物学	○				2			1		95	荒井
	化学	○				2			1		87	小林
	生活とデザイン	○				2						
	地域社会学	○				2						
	人間工学	○				2				1	62	浅川
	コミュニケーション論		○		1			1			97	亀岡
	基礎英語Ⅰ(Listening & Reading)		○		1			1			97	松本恭
	基礎英語Ⅱ(Speaking & Writing)		○		1			1			92	松本恭
	実践英会話		○		1			1			69	マチャコン
	医療保健英語		○		1			1			17	松本恭
	英書講読		○		1				1		8	野中
	中国語		○		1					1	56	佐々木百
	スペイン語		○		1					1	65	関口
	ポルトガル語		○		1					1	54	伊勢島
	統計学		○		1				1		38	石井
情報処理基礎演習		○		1			1			92	マチャコン	
情報処理応用演習		○		1				1		66	石井	
文献検索とクリティーク		○		1			1			65	マチャコン	
専門基礎科目	医療保健福祉行政論	○			2			1			97	松原、笹澤、大野
	地域保健福祉論	○			1				1		72	笹澤
	チーム医療論		○		1			3			62	今関、加藤、丸岡
	生命科学	○			1							
	行動科学	○			1							
	合同臨地実習			○	1							
	人体の構造と機能Ⅰ(運動・消化)		○		2			1			97	瀬野尾
	人体の構造と機能Ⅱ(循環・呼吸・免疫・内分泌)		○		1			1			97	瀬野尾
	人体の構造と機能Ⅲ(腎泌尿・神経・生殖)		○		1			1			92	瀬野尾
	人体の生化学		○		1				1		97	岸

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門基礎科目	生命倫理		○		1					1	72	浜野
	疾病の成り立ち		○		1			1			92	瀬野尾
	感染と防御		○		1				1		92	多田隈
	臨床検査		○		1					1	92	根岸
	栄養学		○		1				1		92	旭
	食品学	○				1			1		64	荒井
	臨床薬理学		○		1					1	92	田村
	臨床心理学(カウンセリング含)		○			1		1			47	齊藤
	疾病の回復促進Ⅰ(高次機能統御系)		○		1						92	大場、久松
	疾病の回復促進Ⅱ(代謝機能・臓器制御系)		○		2						72	岸、朝長
	疾病の回復促進Ⅲ(環境病態制御系)		○		1						72	岸
	養護概論	○				2		1			28	鎌田
	疫学と公衆衛生	○			2			1			72	松村
	保健統計学演習		○		1			1			72	松村
	社会保障論	○			1							
	医療関係法規	○			2							
国際保健論		○		1								
専門科目	看護学原論Ⅰ(ヒューマンケアの基本)	○			1			2			97	佐々木か、齊藤
	看護学原論Ⅱ(看護提供のしくみと活動領域)	○			1			1			92	佐々木か
	対象理解と看護	○			1			1			92	佐々木か
	人間関係形成論	○			1					1	72	中原
	教育支援技術論	○			1					1	65	小泉
	看護過程演習		○		1			1			92	三木
	ヘルスアセスメント	○			2			1			72	上星
	早期体験実習			○	1			1			97	浅井
	ヘルスカウンセリング	○				2		1				
	基礎看護技術Ⅰ(基本技術)		○		2			3			97	佐々木、三木、浅井
	基礎看護技術Ⅱ(治療過程支援技術)		○		2			3			92	佐々木、上星、三木、浅井
	基礎看護学実習Ⅰ(日常生活支援技術)			○	1			2			92	上星、三木
	基礎看護学実習Ⅱ(治療過程支援技術)			○	2			2			72	上星、三木
	家族看護論	○			1							
母子看護学概論	○			1			2			72	今関、加国	
母性看護学方法		○		2			1			72	石沢	

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
専門科目	小児看護学方法		○		2			2			72	加固、内山	
	母性看護学実習			○	2			1			66	石沢	
	小児看護学実習			○	2			1			66	内山	
	成人看護学概論	○			1			1			72	瀬戸	
	成人看護学方法Ⅰ(慢性疾患・がん看護方法)		○		2			1			72	佐藤	
	成人看護学実習Ⅰ(慢性疾患・がん看護実習)			○	3			2			66	佐藤	
	成人看護学方法Ⅱ(周術期看護方法)		○		2			1			72	松田、廣瀬、中西	
	成人看護学実習Ⅱ(周術期看護実習)			○	3			2			66	林	
	クリティカルケア論	○				1							
	セルフケア論	○				1		1			60	佐藤	
	精神看護学概論	○			1			1			72	田邊	
	精神看護学方法		○		1			1			72	田邊	
	精神看護学実習			○	2			1			66	田邊	
	高齢期看護学概論	○			1			1			72	清水千	
	高齢期看護学方法		○		2			1			72	清水千	
	高齢期看護学実習			○	2			2			66	西沢	
	終末期看護(緩和ケア)論	○				1				1	50	櫻井	
	地域看護体制と看護学機能論		○		1			1			66	飯島	
	健康保持増進と障害予防支援	○			2			1			72	飯島	
	地域看護学実習			○	3			2			66	高橋美、丸岡	
	在宅看護学方法		○		1			2			72	高橋美、丸岡	
	在宅看護学実習			○	2			2			66	高橋美、丸岡	
	産業保健	○			1						66	片岡	
	学校保健Ⅰ(学校保健の概要)	○			1			1			65	鎌田	
	学校保健Ⅱ(学校保健の研究と展望)	○				1		1					
	チーム看護論	○			2			1			92	島崎	
	異文化コミュニケーション演習		○			2				1	41	幌岩、島田	
	医療安全管理	○			1					1	72	監物	
	感染管理	○			1								
	看護行政と管理	○			1								
看護倫理	○			2			1			72	今関		
災害看護論	○			1									
小児救急看護論	○				1								

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	国際看護論	○			1							
	看護管理システム論	○			1							
	卒業研究		○		3			16				
教職科目	現代教職論	○					2	1			26	熊谷
	教育心理学	○					2	1			26	渡辺敏
	教育課程論	○					2	1			36	熊谷
	教育方法論	○					1	1			33	
	生徒指導論	○					2			1	33	伊東
	道徳教育及び特別活動の研究	○					1					
	教育相談論	○					2	1				
	総合演習		○				2	1		1	36	松原、橋爪
	養護実習			○			4	1				
	教育実習事前事後指導		○				1	1				

医療保健学部栄養学科 教育課程

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
学部共通科目 (教養科目)	哲学・倫理学	○				2						
	心理学	○				2			1		57	亀岡
	教育原論	○				2			1		43	熊谷
	法学	○				2			1		34	松原
	日本国憲法	○				2			1		42	松原
	国際文化論	○				2						
	家族関係論	○				2		1			11	笹澤
	スポーツ科学Ⅰ(レクリエーションとしてのスポーツ)			○		1				1	54	中澤
	スポーツ科学Ⅱ(トレーニングの方法)			○		1				1	42	中澤
	環境論	○				2						
	人間発達学	○				2			1		56	齊藤
	物理学	○				2				1	38	柁沢
	生物学	○				2		1			61	荒井
	化学	○				2		1			61	小林

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
学部共通科目 (教養科目)	生活とデザイン	○				2						
	地域社会学	○				2						
	人間工学	○				2				1	25	浅川
	コミュニケーション論		○		1			1			61	笹澤
	基礎英語Ⅰ(Listening & Reading)		○		1			1			61	野中
	基礎英語Ⅱ(Speaking & Writing)		○		1			1			54	野中
	実践英会話		○			1		1			44	野中
	医療保健英語		○			1			1		4	松本恭
	英書講読		○			1		1			4	野中
	中国語		○			1				1	21	佐々木百
	スペイン語		○			1				1	37	関口
	ポルトガル語		○			1				1	20	伊勢島
	統計学		○			1		1			61	石井
	情報処理基礎演習		○			1		1			61	石井
	情報処理応用演習		○			1		1			46	石井
文献検索とクリティーク		○			1		1			6	石井	
専門基礎科目	医療保健福祉行政論	○			2			1			54	田島、笹澤、飯島
	地域保健福祉論	○				1		1			50	笹澤
	チーム医療論		○			1			3		31	今関、加藤、丸岡
	生命科学	○				1						
	行動科学	○				1						
	合同臨地実習			○	1							
	管理栄養士活動論	○			2			1			61	笠原
	生物有機化学	○			2			1			54	浜名
	医療保健統計学	○			2				1		52	松村
	食文化論	○			2			1			54	松本伸
	コーチング	○			2			1			52	笠原
	公衆衛生学	○			2				1		52	松村
	健康管理概論	○			2			1			61	岸
	解剖生理学Ⅰ(人体の組成や器官の構造と生理機能)	○			2			1			61	今関信
	解剖生理学Ⅱ(形成機構・恒常性維持機構)	○			2			1			54	今関信
解剖生理学実験Ⅰ(人体の構造の観察・計測)			○	1			1			54	今関信	
解剖生理学実験Ⅱ(人体の生理の観察・測定)			○	1			1			52	今関信	

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
専門基礎科目	生化学Ⅰ(基礎生化学)	○			2			1			61	小林	
	生化学Ⅱ(栄養生化学)	○			2			1			54	小林	
	生化学実験Ⅰ(基礎生化学実験)			○	1			1			54	小林	
	生化学実験Ⅱ(栄養生化学実験)			○	1			1			52	小林	
	免疫学(生体防御を含む)	○			2			1			52	多田限	
	病理学(感染症を含む)	○			2			1			31	清水	
	病理学実験			○	1			1			31	今関信	
	臨床医学概論	○			2								
	食品学総論	○			1			1			61	荒井	
	食品学各論(食品機能論を含む)	○			2			1			54	荒井	
	食品加工学	○			1			1			54	荒井	
	食品学実験Ⅰ(食品学総論実験)			○	1			1			54	荒井	
	食品学実験Ⅱ(食品学各論実験、食品加工実験を含む)			○	1			1			52	荒井	
	食品衛生学	○			2					1	52	高橋淳	
	食品衛生学実験			○	1					1	52	高橋淳	
	調理科学	○			2			1			61	松本仲	
	調理学実習Ⅰ(調理の基本技術と理論)			○	1			1			61	松本仲	
	調理学実習Ⅱ(食品の調理性と調理手法)			○	1			1			54	松本仲	
専門科目	基礎栄養学	○			2			1			54	柴	
	基礎栄養学実験			○	1			1			52	柴	
	応用栄養学	○			2					1	52	渡邊	
	ライフステージ栄養学Ⅰ(母性・乳幼児・学童)	○			2					1	52	渡邊	
	ライフステージ栄養学Ⅱ(思春期・成人期・高齢期)	○			2					1	31	渡邊	
	ライフステージ栄養学実習			○	1					1	31	渡邊	
	栄養教育論Ⅰ(栄養士活動の歴史とその実際)	○			2			1			52	笠原	
	栄養教育論Ⅱ(予防医学と栄養教育の理論と技術)	○			2			1			52	笠原	
	栄養教育論実習Ⅰ(個人を対象にした栄養教育)			○	1			1			31	笠原	
	栄養教育論実習Ⅱ(集団栄養教育)			○	1			1			31	笠原	
	ニュートリションコーチング	○			2								
	臨床栄養学Ⅰ(栄養アセスメント・栄養ケア)	○			2			1			52	井上	
	臨床栄養学Ⅱ(栄養マネジメント)	○			2			1			31	清水	
	臨床栄養学Ⅲ(臨床栄養活動論)	○			2			2			31	清水	
	臨床栄養学実習Ⅰ(臨床栄養学学内実習)			○	1			1			31	中山	

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	栄 養 療 法 論	○			2			1			52	中山
	栄 養 療 法 論 実 習			○	1			1			31	中山
	公 衆 栄 養 学	○			2			1			52	高橋東
	公衆栄養学実習Ⅰ(公衆栄養学学内実習)			○	1			1			31	高橋東
	地 域 栄 養 活 動 論	○			1			1			31	高橋東
	地 域 栄 養 活 動 論 実 習			○	1							
	地 域 栄 養 ア セ ス メ ン ト	○			1			1			52	高橋東
	給 食 計 画 論	○			1			1			52	羽場
	大 量 調 理 論	○			1			1			52	羽場
	給 食 経 営 管 理 論	○			2			1			52	羽場
	給食経営管理論実習Ⅰ(給食経営管理学内実習)			○	1			1			52	羽場
	管理栄養士給食演習Ⅰ(臨地実習事前事後指導)		○		1			1			31	羽場
	管理栄養士給食演習Ⅱ(管理栄養士としての総合的能力の養成)		○		1							
	給食経営管理論実習Ⅱ(学校・事業所)			○	1			1			31	羽場
	臨床栄養学実習Ⅱ(病院等、給食の運営を含む)			○	2							
	公衆栄養学実習Ⅱ(保健所・保健センター等)			○	1			1			31	高橋東
	特別演習Ⅰ(専門基礎科目の定着)		○			1		1			31	小林
	特別演習Ⅱ(履修済科目の復習・強化)		○			1		1			31	中山
	特別演習Ⅲ(専門分野の応用力養成)		○			1						
	特別演習Ⅳ(統合とまとめ)		○			1						
	卒 業 研 究		○			4						
	薬 理 学	○				2						
	食 品 バ イ オ テ ク ノ ロ ジ ー	○				2				1	19	高橋淳
	調 理 科 学 実 験			○		1		1			22	松本仲
	調理学実習Ⅲ(世界の料理と調理手法)			○		1						
	健 康 ス ポ ー ツ 栄 養 学	○				2						
	食 事 介 護 論	○				2						
	栄 養 教 諭 論	○				2					11	笠原
学 校 食 育 指 導 論	○				2					19	笠原	
クックチルシステム概論演習		○			1		16			11	小場	
フ ー ド ス ペ シ ャ リ ス ト 論	○				2		1			40	中村	
フ ー ド マ ー ケ テ ィ ン グ 論	○				2		1			3	飯島	
フ ー ド コ ー デ ィ ネ ー ト 論	○				2		1					

科目区分	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	教員名
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教職科目	現代教職論	○					2	1			23	熊谷
	教育心理学	○					2	1			23	渡辺敏
	教育課程論	○					2	1			11	熊谷
	教育方法論	○					1	1			8	
	生徒指導論	○					2			1	8	伊東
	道徳教育及び特別活動の研究	○					1					
	教育相談論	○					2					
	総合演習		○				2	1		1	10	松原、橋爪
	栄養教育実習			○			4					
	教育実習事前事後指導		○				1					

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について。

1. 教養教育の取組み

教養科目は学部共通科目として位置づけ、保健・医療分野における「人間の理解」の考え方を基本とし、実践的な専門的職業人としての資質を養うため、看護学科・栄養学科の枠を超えて共通に求められる知識を得るとともに豊かな人間性の確立と情報化・国際化の進む社会に的確に対応できる能力を養うことを目的とする科目で構成している。両学科に属する専任教員が数多く配置されており、約3分の2の科目を担当している。そのため、専門教育との関連性、個々の学生への配慮等において、効果的な教養教育が実践できている。

2. 学部共通専門基礎科目

保健・医療及び食育・健康などに関わる「人間の理解」と地域・行政との関わりを修得するため、「医療保健共通科目」を設定している。

3. 医療保健学部看護学科の専門基礎科目及び専門科目

専門教育については、保健師及び看護師学校の指定規則の範囲内での教育課程であるが、現代社会が抱えている健康・医療・福祉等のさまざまな問題に対応し、地域社会で実践的に対応できるようにするため、また看護の対象である人間を理解するための科目を数多く配している。また、近年の医療現場で重要な課題となっている感染予防・医療安全に関する理解を強化するための科目や国際的視野で健康問題を考える視点を養う科目も配置されている。専門の各領域のほとんどに専任教員を複数人配置しており、学生に対するきめ細やかな指導を実践している。

4. 医療保健学部栄養学科の専門基礎科目及び専門科目

専門教育については、看護学科と同様、管理栄養士学校指定規則の制約を強く受けるが、管理栄養士として活動する上で不可欠な基本的知識を修得することを目的とした「栄養学科基礎科目」を設けている。また医療現場に強い管理栄養士を養成するため、知識・技能などの総合的な能力に加え、コミュニケーション能力、マネジメント能力を養うのに適した科目、また食に対する多様なニーズに対応できる知識・技術を身につけるための科目、実践活動を通して課題発見能力や問題解決能力を養うための科目を配置している。当学科も、専門の各領域のほとんどに専任教員を配しており、学生ひとりひとりに適した指導が実践できる体制をとっている。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

1. 医療保健学部看護学科

教育課程で取得が可能な免許・資格

看護師国家試験受験資格・保健師国家試験受験資格・養護教諭一種・二種

2. 医療保健学部栄養学科

教育課程で取得が可能な免許・資格

管理栄養士国家試験受験資格・栄養士・栄養教諭一種・二種

(4) 選択科目についての、学生便覧やガイダンス等での指導状況、時間割上の工夫

「学生ハンドブック」および「履修の手引き」に科目の履修方法についての手順を載せている。前・後期開始時のクラス別オリエンテーションで、これらに加えて、「履修登録票（マークシート）」および「時間割コード表」「シラバス」を配布し、クラス担任から具体的な登録の手順・方法を説明している。

選択科目同士が重複することがないように時間割を編成しているため、学生はすべての選択科目を履修登録することは可能である。学生には、学科の教育目標・目的との関係で、自分の希望だけでなく、身につけるべき能力に応じ、選択科目を活用するように指導している。したがって、とりわけ履修しやすくするような時間割上の配慮・工夫は施していない。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件及び学生への周知方法。

1. 卒業要件単位数

① 医療保健学部看護学科

区分	必修	選択	合計
学部共通科目	4	20	24
専門基礎科目	25	5	102
専門科目	72		
合計	101	25	126

② 医療保健学部栄養学科

区 分	必 修	選 択	合 計
学部共通科目	4	20	24
専門基礎科目	49	8	102
専 門 科 目	45		
合 計	98	28	126

卒業及び修了について、学納金の納付等を直接の要件としている規定は学則上ないが、学則第30条第1号において、「学費等の納入を怠り督促してもなお納付しない者」は「当該学部の教授会の議を経て学長が除籍する」と規定しているため、学納金の納付等が卒業のための実質的な要件の一つとなっている。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状

1. 医療保健学部看護学科

平成21年度には、保健師助産師看護師学校指定規則の改正にともなう教育課程の改訂を実施した。平成23年度が完成年度であるため、教育課程のすべてを実施していないので、その評価を実施することは不可能であるため、平成21年度は法令が要求する最低限度の改訂にとどめた。

平成23年度で4年生までのすべてのカリキュラムを実施することになるため、教務委員会および学科分科会(学科カリキュラム委員会)において、平成24年度以降の教育課程の改訂に向けた検討を実施している。平成22年度には、保健所実習の受け入れ枠が群馬県から示されたため、保健師養成について選択制にする方向で、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を考慮しながら、教育課程の改訂について検討を行っている。

2. 医療保健学部栄養学科

教育課程が一巡した後の平成24年度以降の教育課程の改訂に向けて、教務委員会および学科分科会において、検討を実施している。当該年度の各授業科目の実施状況を精査し、管理栄養士学校指定規則における要件、管理栄養士国家試験出題基準との関係、管理栄養士・栄養士が活躍する現場におけるニーズ・動向を考慮に入れて、検討を行っている。

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していること・学生への周知方法等。

シラバスについては、学年当初のオリエンテーション時にファイルとともに学科・学年毎に該当する教科についてのみ配布し、その際に履修登録の参考にするように指導している。そのため、冊子の形はとらず、(新入生についてはまとめるためのファイルと一緒に)該当教科分のシラバスを各自に配布している。なお、すべてのシラバスを

学内専用サイトに掲載しているため、学生はすべての教科について閲覧することができる。この措置は、必要な情報の提供と不要な印刷物の削減とのバランスを考慮した結果である。なお、印刷物の低減は、桐生大学・短期大学部等が認証を受けているIS014001の学校全体の環境目標の一つでもある。

シラバスのフォームについては、学生に対して、すべての科目についての必要な情報を提供するため、下記のような様式に統一している。

【シラバス様式（15回授業用）】

平成22年度 シラバス

科目名	担当者		学科	開講期
区分	単位 (時間)		学年	曜日 時間
授業の概要				
学習目的				
学習目標				
授業計画				
回	主 題	授 業 内 容		備考
第1回				
第2回				
第3回				
第4回				
第5回				
第6回				
第7回				
第8回				
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				
教科書				
参考書				
成績評価	単位認定 60 点以上			
履修のポイント				
オフィス・アワー				

桐生大学

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等

1. 医療保健学部看護学科

これまで開講された専門基礎科目及び専門科目については、ほとんどが保健師及び看護師養成に係る科目であるため、必修科目である。さらに、本学では一定数の欠席があった場合には、成績被評価資格を失い、結果として単位修得が出来なくなる。したがって、専門基礎科目及び専門科目のほとんどすべての科目について、出席状況は良好であり、学生の修学意欲も強いと感じている。

学部共通科目（教養科目）については、卒業要件単位数の2倍程度の授業科目が開講されているが、ほとんどの科目について、在籍者の半数以上の履修があり、かなりの程度の学生が単位修得をしている。また「心理学」「人間発達学」「生物学」など、学生が専門基礎科目及び専門科目との関係が大きいと考えている科目について、履修者が多くなっている。学生は、履修指導を参考にして、よく考えて選択した結果であると思われる。教養科目についての修学意欲も強いと考える。

2. 医療保健学部栄養学科

看護学科同様、これまで開講された専門基礎科目及び専門科目については、ほとんどが管理栄養士養成に係る科目であるため、必修科目である。学生の出席率は高く、またほとんどの学生は単位修得している。修学意欲も高いと考える。

学部共通科目（教養科目）については、これまで開講された授業科目の半数以上について、ほぼ全員が履修している。それらの科目の多くは、今後学修する専門基礎科目及び専門科目に直接の関わりの大きい「統計学」「生物学」「化学」などであり、履修指導をよく吟味して、学生は履修していると考えられる。それ以外の教養科目の履修も比較的多く、学生は教養教育への修学意欲が高いと考えられる。

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価の概要

学生による授業評価については、下記のような様式・内容の評価を実施している。質問項目は10に限定し、内容は「学生自身について」、「教員について」、「教科について」の3領域にわたって評価するようにした。最終授業時の最終時間5分程度を利用して、担当者自身が下記のようなマークカードを配布して評価を行う。無記名で実施し、また教員から中が見えないような「提出ボックス」に学生が直接カードを入れる等、カードから学生の特定ができないような配慮をし、教員の影響を受けない評価ができるよう配慮している。

平成21年度後期から授業形態に応じて、講義・演習科目用、実験・実習・実技科目用、臨地実習科目用の3パターンの授業評価を実施しており、より実態に即した評価ができるよう配慮している。

【学生による授業評価アンケート用紙】

(講義・演習科目用)

(実験・実習・実技科目用)

授業評価アンケート 必ずHBの黒鉛筆でマークしてください。折り曲げないでください。

良い例 悪い例

このアンケートは今後の授業改善に役立てるために活用しますので、あなたがどう感じたか率直に慎重な授業評価をしてください。回答内容は成績に無関係であり、あなたに不利益になることはありません。各質問に対しては、5段階評価となっていますので自分の評価に対する番号をマークしてください。

授業科目名	
担当教員名	

科目コード	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

【授業への取り組みについての自己評価】

1. この授業にどの程度準備をして(予習復習、シラバスを読む、等)臨んでいますか。準備の度合いを5段階で評価してください。

←不十分 → 十分
① ② ③ ④ ⑤

2. この授業に対する、あなたの取り組みを5段階で評価してください。

←低い → 高い
① ② ③ ④ ⑤

【授業内容・方法の評価】

3. 講義概要(シラバス)に沿って授業が行われていますか。

←いない → いる
① ② ③ ④ ⑤

4. この授業の教材(テキスト、資料、視聴覚教材、等)は、よく準備されていると思いますか。

←思えない → 思えた
① ② ③ ④ ⑤

5. 教員の教授法(説明、話し方、板書、速度など全般)は適切ですか。

←不適切 → 適切
① ② ③ ④ ⑤

6. 教員は授業に集中できるように配慮している(私語の防止等)と思いますか。

←思えない → 思えた
① ② ③ ④ ⑤

7. 教員は学生に公平に接していると思いますか。

←思えない → 思えた
① ② ③ ④ ⑤

【授業の全般的印象】

8. 授業に対する教員の意欲や熱意を感じますか。

←感じない → 感じた
① ② ③ ④ ⑤

9. この授業を受けてこの分野への学習意欲がわきましたか。

←わかない → わいた
① ② ③ ④ ⑤

10. 授業の満足度を5段階で評価してください。

←不満足 → 満足
① ② ③ ④ ⑤

※この授業について、よかった点や改善してほしい点等をこの用紙の裏面に記入してください。

桐生大学 K12018

授業評価アンケート 必ずHBの黒鉛筆でマークしてください。折り曲げないでください。

良い例 悪い例

このアンケートは今後の授業改善に役立てるために活用しますので、あなたがどう感じたか率直に慎重な授業評価をしてください。回答内容は成績に無関係であり、あなたに不利益になることはありません。各質問に対しては、5段階評価となっていますので自分の評価に対する番号をマークしてください。

授業科目名	
担当教員名	

科目コード	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

【授業への取り組みについての自己評価】

Q1. この授業にどの程度準備をして臨んでいますか。準備の度合いを5段階で評価してください。

←不十分 → 十分
① ② ③ ④ ⑤

Q2. この授業に対する、あなたの取り組みを5段階で評価してください(最高5点、最低1点)。

←低い → 高い
① ② ③ ④ ⑤

【授業内容・方法の評価】

Q3. この授業は、シラバスや学生の理解度を考慮しながら進められていましたか。

←いない → いた
① ② ③ ④ ⑤

Q4. この授業は、十分に準備されていたと思いますか。

←思えない → 思えた
① ② ③ ④ ⑤

Q5. 教員の説明・デモンストレーションはわかりやすかったですか。

←わかりにくい → わかりやすかった
① ② ③ ④ ⑤

Q6. 教員は授業に集中できるように配慮していると思いますか。

←思えない → 思えた
① ② ③ ④ ⑤

Q7. 教員は学生に公平に接していると思いますか。

←思えない → 思えた
① ② ③ ④ ⑤

【授業の全般的印象】

Q8. 授業に対する教員の意欲や熱意を感じましたか。

←感じない → 感じた
① ② ③ ④ ⑤

Q9. この授業を受けてこの分野への学習意欲がわきましたか。

←わかない → わいた
① ② ③ ④ ⑤

Q10. 授業の満足度を5段階で評価してください(最高5点、最低1点)。

←不満足 → 満足
① ② ③ ④ ⑤

※この授業について、よかった点や改善してほしい点等をこの用紙の裏面に記入してください。

桐生大学 K59738

(臨地実習用)

授業評価アンケート 必ずH Bの黒鉛筆でマークしてください。
折り返さないでください。

【臨地実習】 良い例 悪い例

このアンケートは今後の授業改善に役立てるために活用しますので、あなたがどう感じたか率直に慎重な授業評価をしてください。回答内容は成績に無関係であり、あなたに不利益になることはありません。各質問に対しては、5段階評価となっていますので自分の評価に対する番号をマークしてください。

授業 科目名	
担当 教員名	

科目 コード	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

【実習への取り組みについての自己評価】

Q1. この実習にどの程度準備(関連する教科の復習や注意事項の確認等)して臨みましたか。準備の度合いを5段階で評価してください。

←不十分 → 十分
① ② ③ ④ ⑤

Q2. この実習に対する、あなたの取り組みを5段階で評価してください(最高5点、最低1点)。

←低い → 高い
① ② ③ ④ ⑤

【実習内容・方法の評価】

Q3. 指導内容は、一貫性がありましたか。

←ない → あった
① ② ③ ④ ⑤

Q4. 説明は、具体的でわかりやすかったですか。

←わかりにくい → わかりやすかった
① ② ③ ④ ⑤

Q5. 実習生の質問に、的確に答えましたか。

←いない → いた
① ② ③ ④ ⑤

Q6. 課題・提出物の量や期限は適切でしたか。

←不適切 → 適切
① ② ③ ④ ⑤

Q7. 事前・事後指導は、十分に役立ちましたか。

←役立たない → 役立った
① ② ③ ④ ⑤

【実習の全般的印象】

Q8. 実習に対する指導者の意欲や熱意を感じましたか。

←感じない → 感じた
① ② ③ ④ ⑤

Q9. 教員と実習生間のコミュニケーションはよかったですか。

←よくない → よかった
① ② ③ ④ ⑤

Q10. 実習の満足度を5段階で評価してください(最高5点、最低1点)。

←不満足 → 満足
① ② ③ ④ ⑤

*この実習において、改善点があると考える方は、希望を裏面に記載してください。実習評価は、よりよい実習が実施されるための重要な参考資料です。是非、記載してください。

桐生大学 K55908

(2) 大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取り組み状況と現状への認識

桐生大学短期大学部と合同のFD委員会を設けて、授業改善のための取り組みを検討し、それを実施に移している。具体的には、学生による授業評価内容の検討、授業評価結果の公開とその検討、大学・短大での専任教員歴3年未満の教職員に対する研修会の実施(短期大学部と合同)、公開授業とその検討会(大学と合同)等を実施している。平成22年度については、2週間の授業公開期間にすべての授業を公開することとし、また外部講師を招いて、大学を取り巻く状況の変化についての理解および授業改善のための方策の研修をすることを主たる目的としたFD研修会を実施した。

学生による授業評価結果については、学科によって多少の差はあるが、さまざまな評価項目について、平均値である3を超えている科目が多いこと、また評価結果が改善の方向にある教員が多いこと、などの結果から、これまでの授業改善の取り組みの

方向は間違っていないと考えている。

昨年度以前から課題として残っているのは、桐生大学の専任教員以外の兼任教員への授業改善への働きかけがあげられる。教員が一同に会することは難しいが、専任教員に配布していると同様の資料等を使ってFD委員や学科長と検討する場をもったり、公開授業への参加促進などを通じて、FDへの啓発に努めていくことが必要であると受け止めている。また、さらなる教育能力向上のためには、現状に留まることなく、教育課程・教育方法等の個別のテーマに関するFD研修会、公開授業の継続等に努めていくことが必要であると受け止めている。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について

両学科ともに、効果的な指導を実践し、また学生に満足をもたらす教育の実施するために、学科連絡会議において、所属の専任教員間で意思疎通を図っている。それに加えて、専門分野が近い教員やオムニバスで同じ教科を担当している教員間では、次年度にむけてシラバスを作成する前に、協議を行い、その結果、授業内容や教科書の選定を行っている。

兼任教員と専任教員が一同に会した連絡会議等は実施できていないが、兼任教員とは、教務課・総務課との事務的な打ち合わせだけでなく、両学科長および担当分野の近い専任教員と直接打ち合わせることで、兼任教員であっても、担当科目の教育課程における位置づけ、学部・学科の教育目標・教育目的は十分に理解されていると考えている。

《Ⅲ 教育の実施体制》

【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数

医療保健学部 看護学科、栄養学科 専任教員表

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
看護学科	10	2	11	2	25	12(6)	—	8		保健衛生関係
栄養学科	8	2	8	1	19	10(5)	—	5		家政関係
(小計)	18	4	19	3	44	22(11)	—	13		
〔ロ〕						—	10(5)			
(合計)	18	4	19	6	44	22(11)	10(5)			

(2) 教員の採用、昇任状況

教員の採用については、「桐生大学・桐生大学短期大学部教員採用規程」に定める基準に従い、「学校法人桐丘学園組織事務分掌規程」の第3条で定める教育職員につき、採用を行う。教員の採用・昇任については「桐生大学・桐生大学短期大学部教員資格審査委員会規程」に基づき行われている。採用・昇任手続きは、「教員任用昇格に関する内規」に定めるものにより、次のような手続きで実施される。まず、候補者となる教員の所属学科長からの推薦に基づき、学長が教員資格審査委員会へ諮問を行い、審査委員会が「教員資格審査委員会規程」に基づき、審査を実施する。昇任が可決された教員については、学長から理事長に具申し、理事長の承認により、昇任が決定する。採用にあたって、所属学科長の推薦に至る手続きについては、規定が存しないが、原則として広く公募の上、採用することとしている。

なお、平成23年度までの採用については、原則として大学設置審査会への「教員変更手続」を経なければならないため、欠員のあった分野について、公募の上、所属学科長からの推薦および学長・理事長の承認により、大学設置審査会へ教員審査を提出することとし、教員審査で「可」とされた教員については、大学運営評議会の承認を経て、理事長により採用とされる。

(3) 教員の年齢構成

専任教員等の年齢構成表（看護学科）

区分	年齢ごとの専任教員数（助教以上）							助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢		
合計人数 (25人)	3	5	8	9	—	—	55.8	38.1	
割合	12.0%	20.0%	32.0%	36.0%	—	—			

専任教員等の年齢構成表（栄養学科）

区分	年齢ごとの専任教員数（助教以上）							助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢		
合計人数 (20人)	3	1	6	6	3	—	51.7	32.0	
割合	15.8%	5.3%	31.6%	31.6%	15.8%	—			

(4) 専任教員の業務への取り組み状況。また当該年度の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の業務概要。

専任教員の当該年度の平均担当コマ数は下の表のとおりである。

学 科	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
看 護 学 科	7.0	4.7	5.5
栄 養 学 科	5.7	5.0	6.5
全 学 科	6.4	4.9	5.8

※ 1 週間当たり時間数(45 分 1 コマ)

全体的所見

専任教員は、全学科において、授業、研究、学生指導、その他の教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいる。

(a) 授業

看護学科の教員については、平成 20 年度については、短期大学部 2 年生の授業を兼任教員として担当していたため、授業時間数が多くなっていたが、平成 21 年度については、看護学科所属教員は主に学部 1・2 年生の学内での授業を担当することが多く、短期大学部 3 年生の学外実習を担当するのは、短期大学看護学科所属の教員であったことと、平成 21 年度から就任の教員が学部の授業を分担したため、各人の週当たりの担当時間数は大幅に減少し、余裕を持った運営となっている。平成 22 年度は、多くの教員が看護学科 1~3 年生を対象とした専任として授業科目を担当している。若干 1 週間当たりの平均担当時間数が増えてはいるが、それでもまだ余裕を持った授業運営ができています。

栄養学科所属の教員については、平成 20 年度は、兼任で短期大学部生活科学科を担当している教員が多かったため、時間数が多かった。短期大学部は平成 20 年度 2 年生までは、定員 80 名で 2 クラス(40 名 1 クラス)の授業を行っていたが、平成 21 年度 1・2 年生については、定員 40 名 1 クラスの授業となったため、兼任教員の 1 コマ当たりと時間数が減少した。さらに前年度科目を持っていなかった専門科目担当の教員が 2 年生の科目を担当するようになったため、個々の専任教員の授業科目における負担は、広くうすいものとなり、こちらも余裕を持った運営となっている。平成 22 年度になって、3 年生の科目が純増したため、1 週間当たりの平均担当時間数が 1.5 時間増加している。専門科目については、専任教員が授業担当者となっている場合が多いので、こうした増加につながったのであるが、それまでは担当コマ数の少なかった教員の担当時間数が増加したものであり、予定通りの増加である。個々の教員にとって、授業負担は、それほど大きなものとはなっていない。

(b) 研究

看護学科については、紀要を中心とした論文等の発表だけでなく、看護系の学会および衛生関係・教育関係等の学会での活躍が見受けられる。栄養学科についても、同様に、紀要を中心とした論文等の発表だけでなく、家政系・衛生関係等の学会にかな

りの教員が参加・発表をしている。

(c) 学生指導

本学は、クラス担任制をとっており、各学科各学年に1名ずつ教員を担任として配している。また、副担任として、助手・副手等がそれをサポートしている。学生指導は、履修指導、出席・学習の取り組みへの指導、就職指導など、学習、生活、進路まで多岐に及んでいる。学生が登学する日については、担任・副担任、場合によっては学科長がつねに学生サポートをできる体制をとっている。

(d) その他の教育研究上の業務

本学には、短期大学部と合同の組織として、学生支援センター、地域連携センター、メディア情報センター、ウェルネスセンターを設置している。学生支援センター・ウェルネスセンターは学生の福利厚生を担当しているが、大学学部の学科を含む全学科の教員が業務分担をしている。また、地域連携センターは、近隣の桐生市・みどり市を中心に地域連携事業を実施している。ここでも学部所属の教員は活躍し、一定の役割を果たしている。メディア情報センターは、学内の情報機器の保守・管理・セキュリティ等を担当しているが、ここでも情報機器を利用する教員を中心に学部所属の教員が一定の役割を果たしている。

その他にも、教授会の下に設置されている各種委員会に各教員が配置され、活動している。複数の委員会に所属する教員もいるが、それぞれが積極的に役割を果たしている。

(5) 助手、副手、補助教員、技術職員等の配置状況、また助手等が教育研究活動等の状況。

助手については、看護学科は8名、栄養学科については5名を配置している。

看護学科については、平成22年度からは、看護学科1～3年生の学外実習の助手として、指導にあたっている。

栄養学科は1学年の定員が60名であり、十分な配置であるが、これは同時に管理栄養士学校指定規則により、求められている要件を満たしてもいる。

教育研究活動に関しては、演習・実習形態の授業における補助として、多い助手でも週6コマ程度であり、適正な配置であると考えられる。

助手等の研究活動については、看護学科においては、専任教員との共同研究を行っているが、学会発表、論文発表についてはあまり活発でない。栄養学科においては、専任教員との共同で研究を行い、学会発表、論文発表についても意欲的である。

【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表

校地・校舎一覧表

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

区分	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
桐生大学	600 人	8,924.00 m ²	14,986.68 m ²	6,062.68 m ²	6,000.00 m ²	33,407.37 m ²	27,407.37 m ²
桐生大学短期大学部	200 人	3,650.00 m ²	7,961.81 m ²	4,311.81 m ²	2,000.00 m ²	26,382.50 m ²	24,382.50 m ²

※ 校舎の現有面積は、それぞれ共用部分 6,296.18 m²を含む
校地の現有面積は、それぞれ共用部分 24,716.87 m²を含む

桐生大学短期大学部基準校舎面積＝家政関係 2,000 m²(別表第 2 イ) + 美術関係 1,650 m²(別表第 2 ロ)
桐生大学短期大学部基準校地面積＝200 人 × 10 m²
桐生大学基準校舎面積＝家政関係 4,263.6 m²(別表第 3 イ) + 保健衛生学関係(看護学関係) 4,660.4 m²(別表第 3 イ)
桐生大学基準校地面積＝600 人 × 10 m²

(2) 校地・校舎について、他の学校等との共有部分とその措置

校地・校舎について医療保健学部が短期大学部と共用しているのは、教室等においては、講義室、コンピュータ演習室、語学演習室、理化学実験室、等である。講義室は十分な室数があるので、教育研究上の配慮をする必要は認められていない。コンピュータ演習室は 3 室、語学演習室は 2 室を備えるが、同一時間帯にこれらの部屋を使用する科目が重複することのないように時間割上の配慮をしているため、教育研究上の支障は生じていない。また、医療保健学部の栄養学科と短期大学部の生活科学科において理化学実験室と食品加工実習室を共用しているが、これも使用対象となる授業が限られており、時間割上で科目が重複することのないよう配慮しているため、教育研究上の支障は生じていない。

図書館も医療保健学部と短期大学部のそれぞれに所属する教員・学生が共用して使用している施設であるが、図書館本館及びそれに付随する閲覧室、さらに別の建物(9号館)に図書館分館及びそれに付随する閲覧室があり、十分な蔵書、閲覧・学習スペースが確保できるため、教育研究上の支障は認められていない。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について

看護学科の講義に使用している 10 号館及び栄養学科の講義に使用している 11 号館のすべての講義室ではプロジェクタとスクリーン、コンピュータを活用した授業ができる環境となっている。またホワイトボードやマイク(一部はワイヤレス)なども整備されており、さらに多くの教室ではビデオ映像を映し出すことも可能となっている。特に平成 21 年には、10 号館 3 階の講義室にあるプロジェクタ入れ替え、スクリーンを 100 インチにするなど学生の見やすさを改善した。また 11 号館給食経営管理実習室

にもプロジェクタやスクリーンなどを設置して、その場で学生のプレゼンテーションが行える環境を整えた。

これら教室の管理は教務課で、プロジェクタ、コンピュータ機器についてはメディア情報センターで管理をおこなっている。

コンピュータなどリース契約で整備している機器については、リース契約の満了に伴って入れ替えなどを計画している。その他の機器についても5年を一つの目安にして入れ替えを計画している。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について

看護学科の講義に使用している10号館及び栄養学科の講義に使用している11号館のすべての講義室ではプロジェクタとスクリーン、コンピュータを活用した授業ができる環境となっている。またホワイトボードやマイク（一部はワイヤレス）なども整備されており、さらに多くの教室ではビデオ映像を映し出すことも可能となっている。これら教室の管理は教務課で、プロジェクタ、コンピュータ機器についてはメディア情報センターで管理をおこなっている。

コンピュータなどリース契約で整備している機器については、リース契約の満了に伴って入れ替えなどを計画している。その他の機器についても5年を一つの目安にして入れ替えを計画している。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等

校地、校舎について、危険な箇所は、管理課による定期点検等で対応している。また、校舎内へは、学生の自動車の乗り入れは原則として禁止しており、また特別な許可車両以外は、正門右手側の駐車場以外に乗り入れられることはない。1階がレストランとなっている11号館および図書館がある2号館にはエレベーターが設けられ、障害者対応のトイレも設置されている。スポーツについて、学生は体育館を利用して授業やサークル活動を行っている。学生の休憩場所としては、11号館1階のレストラン等のスペース、9号館1階の試食スペースがある。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）について】

(1) 図書館等の概要について(全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等)

1. 図書館の配置図・座席数等

図書館は独立した2階建ての建物（本館：座席200席）と、3階建ての2階部分（分館：座席100席）から構成されており、目録検索コーナー、事務室、移動式書架を備えている。

大学開設時に本館(図1、2)を新設した。

図1 本館1階（2号館）

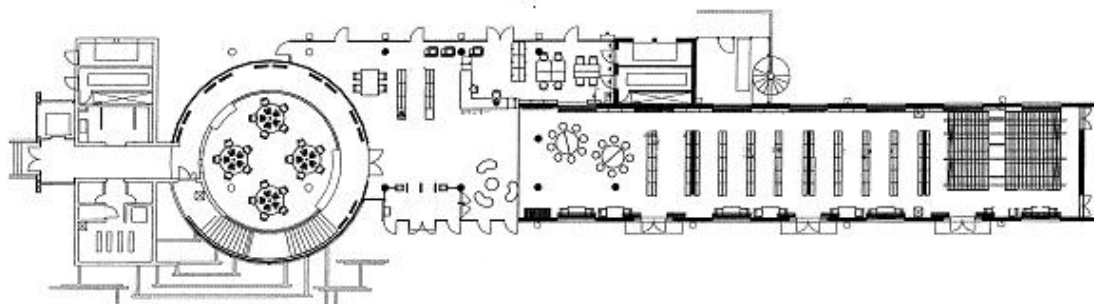


図2 本館2階（2号館）

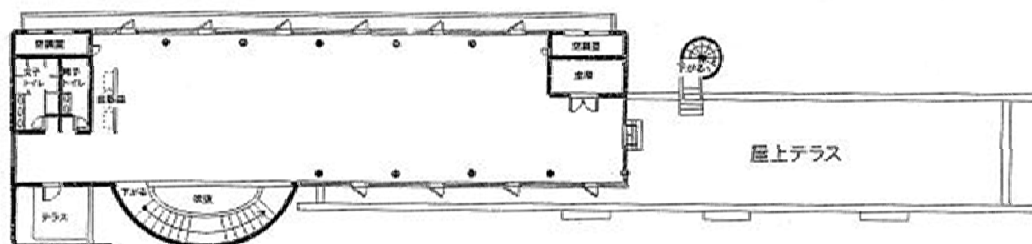
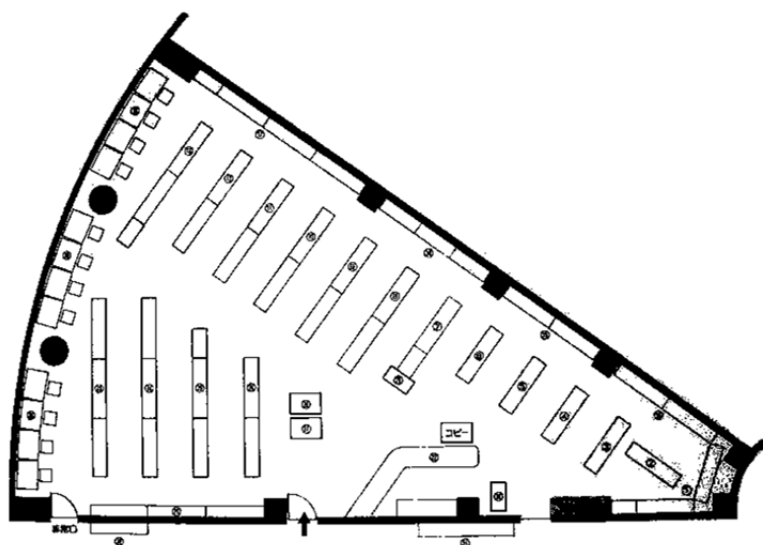


図3 分館（9号館）



2. 年間図書購入予算

学生数×5,000円を図書購入予算枠としている。

平成21年度の医療保健学部・短期大学部の全学生数は553名であることから、 $553 \times 5,000 = 2,765,000$ 円(前年比6.3%減)が予算となった。

平成21年度は、2,585,842円を使用した。

3. 図書選定システム

桐生大学・短期大学部図書館図書管理細則に基づき、一般図書、参考図書、専門図書及び視聴覚資料を選定し購入している。図書館が収集する図書の選定は、購入希望のあった下記に記すものについて、予算の有無等を考慮し、館長が行う。

1. 教職員が希望するもの
2. 学生が希望するもの
3. 図書館職員が希望するもの

年2回の締切り日を設け購入計画を行い、一括で購入する。その他、教員が個人の研究費で購入する図書については、研究図書として登録し、各研究室にて管理している。

4. 図書等廃棄システム

桐生大学・短期大学部図書館図書管理細則に基づき、下記の項目に該当する資料について、除籍、廃棄を行う。

1. 紛失確認後4年を経過したもの。
2. 破損、汚損、消耗等の度が甚だしく、補修不能と認められるもの。
3. 図書として利用価値を失ったと認められるもの。
4. その他、館長が除籍を適当と認めたもの。

また、一般大衆誌(流行ファッション誌等)については、バックナンバーを過去1年間保管し、それ以前については自動的に除籍を行う。除籍を行った資料に関しては、リサイクルコーナーに配置し、1ヶ月経過してもリサイクルコーナーに残ったものを廃棄する。

5. 司書数

図書館の司書数は2人である。

6. 情報化の進捗状況

平成20年度より、OPAC(Online Public Access Catalogue)によるインターネットからの蔵書検索が可能となっている。

また、学内LAN接続のPCより、各種データベース・電子ジャーナルを利用することが可能となっている。

(2) 図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等）。

図書館蔵書数一覧（平成23年5月1日現在）

和書	洋書	学術雑誌	AV資料
40, 451冊 (23, 256冊)	5, 337冊 (4, 122冊)	172種	1, 331点

※書籍の（ ）内は蔵書管理システム登録冊数

(3) 学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等の整備状況。また学生の図書館等の利用の現状。

1. 整備状況

本学の主たる教育分野の栄養学、芸術、看護学に関しては、蔵書数のほとんどを占めており（蔵書管理システムデータにおける）、問題なく整備されていると判断できる。

また医療保健学部（看護学科、栄養学科）、短期大学部（生活科学科、アート・デザイン科、専攻科）より選出された図書委員による図書委員会（図書館長が委員長）において、各学科の図書の選定について協議され、学科間の図書のバランスや講読雑誌等の見直しが行われている。

2. 図書館の利用状況

開館時間は9時00分～20時00分であり、授業を終えた学生や、実習を終えた学生にも余裕を持って利用できるよう配慮している。

また、学内LANに接続されている学生用パソコンを18台用意し、資料以外にも幅広いサービスを提供していることもあり、学生の活発な利用が見られた。平成22年度は平成21年度とほぼ同等の来館者数があった。貸出状況については、プリントアウトが無料のため、電子ジャーナルやウェブ上の情報等をプリントアウトして利用する傾向が増えてきているため、減少しているものと考えられる。

来館者数一覧

項目	平成22年度	平成21年度	平成20年度
来館者数（人）	28, 821	28, 195	25, 585

貸出状況一覧（図書／単位：冊）

貸与者	平成22年度	平成21年度	平成20年度
学生	4, 481	5, 204	5, 358
教職員	762	952	932
学外利用者	70	35	0

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について。

1. 情報発信

学内への情報発信は、図書館入り口の掲示板への掲示とウェブサイトの情報更新にて行っている。学外への情報発信は、桐生大学・桐生大学短期大学部図書館ウェブサイトの情報更新にて行っている。

2. 他の図書館との連携、相互利用活動等

本学は、群馬県大学図書館協議会に加盟しており、県内の大学図書館との協力体制が整っている。また、その協議会は団体会員として群馬県図書館協会に加盟しており、県内の公共、高等学校、小中学校、専門学校図書館との協力体制も整っている。また、NACSIS-I LLにも加入しており、全国の学術機関との相互利用体制も整っている。

3. その他の図書館活動について

図書館のサービスの周知のために、新入生への図書館利用についてのオリエンテーションを実施している。また、サービス向上の一環として、プリンタ、コピー機をリースにより導入している。

平成22年度より図書館だよりを発行し、新着図書の紹介や、あまり知られていないような図書館サービスの紹介を行い、利用者へ様々な情報の紹介を行っている。

また司書の研修に関しては図書館サービスに支障が無い限り大学図書館協議会主催のセミナーや活動に積極的に参加するよう奨励している。

《IV 教育目標の達成度と教育の効果》

【単位認定について】

(1) 単位認定の状況表

医療保健学部 看護学科の単位認定状況表

(平成20年度入学生)

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
						本試	追再試	計	A	B	C	D	
学部 共通科目 (教養科目)	哲学・倫理学	4	講義										
	心理学	1	講義	74	筆記	95%	0%	95%	86%	5%	3%	5%	
	教育原論	1	講義	69	筆記	94%	0%	94%	28%	26%	41%	6%	
	法学	1	講義	28	筆記・課題	96%	0%	96%	86%	11%	0%	4%	
	日本国憲法	1	講義	65	筆記・課題	86%	6%	92%	28%	45%	20%	8%	
	国際文化論	4	講義										
	家族関係論	2	講義	42	筆記	93%	0%	93%	52%	17%	24%	7%	
	スポーツ科学Ⅰ	1	実験・実習	60	課題	92%	0%	92%	60%	15%	17%	8%	
	スポーツ科学Ⅱ	2	実験・実習	30	課題	94%	0%	94%	46%	48%	0%	6%	
	環境論	4	講義										
	人間発達学	1	講義	75	筆記・課題	67%	28%	95%	16%	20%	59%	5%	

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
学部 共通科目 (教養科目)	物理学	1	講義	38	筆記・課題	84%	3%	87%	42%	24%	21%	13%
	生物学	1	講義	71	筆記	85%	6%	90%	17%	24%	49%	10%
	化学	1	講義	36	筆記	56%	17%	72%	39%	11%	22%	28%
	生活とデザイン	4	講義									
	地域社会学	4	講義									
	人間工学	2	講義	58	筆記	97%	0%	97%	72%	22%	2%	3%
	コミュニケーション論	1	演習	75	筆記	81%	13%	95%	35%	27%	33%	5%
	基礎英語 I	1	演習	75	課題	92%	1%	93%	51%	31%	12%	7%
	基礎英語 II	1	演習	71	課題	97%	0%	97%	31%	56%	10%	3%
	実践英会話	2	演習	64	課題	97%	0%	97%	83%	9%	5%	3%
	医療保健英語	2	演習	16	課題	88%	0%	88%	44%	38%	6%	13%
	英書講読	3	演習	8	課題	88%	0%	88%	50%	38%	0%	13%
	中国語	1	演習	48	筆記	100%	0%	100%	15%	38%	48%	0%
	スペイン語	1	演習	13	筆記・課題	54%	0%	54%	31%	15%	8%	46%
	ポルトガル語	1	演習	49	筆記	53%	33%	86%	20%	8%	57%	14%
	統計学	1	演習	28	筆記	64%	7%	71%	43%	4%	25%	29%
	情報処理基礎演習	1	演習	70	課題	97%	0%	97%	69%	28%	0%	3%
	情報処理応用演習	2	演習	62	課題	94%	5%	98%	39%	39%	21%	2%
	文献検索とクリティーク	3	演習	65	課題	94%	0%	94%	83%	11%	0%	6%
専門 基礎科目	医療保健福祉行政論	1	講義	75	課題	95%	0%	95%	40%	41%	13%	5%
	地域保健福祉論	2	講義	67	筆記	99%	0%	99%	65%	19%	14%	1%
	チーム医療論	3	演習	62	課題	90%	2%	92%	26%	33%	33%	8%
	生命科学	4	講義									
	行動科学	4	講義									
	合同臨地実習	4	実験・実習									
	人体の構造と機能 I	1	演習	75	筆記	92%	0%	92%	24%	17%	51%	8%
	人体の構造と機能 II	1	演習	75	筆記	95%	0%	95%	24%	19%	52%	5%
	人体の構造と機能 III	1	演習	71	筆記	93%	0%	93%	38%	28%	27%	7%
	人体の生化学	1	演習	75	筆記	73%	20%	93%	36%	25%	32%	7%
	生命倫理	2	演習	69	筆記	96%	1%	97%	35%	30%	32%	3%
	疾病の成り立ち	1	演習	71	筆記	97%	0%	97%	44%	30%	24%	3%
	感染と防御	1	演習	71	筆記	56%	41%	97%	11%	14%	72%	3%
	臨床検査	1	演習	70	筆記	79%	18%	97%	30%	23%	45%	3%
	栄養学	1	演習	71	筆記・課題	93%	3%	96%	8%	49%	38%	4%
	食品学	2	講義	48	筆記	77%	13%	90%	33%	21%	35%	10%
臨床薬理学	1	演習	71	筆記	94%	3%	97%	79%	7%	11%	3%	
臨床心理学	2	演習	39	課題	90%	10%	100%	26%	41%	33%	0%	

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
専門基礎科目	疾病の回復促進Ⅰ	1	演習	71	筆記	94%	3%	97%	42%	37%	18%	3%
	疾病の回復促進Ⅱ	2	演習	69	筆記	65%	25%	90%	9%	28%	54%	10%
	疾病の回復促進Ⅲ	2	演習	69	筆記	97%	0%	97%	30%	38%	29%	3%
	養護概論	3	講義	28	課題	100%	0%	100%	73%	23%	5%	0%
	疫学と公衆衛生	2	講義	69	筆記	48%	49%	97%	6%	23%	68%	3%
	保健統計学演習	2	演習	69	筆記	86%	4%	90%	78%	4%	7%	10%
	社会保障論	4	講義									
	医療関係法規	4	講義									
	国際保健論	4	演習									
専門科目	看護学原論Ⅰ	1	講義	75	筆記	68%	28%	96%	25%	19%	52%	4%
	看護学原論Ⅱ	1	講義	71	筆記	96%	1%	97%	44%	32%	21%	3%
	対象理解と看護	1	講義	75	課題	97%	0%	97%	65%	25%	7%	3%
	人間関係形成論	2	講義	69	筆記	97%	0%	97%	67%	29%	1%	3%
	教育支援技術論	3	講義	65	試験	95%	5%	100%	94%	2%	5%	0%
	看護過程演習	1	演習	71	筆記・課題	96%	1%	97%	79%	11%	7%	3%
	ヘルスアセスメント	2	講義	69	筆記	81%	16%	97%	16%	33%	48%	3%
	早期体験実習	1	実験・実習	75	課題	95%	0%	95%	69%	23%	3%	5%
	ヘルスカウンセリング	4	講義									
	基礎看護技術Ⅰ	1	演習	75	筆記・課題	63%	32%	95%	0%	23%	72%	5%
	基礎看護技術Ⅱ	1	演習	72	筆記・課題	72%	25%	97%	18%	25%	54%	3%
	基礎看護学実習Ⅰ	1	実験・実習	71	課題	97%	0%	97%	46%	37%	14%	3%
	基礎看護学実習Ⅱ	2	実験・実習	65	課題	99%	0%	99%	93%	4%	1%	1%
	家族看護論	4	講義									
	母子看護学概論	2	演習	69	筆記	97%	0%	97%	16%	39%	42%	3%
	母性看護学方法	2	演習	66	筆記	88%	10%	99%	27%	30%	42%	1%
	小児看護学方法	2	演習	66	筆記	70%	28%	99%	13%	25%	60%	1%
	母性看護学実習	3	実験・実習	66	課題	100%	0%	100%	18%	45%	36%	0%
	小児看護学実習	3	実験・実習	66	課題	94%	6%	100%	26%	36%	38%	0%
	成人看護学概論	2	講義	69	筆記	84%	13%	97%	35%	25%	38%	3%
	成人看護学方法Ⅰ	2	演習	66	筆記	85%	13%	99%	30%	36%	33%	1%
	成人看護学実習Ⅰ	3	実験・実習	66	課題	98%	0%	98%	59%	26%	14%	2%
	成人看護学方法Ⅱ	2	演習	66	筆記	78%	21%	99%	18%	21%	60%	1%
	成人看護学実習Ⅱ	3	実験・実習	66	課題	88%	11%	98%	15%	47%	36%	2%
クリティカルケア論	4	講義										
セルフケア論	2	講義	30	課題	96%	0%	96%	32%	32%	32%	4%	
精神看護学概論	2	講義	69	課題	97%	0%	97%	45%	52%	0%	3%	
精神看護学方法	2	演習	66	課題	99%	0%	99%	7%	91%	0%	1%	

科目 区分	教科目	開講年 次	授業形態	履修人 員	主な単位認 定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
専 門	精 神 看 護 学 実 習	3	実験・実習	66	課題	94%	5%	98%	21%	47%	30%	2%
	高 齢 期 看 護 学 概 論	2	講義	69	筆記	94%	3%	97%	3%	42%	52%	3%
	高 齢 期 看 護 学 方 法	2	演習	66	筆記	87%	12%	99%	37%	36%	25%	1%
	高 齢 期 看 護 学 実 習	3	実験・実習	66	課題	92%	6%	98%	11%	44%	44%	2%
	終末期看護(緩和ケア)論	2	講義	46	筆記	100%	0%	100%	70%	20%	11%	0%
	地 域・在 宅 看 護 学 概 論	2	講義	66	筆記	91%	7%	99%	18%	42%	39%	1%
	健康保持増進と障害予防支援	2	講義	66	筆記	87%	12%	99%	22%	30%	46%	1%
	地域看護体制と看護学機能論	3	演習	66	課題	95%	0%	95%	50%	24%	21%	5%
	在 宅 看 護 学 方 法	2	演習	66	筆記	96%	3%	99%	45%	45%	9%	1%
	地 域 看 護 学 実 習	3	実験・実習	66	課題	100%	0%	100%	8%	73%	20%	0%
	在 宅 看 護 学 実 習	3	実験・実習	66	課題	100%	0%	100%	74%	20%	6%	0%
	科 目	産 業 保 健	3	講義	66	筆記	89%	11%	100%	45%	32%	23%
学 校 保 健 I		3	講義	65	課題	100%	0%	100%	59%	32%	9%	0%
学 校 保 健 II		4	講義									
保 健 チーム看護論		1	講義	71	筆記・課題	83%	14%	97%	18%	27%	52%	3%
異文化コミュニケーション演習		2	演習	4	課題	100%	0%	100%	75%	25%	0%	0%
医 療 安 全 管 理		2	講義	66	課題	99%	0%	99%	16%	28%	54%	1%
感 染 管 理		4	講義									
看 護 行 政 と 管 理		4	講義									
看 護 倫 理		2	講義	69	課題	97%	0%	97%	28%	52%	17%	3%
災 害 看 護 論		4	講義									
小 児 救 急 看 護 論		4	講義									
国 際 看 護 論		4	講義									
看 護 管 理 シ ス テ ム 論	4	講義										
卒 業 研 究	3~4	演習										
教 職 科 目	現 代 教 職 論	1	講義	41	筆記	71%	10%	80%	15%	10%	56%	20%
	教 育 心 理 学	1	講義	40	筆記	80%	13%	93%	25%	25%	43%	8%
	教 育 課 程 論	2	講義	27	筆記	89%	4%	93%	19%	33%	41%	7%
	教 育 方 法 論	2	講義	25	課題	96%	0%	96%	96%	0%	0%	4%
	生 徒 指 導 論	2	講義	25	課題	92%	0%	92%	80%	8%	4%	8%
	道徳教育及び特別活動の研究	4	講義									
	教 育 相 談 論	4	講義									
	総 合 演 習	2	演習	25	課題	100%	0%	100%	60%	28%	12%	0%
	養 護 実 習	4	実験・実習									
	教育実習事前事後指導	4	演習									

(平成 21 年度入学生)

科目 区分	教 科 目	開講 年次	授 業 形 態	履 修 人 員	主 単 位 認 定 の 方 法	単 位 の 取 得 状 況 %			最 終 の 評 価 %					
						本 試	追 再 試	計	A	B	C	D		
学 部 共 通 科 目 （ 教 養 科 目 ）	哲 学 ・ 倫 理 学	4	講義											
	心 理 学	1	講義	74	筆記	95%	3%	97%	73%	16%	8%	3%		
	教 育 原 論	1	講義	71	筆記	77%	7%	85%	8%	34%	42%	15%		
	法 学	1	講義	49	課題	86%	0%	86%	69%	14%	2%	14%		
	日 本 国 憲 法	1	講義	73	課題	93%	3%	96%	74%	12%	10%	4%		
	国 際 文 化 論	4	講義											
	家 族 関 係 論	2	講義	48	筆記	90%	0%	90%	45%	33%	13%	10%		
	ス ポ ー ツ 科 学 I	1	実験・実習	73	課題	97%	0%	97%	57%	22%	19%	3%		
	ス ポ ー ツ 科 学 II	2	実験・実習	61	課題	94%	0%	94%	45%	39%	10%	6%		
	環 境 論	4	講義											
	人 間 発 達 学	1	講義	74	筆記	71%	23%	93%	7%	19%	68%	7%		
	物 理 学	1	講義	37	筆記	59%	3%	62%	22%	19%	22%	38%		
	生 物 学	1	講義	76	筆記	89%	4%	93%	50%	17%	26%	7%		
	化 学	1	講義	76	筆記	69%	19%	88%	31%	13%	44%	12%		
	生 活 と デ ザ イン	4	講義											
	地 域 社 会 学	4	講義											
	人 間 工 学	2	講義	62	筆記	93%	2%	95%	91%	3%	0%	5%		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	1	演習	76	筆記・課題	91%	8%	99%	43%	26%	29%	1%		
	基 礎 英 語 I	1	演習	76	筆記	96%	0%	96%	71%	13%	12%	4%		
	基 礎 英 語 II	1	演習	76	筆記	89%	1%	91%	25%	49%	17%	9%		
	実 践 英 会 話	2	演習	69	筆記・課題	100%	0%	100%	63%	29%	8%	0%		
	医 療 保 健 英 語	2	演習	17	課題	69%	0%	69%	13%	19%	38%	31%		
	英 書 講 読	3	演習											
	中 国 語	1	演習	56	筆記	65%	20%	85%	4%	30%	52%	15%		
	ス ベ イ ン 語	1	演習	41	筆記	78%	2%	80%	54%	12%	15%	20%		
	ポ ル ト ガ ル 語	1	演習	56	筆記	63%	5%	68%	55%	0%	13%	32%		
	統 計 学	1	演習	45	筆記・課題	62%	7%	69%	22%	13%	33%	31%		
	情 報 処 理 基 礎 演 習	1	演習	76	課題	92%	1%	93%	24%	43%	26%	7%		
	情 報 処 理 応 用 演 習	2	演習	66	筆記・課題	98%	0%	98%	39%	40%	19%	2%		
	文 献 検 索 と ク リ テ ィ ー ク	3	演習											
	専 門 基 礎 科 目	医 療 保 健 福 祉 行 政 論	1	講義	76	筆記・課題	89%	7%	96%	18%	41%	37%	4%	
		地 域 保 健 福 祉 論	2	講義	72	筆記	99%	0%	99%	51%	31%	16%	1%	
チ ー ム 医 療 論		3	演習											
生 命 科 学		4	講義											
行 動 科 学		4	講義											
合 同 臨 地 実 習		4	実験・実習											

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能Ⅰ	1	演習	76	筆記	95%	1%	96%	38%	32%	26%	4%
	人体の構造と機能Ⅱ	1	演習	76	筆記	95%	1%	96%	38%	32%	26%	4%
	人体の構造と機能Ⅲ	1	演習	76	筆記	92%	1%	93%	29%	24%	41%	7%
	人体の生化学	1	演習	76	筆記	75%	24%	99%	28%	17%	54%	1%
	生命倫理	2	演習	72	筆記	97%	3%	100%	51%	31%	18%	0%
	疾病の成り立ち	1	演習	76	筆記	92%	1%	93%	39%	33%	21%	7%
	感染と防御	1	演習	76	筆記	46%	47%	93%	4%	16%	74%	7%
	臨床検査	1	演習	76	筆記	80%	13%	93%	41%	28%	25%	7%
	栄養学	1	演習	76	筆記	92%	1%	93%	57%	32%	5%	7%
	食品学	2	講義	64	筆記	93%	7%	100%	60%	24%	16%	0%
	臨床薬理学	1	演習	76	筆記	87%	7%	93%	63%	14%	16%	7%
	臨床心理学	2	演習	47	筆記・課題	100%	0%	100%	47%	36%	18%	0%
	疾病の回復促進Ⅰ	1	演習	76	筆記	88%	5%	93%	49%	26%	18%	7%
	疾病の回復促進Ⅱ	2	演習	72	筆記	93%	3%	96%	59%	24%	13%	4%
	疾病の回復促進Ⅲ	2	演習	72	筆記	85%	14%	99%	28%	30%	41%	1%
	養護概論	3	講義									
	疫学と公衆衛生	2	講義	72	筆記	14%	86%	100%	0%	1%	99%	0%
	保健統計学演習	2	演習	72	筆記	100%	0%	100%	54%	27%	20%	0%
	社会保障論	4	講義									
	医療関係法規	4	講義									
国際保健論	4	演習										
専 門 科 目	看護学原論Ⅰ	1	講義	76	筆記	83%	13%	96%	33%	28%	36%	4%
	看護学原論Ⅱ	1	講義	76	課題	93%	1%	95%	26%	39%	29%	5%
	対象理解と看護	1	講義	76	課題	74%	20%	93%	30%	18%	45%	7%
	人間関係形成論	2	講義	72	筆記	100%	0%	100%	49%	39%	11%	0%
	教育支援技術論	3	講義									
	看護過程演習	1	演習	76	筆記	83%	11%	93%	33%	30%	30%	7%
	ヘルスアセスメント	2	講義	72	筆記	90%	10%	100%	49%	27%	24%	0%
	早期体験実習	1	実験・実習	76	課題	100%	0%	100%	97%	3%	0%	0%
	ヘルスカウンセリング	4	講義									
	基礎看護技術Ⅰ	1	演習	76	筆記・実技	95%	4%	99%	13%	41%	45%	1%
	基礎看護技術Ⅱ	1	演習	76	筆記・実技	92%	1%	93%	13%	47%	33%	7%
	基礎看護学実習Ⅰ	1	実験・実習	76	課題	91%	3%	93%	88%	3%	3%	7%
	基礎看護学実習Ⅱ	2	実験・実習	72	課題	97%	3%	100%	73%	18%	8%	0%
	家族看護論	4	講義									
	母子看護学概論	2	演習	72	筆記	87%	13%	100%	25%	27%	48%	0%
母性看護学方法	2	演習	72	筆記	87%	11%	99%	65%	15%	18%	1%	

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
						本試	追再試	計	A	B	C	D	
専門	小児看護学方法	2	演習	72	筆記	94%	4%	99%	49%	27%	23%	1%	
	母性看護学実習	3	実験・実習										
	小児看護学実習	3	実験・実習										
	成人看護学概論	2	講義	72	筆記	99%	1%	100%	56%	28%	15%	0%	
	成人看護学方法Ⅰ	2	演習	72	筆記	79%	20%	99%	10%	34%	55%	1%	
	成人看護学実習Ⅰ	3	実験・実習										
	成人看護学方法Ⅱ	2	演習	72	筆記	97%	1%	99%	82%	10%	7%	1%	
	成人看護学実習Ⅱ	3	実験・実習										
	クリティカルケア論	4	講義										
	セルフケア論	2	講義	60	課題	97%	2%	98%	64%	21%	14%	2%	
	精神看護学概論	2	講義	72	筆記	77%	23%	100%	24%	28%	48%	0%	
	精神看護学方法	2	演習	72	筆記	82%	17%	99%	13%	44%	42%	1%	
	精神看護学実習	3	実験・実習										
	高齢期看護学概論	2	講義	72	筆記	96%	4%	100%	34%	28%	38%	0%	
	高齢期看護学方法	2	演習	72	筆記	99%	0%	99%	23%	61%	15%	1%	
	高齢期看護学実習	3	実験・実習										
	終末期看護(緩和ケア)論	2	講義	50	筆記	100%	0%	100%	98%	2%	0%	0%	
	科目	地域看護学概論	2	講義	72	課題	99%	1%	100%	77%	15%	7%	0%
		在宅看護学概論	2	講義	72	課題	97%	3%	100%	24%	52%	24%	0%
		健康保持増進と障害予防支援	2	講義	72	課題	79%	20%	99%	11%	38%	49%	1%
地域看護体制と看護学機能論		3	演習										
在宅看護学方法		2	演習	72	筆記	99%	0%	99%	68%	25%	6%	1%	
地域看護学実習		3	実験・実習										
在宅看護学実習		3	実験・実習										
産業保健		3	講義										
学校保健Ⅰ		3	講義										
学校保健Ⅱ		4	講義										
チーム看護論		1	講義	76	筆記・課題	89%	4%	93%	43%	36%	14%	7%	
異文化コミュニケーション演習		2	演習	41	課題	61%	0%	61%	13%	42%	5%	39%	
医療安全管理		2	講義	72	課題	97%	1%	99%	23%	49%	27%	1%	
感染管理		4	講義										
看護行政と管理		4	講義										
看護倫理		2	講義	72	課題	100%	0%	100%	55%	31%	14%	0%	
災害看護論		4	講義										
小児救急看護論		4	講義										
国際看護論		4	講義										
看護管理システム論		4	講義										
看護セミナー	3~4	演習											

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
教職科目	現代教職論	1	講義	41	筆記	90%	0%	90%	17%	41%	32%	10%
	教育心理学	1	講義	42	筆記	86%	0%	86%	40%	31%	14%	14%
	教育課程論	2	講義	36	筆記	97%	3%	100%	24%	71%	6%	0%
	教育方法論	2	講義	33								
	生徒指導論	2	講義	33								
	道徳教育及び特別活動の研究	4	講義									
	教育相談論	4	講義									
	総合演習	2	演習	36	課題	97%	3%	100%	68%	21%	12%	0%
	養護実習	4	実験・実習									
	教育実習事前事後指導	4	演習									

(平成 22 年度入学生)

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %				最終の評価 %				
						本試	追再試	認定	計	A	B	C	D	認定
学部共通科目(教養科目)	哲学・倫理学	4	講義											
	心理学	1	講義	96	筆記	91%	4%	1%	96%	59%	22%	14%	4%	1%
	教育原論	1	講義	68	筆記	93%	1%	0%	94%	26%	29%	39%	6%	0%
	法学	1	講義	53	筆記・課題	94%	0%	2%	96%	78%	11%	6%	4%	2%
	日本国憲法	1	講義	88	筆記・課題	100%	0%	0%	100%	86%	9%	5%	0%	0%
	国際文化論	4	講義											
	家族関係論	2	講義											
	スポーツ科学Ⅰ	1	実験・実習	69	課題	99%	0%	1%	100%	54%	29%	16%	0%	1%
	スポーツ科学Ⅱ	2	実験・実習											
	環境論	4	講義											
	人間発達学	1	講義	81	筆記・課題	90%	7%	0%	98%	15%	44%	38%	2%	0%
	物理学	1	講義	37	筆記	92%	5%	0%	97%	38%	32%	27%	3%	0%
	生物学	1	講義	95	筆記	76%	9%	0%	85%	24%	27%	34%	15%	0%
	化学	1	講義	87	筆記	55%	19%	1%	75%	17%	22%	35%	25%	1%
	生活とデザイン	4	講義											
	地域社会学	4	講義											
	人間工学	2	講義											
	コミュニケーション論	1	演習	97	筆記	95%	2%	0%	97%	72%	18%	7%	3%	0%
	基礎英語Ⅰ	1	演習	97	課題	78%	0%	0%	78%	16%	37%	25%	22%	0%
基礎英語Ⅱ	1	演習	92	課題	92%	0%	0%	92%	46%	30%	16%	8%	0%	

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %				最終の評価 %				
						本試	追再試	認定	計	A	B	C	D	認定
学部共通科目 (教養科目)	実践英会話	2	演習											
	医療保健英語	2	演習											
	英書講読	3	演習											
	中国語	1	演習											
	スペイン語	1	演習	65	筆記	97%	0%	0%	97%	89%	5%	3%	3%	0%
	ポルトガル語	1	演習	54	筆記	74%	9%	0%	83%	19%	15%	50%	17%	0%
	統計学	1	演習	38	筆記・課題	87%	5%	0%	92%	42%	16%	34%	8%	0%
	情報処理基礎演習	1	演習	92	課題	98%	0%	1%	99%	55%	35%	8%	1%	1%
	情報処理応用演習	2	演習											
	文献検索とクリティーク	3	演習											
専門 基礎 科目	医療保健福祉行政論	1	講義	97	課題	96%	3%	0%	99%	59%	27%	13%	1%	0%
	地域保健福祉論	2	講義											
	チーム医療論	3	演習											
	生命科学	4	講義											
	行動科学	4	講義											
	合同臨地実習	4	実験・実習											
	人体の構造と機能Ⅰ	1	演習	97	筆記	95%	0%	0%	95%	34%	28%	33%	5%	0%
	人体の構造と機能Ⅱ	1	演習	97	筆記	95%	0%	0%	95%	34%	28%	33%	5%	0%
	人体の構造と機能Ⅲ	1	演習	92	筆記	98%	0%	0%	98%	41%	22%	35%	2%	0%
	人体の生化学	1	演習	97	筆記	87%	10%	0%	97%	26%	40%	31%	3%	0%
	生命倫理	2	演習											
	疾病の成り立ち	1	演習	92	筆記	98%	0%	0%	98%	48%	24%	26%	2%	0%
	感染と防御	1	演習	92	筆記	57%	42%	0%	99%	12%	17%	70%	1%	0%
	臨床検査	1	演習	92	筆記	65%	34%	0%	99%	8%	25%	67%	1%	0%
	栄養学	1	演習	92	筆記	90%	8%	1%	99%	49%	26%	23%	1%	1%
	食品学	2	講義											
	臨床薬理学	1	演習	92	筆記	98%	0%	0%	98%	85%	11%	2%	2%	0%
	臨床心理学	2	演習											
	疾病の回復促進Ⅰ	1	演習	92	筆記	75%	22%	0%	97%	28%	31%	38%	3%	0%
	疾病の回復促進Ⅱ	2	演習											
疾病の回復促進Ⅲ	2	演習												
養護概論	3	講義												
疫学と公衆衛生	2	講義												
保健統計学演習	2	演習												
社会保障論	4	講義												
医療関係法規	4	講義												
国際保健論	4	演習												

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %				最終の評価 %					
						本試	追再試	認定	計	A	B	C	D	認定	
専門科 目	看護学原論Ⅰ	1	講義	97	筆記	91%	8%	0%	99%	27%	30%	42%	1%	0%	
	看護学原論Ⅱ	1	講義	92	課題	98%	0%	0%	98%	14%	54%	30%	2%	0%	
	対象理解と看護	1	講義	92	筆記	90%	9%	0%	99%	33%	25%	41%	1%	0%	
	人間関係形成論	2	講義												
	教育支援技術論	3	講義												
	看護過程演習	1	演習	92	筆記	86%	8%	0%	94%	42%	27%	25%	6%	0%	
	ヘルスアセスメント	2	講義												
	早期体験実習	1	実験・実習	97	課題	97%	1%	0%	98%	95%	2%	1%	2%	0%	
	ヘルスカウンセリング	4	講義												
	基礎看護技術Ⅰ	1	演習	97	筆記・実技	96%	0%	0%	96%	18%	30%	48%	4%	0%	
	基礎看護技術Ⅱ	1	演習	92	筆記・実技	98%	0%	0%	98%	8%	23%	68%	2%	0%	
	基礎看護学実習Ⅰ	1	実験・実習	92	課題	99%	0%	0%	99%	94%	5%	0%	1%	0%	
	基礎看護学実習Ⅱ	2	実験・実習												
	家族看護論	4	講義												
	母子看護学概論	2	演習												
	母性看護学方法	2	演習												
	小児看護学方法	2	演習												
	母性看護学実習	3	実験・実習												
	小児看護学実習	3	実験・実習												
	成人看護学概論	2	講義												
	成人看護学方法Ⅰ	2	演習												
	成人看護学実習Ⅰ	3	実験・実習												
	成人看護学方法Ⅱ	2	演習												
	成人看護学実習Ⅱ	3	実験・実習												
	クリティカルケア論	4	講義												
	セルフケア論	2	講義												
	精神看護学概論	2	講義												
	精神看護学方法	2	演習												
	精神看護学実習	3	実験・実習												
	高齢期看護学概論	2	講義												
	高齢期看護学方法	2	演習												
	高齢期看護学実習	3	実験・実習												
	終末期看護(緩和ケア)論	2	講義												
地域看護学概論	2	講義													
在宅看護学概論	2	講義													
健康保持増進と障害予防支援	2	講義													
地域看護体制と看護学機能論	3	演習													

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %				最終の評価 %				
						本試	追再試	認定	計	A	B	C	D	認定
専門科目	在宅看護学方法	2	演習											
	地域看護学実習	3	実験・実習											
	在宅看護学実習	3	実験・実習											
	産業保健	3	講義											
	学校保健 I	3	講義											
	学校保健 II	4	講義											
	チーム看護論	1	講義	92	課題	99%	0%	0%	99%	15%	47%	37%	1%	0%
	異文化コミュニケーション演習	2	演習											
	医療安全管理	2	講義											
	感染管理	4	講義											
	看護行政と管理	4	講義											
	看護倫理	2	講義											
	災害看護論	4	講義											
	小児救急看護論	4	講義											
	国際看護論	4	講義											
	看護管理システム論	4	講義											
看護セミナー	3~4	演習												
教職科目	現代教職論	1	講義	26	筆記	85%	8%	0%	92%	19%	19%	54%	8%	0%
	教育心理学	1	講義	26	筆記	92%	0%	0%	92%	65%	23%	4%	8%	0%
	教育課程論	2	講義											
	教育方法論	2	講義											
	生徒指導論	2	講義											
	道徳教育及び特別活動の研究	4	講義											
	教育相談論	4	講義											
	教職実践演習(養護教諭)	2	演習											
	養護実習	4	実験・実習											
	教育実習事前事後指導	4	演習											

医療保健学部 栄養学科の単位認定状況表

(平成 20 年度入学生)

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
						本試	追再試	計	A	B	C	D	
学部 共通 科目 (教 養 科 目)	哲学・倫理学	4	講義										
	心理学	1	講義	33	筆記	100%	0%	100%	97%	3%	0%	0%	
	教育原論	1	講義	22	筆記	95%	0%	95%	23%	27%	45%	5%	
	法学	1	講義	23	筆記・課題	100%	0%	100%	70%	26%	4%	0%	
	日本国憲法	1	講義	28	筆記・課題	89%	7%	96%	29%	29%	39%	4%	
	国際文化論	4	講義										
	家族関係論	2	講義	7	筆記	86%	0%	86%	71%	0%	14%	14%	
	スポーツ科学 I	1	実験・実習	33	課題	100%	0%	100%	61%	27%	12%	0%	
	スポーツ科学 II	2	実験・実習	31	課題	100%	0%	100%	55%	42%	3%	0%	
	環境論	4	講義										
	人間発達学	1	講義	33	筆記・課題	76%	21%	97%	18%	27%	52%	3%	
	物理学	1	講義	10	筆記・課題	100%	0%	100%	70%	30%	0%	0%	
	生物学	1	講義	33	筆記	91%	6%	97%	33%	42%	21%	3%	
	化学	1	講義	33	筆記	82%	15%	97%	30%	12%	55%	3%	
	生活とデザイン	4	講義										
	地域社会学	4	講義										
	人間工学	2	講義	20	筆記	100%	0%	100%	90%	10%	0%	0%	
	コミュニケーション論	1	演習	33	筆記	100%	0%	100%	73%	18%	9%	0%	
	基礎英語 I	1	演習	33	筆記・課題	73%	21%	94%	15%	27%	52%	6%	
	基礎英語 II	1	演習	32	筆記・課題	84%	13%	97%	3%	44%	50%	3%	
	実践英会話	2	演習	31	筆記	100%	0%	100%	23%	61%	16%	0%	
	医療保健英語	2	演習	6	課題	67%	0%	67%	33%	33%	0%	33%	
	英書講読	3	演習	4	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	
	中国語	1	演習	7	筆記	100%	0%	100%	14%	43%	43%	0%	
	スペイン語	1	演習	6	筆記・課題	100%	0%	100%	0%	50%	50%	0%	
	ポルトガル語	1	演習	10	筆記	60%	40%	100%	20%	30%	50%	0%	
	統計学	1	演習	32	筆記	78%	9%	88%	31%	28%	28%	13%	
	情報処理基礎演習	1	演習	33	課題	79%	15%	94%	42%	33%	18%	6%	
	情報処理応用演習	2	演習	30	課題	93%	7%	100%	47%	33%	20%	0%	
文献検索とクリティーク	3	演習	6	課題	100%	0%	100%	67%	0%	33%	0%		
専門基礎科目	医療保健福祉行政論	1	講義	32	筆記・課題	97%	0%	97%	88%	9%	0%	3%	
	地域保健福祉論	2	講義	31	筆記	100%	0%	100%	71%	29%	0%	0%	
	チーム医療論	3	演習	31	課題	100%	0%	100%	42%	23%	35%	0%	

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
						本試	追再試	計	A	B	C	D	
専	生命科学	4	講義										
	行動科学	4	講義										
	合同臨地実習	4	実験・実習										
門	管理栄養士活動論	1	講義	32	筆記・課題	97%	0%	97%	41%	34%	22%	3%	
	生物有機化学	1	講義	32	筆記・課題	100%	0%	100%	25%	38%	38%	0%	
	医療保健統計学	2	講義	31	筆記	100%	0%	100%	13%	42%	45%	0%	
	食文化論	1	講義	32	筆記	100%	0%	100%	50%	34%	16%	0%	
	コーチング	2	講義	31	筆記	97%	3%	100%	52%	23%	26%	0%	
	公衆衛生学	2	講義	31	筆記	100%	0%	100%	23%	42%	35%	0%	
	健康管理概論	1	講義	33	筆記・課題	73%	24%	97%	12%	15%	70%	3%	
	解剖生理学Ⅰ	1	講義	33	筆記	76%	18%	94%	33%	18%	42%	6%	
	解剖生理学Ⅱ	1	講義	32	筆記	100%	0%	100%	22%	34%	44%	0%	
	解剖生理学実験Ⅰ	1	実験・実習	32	筆記・課題	88%	9%	97%	9%	31%	56%	3%	
	解剖生理学実験Ⅱ	2	実験・実習	31	筆記	100%	0%	100%	42%	29%	29%	0%	
	基	生化学Ⅰ	1	講義	33	筆記	67%	24%	91%	24%	30%	36%	9%
生化学Ⅱ		1	講義	32	筆記・課題	69%	28%	97%	34%	13%	50%	3%	
生化学実験Ⅰ		1	実験・実習	32	課題	97%	0%	97%	75%	22%	0%	3%	
生化学実験Ⅱ		2	実験・実習	31	課題	100%	0%	100%	65%	26%	10%	0%	
免疫学		2	講義	31	筆記	84%	16%	100%	29%	29%	42%	0%	
病理学		3	講義	31	筆記	84%	16%	100%	52%	26%	23%	0%	
病理学実験		3	実験・実習	31	筆記	55%	45%	100%	26%	13%	61%	0%	
臨床医学概論		4	講義										
食品学総論		1	講義	33	筆記	82%	15%	97%	21%	27%	48%	3%	
食品学各論		1	講義	32	筆記	66%	31%	97%	25%	9%	63%	3%	
食品加工学		1	講義	32	筆記	97%	0%	97%	66%	28%	3%	3%	
科		食品学実験Ⅰ	1	実験・実習	32	筆記・課題	59%	38%	97%	22%	19%	56%	3%
	食品学実験Ⅱ	2	実験・実習	31	筆記	94%	6%	100%	45%	39%	16%	0%	
	食品衛生学	2	講義	31	課題	100%	0%	100%	32%	68%	0%	0%	
	食品衛生学実験	2	実験・実習	31	課題	100%	0%	100%	65%	32%	3%	0%	
	調理科学	1	講義	33	筆記	88%	9%	97%	6%	70%	21%	3%	
	調理学実習Ⅰ	1	実験・実習	33	筆記	91%	6%	97%	15%	55%	27%	3%	
	調理学実習Ⅱ	1	実験・実習	32	筆記	100%	0%	100%	44%	53%	3%	0%	

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
専門	基礎栄養学	1	講義	32	筆記・課題	88%	9%	97%	25%	31%	41%	3%
	基礎栄養学実験	2	実験・実習	31	筆記	90%	10%	100%	45%	23%	32%	0%
	応用栄養学	2	講義	31	筆記	100%	0%	100%	71%	23%	6%	0%
	ライフステージ栄養学Ⅰ	2	講義	31	筆記・課題	100%	0%	100%	71%	19%	10%	0%
	ライフステージ栄養学Ⅱ	3	講義	31	筆記	100%	0%	100%	35%	39%	26%	0%
	ライフステージ栄養学実習	3	実験・実習	31	筆記・課題	100%	0%	100%	35%	35%	29%	0%
	栄養教育論Ⅰ	2	講義	31	筆記	97%	3%	100%	16%	48%	35%	0%
	栄養教育論Ⅱ	2	講義	31	筆記	90%	3%	94%	29%	45%	19%	6%
	栄養教育論実習Ⅰ	3	実験・実習	31	筆記・課題	97%	0%	97%	74%	13%	10%	3%
	栄養教育論実習Ⅱ	3	実験・実習	31	課題	84%	16%	100%	29%	42%	29%	0%
	ニュートリションコーチング	4	講義									
	臨床栄養学Ⅰ	2	講義	31	筆記	42%	58%	100%	3%	3%	94%	0%
	臨床栄養学Ⅱ	3	講義	31	筆記	100%	0%	100%	45%	45%	10%	0%
	臨床栄養学Ⅲ	3	講義	31	筆記	100%	0%	100%	48%	32%	19%	0%
	臨床栄養学実習Ⅰ	3	実験・実習	31	課題	100%	0%	100%	19%	39%	42%	0%
	栄養療法論	2	講義	31	筆記	77%	23%	100%	23%	23%	55%	0%
	栄養療法論実習	3	実験・実習	31	課題	97%	3%	100%	0%	32%	68%	0%
	公衆栄養学	2	講義	31	筆記	84%	16%	100%	0%	19%	81%	0%
	公衆栄養学実習Ⅰ	3	実験・実習	31	筆記	100%	0%	100%	39%	23%	39%	0%
	地域栄養活動論	3	講義	31	筆記	100%	0%	100%	3%	29%	68%	0%
地域栄養活動論実習	4	実験・実習										
地域栄養アセスメント	2	講義	31	筆記	100%	0%	100%	29%	45%	26%	0%	
給食計画論	2	講義	31	筆記	100%	0%	100%	87%	6%	6%	0%	
大量調理論	2	講義	31	筆記	100%	0%	100%	68%	10%	23%	0%	
給食経営管理論	2	講義	31	筆記	100%	0%	100%	39%	39%	23%	0%	
給食経営管理論実習Ⅰ	2	実験・実習	31	筆記・課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	
管理栄養士給食演習Ⅰ	3	演習	31	課題	97%	0%	97%	87%	6%	3%	3%	
管理栄養士給食演習Ⅱ	4	演習										
給食経営管理論実習Ⅱ	3	実験・実習	31	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	
臨床栄養学実習Ⅱ	4	実験・実習										
公衆栄養学実習Ⅱ	3	実験・実習	31	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	
特別演習Ⅰ	3	演習	31	課題	55%	29%	84%	3%	26%	55%	16%	
特別演習Ⅱ	3	演習	31	筆記	97%	3%	100%	55%	16%	29%	0%	
特別演習Ⅲ	4	演習										
特別演習Ⅳ	4	演習										

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
						本試	追再試	計	A	B	C	D	
専門科目	卒業研究	4	演習										
	薬理学	4	講義										
	食品バイオテクノロジー	3	講義	19	筆記	100%	0%	100%	95%	5%	0%	0%	
	調理科学実験	2	実験・実習	31	筆記・課題	100%	0%	100%	32%	52%	16%	0%	
	調理学実習Ⅲ	4	実験・実習										
	健康スポーツ栄養学	4	講義										
	食事介護論	4	講義										
	栄養教諭論	2	講義	19	筆記・課題	100%	0%	100%	11%	63%	26%	0%	
	学校食育指導論	3	講義	19	筆記・課題	94%	0%	94%	44%	33%	17%	6%	
	クックチルシステム概論演習	3	演習	11	筆記	100%	0%	100%	91%	9%	0%	0%	
	フードスペシャリスト論	2	講義	13	筆記	100%	0%	100%	69%	31%	0%	0%	
	フードマーケティング論	3	講義	3	筆記	67%	0%	67%	67%	0%	0%	33%	
	フードコーディネータ論	4	講義										
教職科目	現代教職論	1	講義	17	筆記	100%	0%	100%	41%	12%	47%	0%	
	教育心理学	1	講義	17	筆記	94%	6%	100%	35%	41%	24%	0%	
	教育課程論	2	講義	17	筆記	94%	6%	100%	29%	41%	29%	0%	
	教育方法論	2	講義	15	課題	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%	
	生徒指導論	2	講義	15	課題	100%	0%	100%	94%	6%	0%	0%	
	道徳教育及び特別活動の研究	4	講義										
	教育相談論	4	講義										
	総合演習	2	演習	16	課題	100%	0%	100%	56%	25%	19%	0%	
	栄養教育実習	4	実験・実習										
	教育実習事前事後指導	4	演習										

(平成 21 年度入学生)

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
(学教部養共科通目科目)	哲学・倫理学	4	講義									
	心理学	1	講義	53	筆記	94%	0%	94%	92%	2%	0%	6%
	教育原論	1	講義	47	筆記	98%	0%	98%	38%	23%	38%	2%
	法学	1	講義	37	筆記・課題	89%	0%	89%	86%	3%	0%	11%

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
学部 共通科目 （ 教養科目 ）	日本国憲法	1	講義	39	筆記・課題	100%	0%	100%	97%	3%	0%	0%
	国際文化論	4	講義									
	家族関係論	2	講義	11	筆記	100%	0%	100%	82%	18%	0%	0%
	スポーツ科学Ⅰ	1	実験・実習	52	課題	98%	0%	98%	75%	10%	13%	2%
	スポーツ科学Ⅱ	2	実験・実習	42	課題	100%	0%	100%	36%	50%	14%	0%
	環境論	4	講義									
	人間発達学	1	講義	55	筆記	89%	7%	96%	27%	38%	32%	4%
	物理学	1	講義	31	筆記	87%	3%	90%	39%	26%	26%	10%
	生物学	1	講義	56	筆記	89%	5%	95%	58%	25%	11%	5%
	化学	1	講義	56	筆記	61%	34%	95%	18%	20%	57%	5%
	生活とデザイン	4	講義									
	地域社会学	4	講義									
	人間工学	2	講義	25	筆記	100%	0%	100%	100%	0%	0%	0%
	コミュニケーション論	1	演習	56	筆記	96%	0%	96%	79%	14%	4%	4%
	基礎英語Ⅰ	1	演習	56	筆記	88%	7%	95%	18%	23%	54%	5%
	基礎英語Ⅱ	1	演習	53	筆記	100%	0%	100%	34%	38%	28%	0%
	実践英会話	2	演習	44	筆記	98%	0%	98%	45%	41%	11%	2%
	医療保健英語	2	演習	4	課題	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	英書講読	3	演習									
	中国語	1	演習	21	筆記	95%	0%	95%	24%	52%	19%	5%
	スペイン語	1	演習	39	筆記	100%	0%	100%	90%	10%	0%	0%
	ポルトガル語	1	演習	17	筆記	94%	0%	94%	94%	0%	0%	6%
	統計学	1	演習	45	筆記・課題	84%	9%	93%	42%	13%	38%	7%
	情報処理基礎演習	1	演習	56	筆記・課題	96%	0%	96%	41%	43%	13%	4%
	情報処理応用演習	2	演習	46	筆記・課題	98%	0%	98%	46%	43%	9%	2%
	文献検索とクリティーク	3	演習									
専門基礎科目	医療保健福祉行政論	1	講義	53	筆記・課題	98%	2%	100%	72%	25%	4%	0%
	地域保健福祉論	2	講義	50	筆記	100%	0%	100%	60%	34%	6%	0%
	チーム医療論	3	演習									
	生命科学	4	講義									
	行動科学	4	講義									
	合同臨地実習	4	実験・実習									
	管理栄養士活動論	1	講義	56	筆記・課題	95%	0%	95%	23%	52%	20%	5%
	生物有機化学	1	講義	53	筆記・課題	100%	0%	100%	23%	17%	60%	0%

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
専門基礎科目	医療保健統計学	2	講義	52	筆記・課題	98%	0%	98%	0%	83%	15%	2%
	食文化論	1	講義	53	筆記	91%	9%	100%	32%	23%	45%	0%
	コーティング	2	講義	52	筆記・課題	98%	2%	100%	58%	27%	15%	0%
	公衆衛生学	2	講義	52	筆記	94%	6%	100%	35%	29%	37%	0%
	健康管理概論	1	講義	56	筆記	75%	20%	95%	27%	39%	29%	5%
	解剖生理学Ⅰ	1	講義	56	筆記	95%	0%	95%	43%	20%	32%	5%
	解剖生理学Ⅱ	1	講義	53	筆記	98%	2%	100%	60%	28%	11%	0%
	解剖生理学実験Ⅰ	1	実験・実習	53	筆記	79%	19%	98%	11%	42%	45%	2%
	解剖生理学実験Ⅱ	2	実験・実習	52	筆記・課題	71%	29%	100%	48%	23%	29%	0%
	生化学Ⅰ	1	講義	56	筆記	77%	18%	95%	25%	20%	50%	5%
	生化学Ⅱ	1	講義	53	筆記	74%	21%	94%	13%	13%	68%	6%
	生化学実験Ⅰ	1	実験・実習	53	筆記・課題	100%	0%	100%	49%	47%	4%	0%
	生化学実験Ⅱ	2	実験・実習	52	課題	100%	0%	100%	40%	46%	13%	0%
	免疫学	2	講義	52	筆記	67%	33%	100%	29%	23%	48%	0%
	病理学	3	講義									
	病理学実験	3	実験・実習									
	臨床医学概論	4	講義									
	食品学総論	1	講義	56	筆記	84%	11%	95%	39%	16%	36%	9%
	食品学各論	1	講義	53	筆記	87%	8%	94%	42%	13%	40%	6%
	食品加工学	1	講義	53	筆記	100%	0%	100%	85%	13%	2%	0%
食品学実験Ⅰ	1	実験・実習	53	筆記	77%	23%	100%	26%	19%	55%	0%	
食品学実験Ⅱ	2	実験・実習	52	筆記	88%	12%	100%	73%	10%	17%	0%	
食品衛生学	2	講義	52	筆記	100%	0%	100%	90%	10%	0%	0%	
食品衛生学実験	2	実験・実習	52	筆記・課題	98%	0%	98%	92%	6%	0%	2%	
調理科学	1	講義	56	筆記	63%	32%	95%	36%	18%	41%	5%	
調理学実習Ⅰ	1	実験・実習	56	筆記	80%	14%	95%	30%	39%	25%	5%	
調理学実習Ⅱ	1	実験・実習	53	筆記	91%	8%	98%	26%	49%	23%	2%	
専門科目	基礎栄養学	1	講義	53	筆記	91%	9%	100%	34%	40%	26%	0%
	基礎栄養学実験	2	実験・実習	52	筆記	96%	0%	96%	75%	10%	12%	4%
	応用栄養学	2	講義	52	課題	100%	0%	100%	77%	13%	10%	0%
	ライフステージ栄養学Ⅰ	2	講義	52	筆記・課題	100%	0%	100%	12%	73%	15%	0%
	ライフステージ栄養学Ⅱ	3	講義									
	ライフステージ栄養学実習	3	実験・実習									

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
専門	栄養教育論Ⅰ	2	講義	52	筆記・課題	65%	31%	96%	23%	25%	48%	4%
	栄養教育論Ⅱ	2	講義	52	筆記・課題	83%	12%	94%	31%	17%	46%	6%
	栄養教育論実習Ⅰ	3	実験・実習									
	栄養教育論実習Ⅱ	3	実験・実習									
	ニュートリションコーチング	4	講義									
	臨床栄養学Ⅰ	2	講義	52	筆記	19%	79%	98%	2%	8%	88%	2%
	臨床栄養学Ⅱ	3	講義									
	臨床栄養学Ⅲ	3	講義									
	臨床栄養学実習Ⅰ	3	実験・実習									
	栄養療法論	2	講義	52	筆記	77%	21%	98%	40%	25%	33%	2%
	栄養療法論実習	3	実験・実習									
	公衆栄養学	2	講義	52	筆記	77%	17%	94%	10%	29%	56%	6%
	公衆栄養学実習Ⅰ	3	実験・実習									
	地域栄養活動論	3	講義									
	地域栄養活動論実習	4	実験・実習									
	科目	地域栄養アセスメント	2	講義	52	筆記	96%	4%	100%	38%	23%	38%
給食計画論		2	講義	52	筆記	100%	0%	100%	40%	8%	52%	0%
大量調理論		2	講義	52	筆記	100%	0%	100%	17%	12%	71%	0%
給食経営管理論		2	講義	52	筆記	88%	10%	98%	48%	31%	19%	2%
給食経営管理論実習Ⅰ		2	実験・実習	52	筆記・課題	98%	0%	98%	92%	6%	0%	2%
管理栄養士給食演習Ⅰ		3	演習									
管理栄養士給食演習Ⅱ		4	演習									
給食経営管理論実習Ⅱ		3	実験・実習									
臨床栄養学実習Ⅱ		4	実験・実習									
公衆栄養学実習Ⅱ		3	実験・実習									
特別演習Ⅰ		3	演習									
特別演習Ⅱ		3	演習									
特別演習Ⅲ		4	演習									
特別演習Ⅳ		4	演習									
卒業研究		4	演習									
薬理学		4	講義									
食品バイオテクノロジー	3	講義										
調理科学実験	2	実験・実習	22	筆記	100%	0%	100%	36%	36%	27%	0%	
調理学実習Ⅲ	4	実験・実習										

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
						本試	追再試	計	A	B	C	D	
専門科目	健康スポーツ栄養学	4	講義										
	食事介護論	4	講義										
	栄養教諭論	2	講義	11	筆記・課題	91%	9%	100%	36%	45%	18%	0%	
	学校食育指導論	3	講義										
	クックチルシステム概論演習	3	演習										
	フードスペシャリスト論	2	講義	40	課題	98%	0%	98%	85%	13%	0%	3%	
	フードマーケティング論	3	講義										
フードコーディネーター論	4	講義											
教職科目	現代教職論	1	講義	13	筆記	100%	0%	100%	15%	31%	54%	0%	
	教育心理学	1	講義	14	筆記	93%	0%	93%	43%	29%	21%	7%	
	教育課程論	2	講義	11	筆記	100%	0%	100%	73%	27%	0%	0%	
	教育方法論	2	講義	8									
	生徒指導論	2	講義	8									
	道德教育及び特別活動の研究	4	講義										
	教育相談論	4	講義										
	総合演習	2	演習	10	課題	100%	0%	100%	90%	10%	0%	0%	
	栄養教育実習	4	実験・実習										
	教育実習事前事後指導	4	演習										

(平成22年度入学生)

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %				
						本試	追再試	計	A	B	C	D	
学部 共通科目 (教養科目)	哲学・倫理学	4	講義										
	心理学	1	講義	57	筆記	95%	0%	95%	82%	5%	7%	5%	
	教育原論	1	講義	43	筆記	93%	5%	98%	37%	37%	23%	2%	
	法学	1	講義	34	筆記・課題	94%	0%	94%	82%	12%	0%	6%	
	日本国憲法	1	講義	42	筆記・課題	95%	0%	95%	93%	2%	0%	5%	
	国際文化論	4	講義										
	家族関係論	2	講義										
	スポーツ科学Ⅰ	1	実験・実習	54	課題	98%	0%	98%	63%	30%	6%	2%	
	スポーツ科学Ⅱ	2	実験・実習										
	環境論	4	講義										
	人間発達学	1	講義	56	筆記・課題	95%	0%	95%	38%	38%	20%	5%	

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
学部 共通科目 (教養科目)	物理学	1	講義	38	筆記	79%	13%	92%	18%	39%	34%	8%
	生物学	1	講義	61	筆記	92%	3%	95%	43%	31%	21%	5%
	化学	1	講義	61	筆記	75%	16%	92%	33%	23%	36%	8%
	生活とデザイン	4	講義									
	地域社会学	4	講義									
	人間工学	2	講義									
	コミュニケーション論	1	演習	61	筆記	95%	0%	95%	52%	36%	7%	5%
	基礎英語Ⅰ	1	演習	61	筆記	90%	5%	95%	13%	43%	39%	5%
	基礎英語Ⅱ	1	演習	54	筆記	93%	0%	93%	43%	32%	18%	7%
	実践英会話	2	演習									
	医療保健英語	2	演習									
	英書講読	3	演習									
	中国語	1	演習									
	スペイン語	1	演習	37	筆記	97%	0%	97%	78%	19%	0%	3%
	ポルトガル語	1	演習	20	筆記	95%	0%	95%	35%	30%	30%	5%
	統計学	1	演習	61	筆記・課題	86%	11%	96%	56%	7%	33%	4%
	情報処理基礎演習	1	演習	61	筆記・課題	95%	0%	95%	56%	39%	0%	5%
	情報処理応用演習	2	演習									
文献検索とクリティーク	3	演習										
専門 基礎科目	医療保健福祉行政論	1	講義	54	筆記・課題	93%	0%	93%	86%	7%	0%	7%
	地域保健福祉論	2	講義									
	チーム医療論	3	演習									
	生命科学	4	講義									
	行動科学	4	講義									
	合同臨地実習	4	実験・実習									
	管理栄養士活動論	1	講義	61	筆記・課題	93%	2%	95%	16%	57%	21%	5%
	生物有機化学	1	講義	54	筆記・課題	95%	0%	95%	14%	13%	68%	5%
	医療保健統計学	2	講義									
	食文化論	1	講義	54	筆記・課題	75%	18%	93%	29%	36%	29%	7%
	コーチング	2	講義									
	公衆衛生学	2	講義									
	健康管理概論	1	講義	61	筆記	79%	15%	93%	54%	10%	30%	7%
	解剖生理学Ⅰ	1	講義	61	筆記	92%	2%	93%	54%	30%	10%	7%
解剖生理学Ⅱ	1	講義	54	筆記	93%	0%	93%	57%	29%	7%	7%	

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
専門基礎科目	解剖生理学実験Ⅰ	1	実験・実習	54	筆記	89%	4%	93%	75%	13%	5%	7%
	解剖生理学実験Ⅱ	2	実験・実習									
	生化学Ⅰ	1	講義	61	筆記	39%	44%	84%	13%	7%	64%	16%
	生化学Ⅱ	1	講義	54	筆記	38%	55%	93%	14%	4%	75%	7%
	生化学実験Ⅰ	1	実験・実習	54	課題	89%	4%	93%	59%	23%	11%	7%
	生化学実験Ⅱ	2	実験・実習									
	免疫学	2	講義									
	病理学	3	講義									
	病理学実験	3	実験・実習									
	臨床医学概論	4	講義									
	食品学総論	1	講義	61	筆記	82%	10%	92%	18%	41%	33%	8%
	食品学各論	1	講義	54	筆記	80%	7%	88%	45%	21%	21%	13%
	食品加工学	1	講義	54	筆記	91%	2%	93%	66%	20%	7%	7%
	食品学実験Ⅰ	1	実験・実習	54	筆記	84%	9%	93%	34%	27%	32%	7%
	食品学実験Ⅱ	2	実験・実習									
	食品衛生学	2	講義									
	食品衛生学実験	2	実験・実習									
	調理科学	1	講義	61	筆記	77%	13%	90%	36%	31%	23%	10%
	調理学実習Ⅰ	1	実験・実習	61	筆記	79%	13%	92%	25%	43%	25%	8%
	調理学実習Ⅱ	1	実験・実習	54	筆記	88%	5%	93%	34%	43%	16%	7%
専門基礎科目	基礎栄養学	1	講義	54	筆記	79%	11%	89%	29%	30%	30%	11%
	基礎栄養学実験	2	実験・実習									
	応用栄養学	2	講義									
	ライフステージ栄養学Ⅰ	2	講義									
	ライフステージ栄養学Ⅱ	3	講義									
	ライフステージ栄養学実習	3	実験・実習									
	栄養教育論Ⅰ	2	講義									
	栄養教育論Ⅱ	2	講義									
	栄養教育論実習Ⅰ	3	実験・実習									
	栄養教育論実習Ⅱ	3	実験・実習									
	ニュートリションコーチング	4	講義									
	臨床栄養学Ⅰ	2	講義									
	臨床栄養学Ⅱ	3	講義									
臨床栄養学Ⅲ	3	講義										

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
専	臨床栄養学実習 I	3	実験・実習									
	栄養療法論	2	講義									
	栄養療法論実習	3	実験・実習									
	公衆栄養学	2	講義									
	公衆栄養学実習 I	3	実験・実習									
	地域栄養活動論	3	講義									
	地域栄養活動論実習	4	実験・実習									
	地域栄養アセスメント	2	講義									
	給食計画論	2	講義									
	大量調理論	2	講義									
	給食経営管理論	2	講義									
	給食経営管理論実習 I	2	実験・実習									
門	管理栄養士給食演習 I	3	演習									
	管理栄養士給食演習 II	4	演習									
	給食経営管理論実習 II	3	実験・実習									
	臨床栄養学実習 II	4	実験・実習									
	公衆栄養学実習 II	3	実験・実習									
	特別演習 I	3	演習									
	特別演習 II	3	演習									
	特別演習 III	4	演習									
	特別演習 IV	4	演習									
	卒業研究	4	演習									
	薬理学	4	講義									
	科	食品バイオテクノロジー	3	講義								
調理科学実験		2	実験・実習									
調理学実習 III		4	実験・実習									
健康スポーツ栄養学		4	講義									
食事介護論		4	講義									
栄養教諭論		2	講義									
学校食育指導論		3	講義									
クックチルシステム概論演習		3	演習									
フードスペシャリスト論		2	講義									
フードマーケティング論		3	講義									
フードコーディネーター論		4	講義									
目												

科目区分	教科目	開講年次	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位の取得状況 %			最終の評価 %			
						本試	追再試	計	A	B	C	D
教職科目	現代教職論	1	講義	23	筆記	78%	17%	96%	17%	22%	57%	4%
	教育心理学	1	講義	23	筆記	96%	0%	96%	78%	13%	4%	4%
	教育課程論	2	講義									
	教育方法論	2	講義									
	生徒指導論	2	講義									
	道徳教育及び特別活動の研究	4	講義									
	教育相談論	4	講義									
	教職実践演習(栄養教諭)	2	演習									
	栄養教育実習	4	実験・実習									
	教育実習事前事後指導	4	演習									

(2) 各学科の単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状

1. 医療保健学部看護学科

入学年度	科目区分	平均(単位の取得状況 %)			平均(最終の評価 %)				評価方法		
		本試	追再試	計	A	B	C	D	筆記	筆記・課題	課題
平成20年度	学部共通科目(教養科目)	85.4%	4.7%	90.2%	46.6%	24.3%	19.3%	9.8%	40.0%	40.0%	20.0%
	専門基礎科目	86.1%	9.1%	95.3%	36.1%	26.2%	33.0%	4.7%	76.2%	4.8%	19.0%
	専門科目	91.3%	6.8%	98.0%	37.1%	33.0%	27.9%	2.0%	47.6%	9.5%	42.9%
	教職科目	87.9%	4.3%	92.3%	49.0%	17.3%	25.9%	7.7%	50.0%	0.0%	50.0%
	全体	88.3%	6.6%	94.9%	40.1%	28.2%	26.6%	5.1%	52.1%	16.0%	31.9%
平成21年度	学部共通科目(教養科目)	83.4%	4.7%	88.0%	42.8%	22.5%	22.8%	12.0%	56.5%	17.4%	26.1%
	専門基礎科目	84.8%	11.7%	96.5%	39.7%	26.1%	30.7%	3.5%	89.5%	10.5%	0.0%
	専門科目	90.7%	6.2%	96.9%	43.9%	29.3%	23.7%	3.1%	51.6%	9.7%	38.7%
	教職科目	92.5%	1.5%	94.0%	37.2%	40.9%	15.9%	6.0%	75.0%	0.0%	25.0%
	全体	87.2%	6.8%	94.0%	42.2%	27.1%	24.7%	6.0%	63.6%	11.7%	24.7%
平成22年度	学部共通科目(教養科目)	88.1%	4.0%	92.5%	46.1%	23.8%	22.3%	7.5%	50.0%	25.0%	25.0%
	専門基礎科目	86.6%	10.8%	97.5%	38.5%	25.2%	33.7%	2.5%	90.9%	0.0%	9.1%
	専門科目	94.8%	2.8%	97.6%	38.3%	26.9%	32.4%	2.4%	33.3%	22.2%	44.4%
	教職科目	88.5%	3.8%	92.3%	42.3%	21.2%	28.8%	7.7%	100.0%	0.0%	0.0%
	全体	89.3%	5.7%	95.2%	41.8%	24.8%	28.3%	4.8%	60.5%	15.8%	23.7%

看護学科における平成20年度から平成22年度入学生の単位取得状況、最終評価お

よび評価方法について、科目区分ごとの平均は上記の通りである。

単位の取得状況については平成 21 年度入学生に比較して、平成 22 年度入学生は若干高くなっており、また本試験での取得が増えている。平成 21 年度入学生への単位取得率に対する反省から、教授方法において、若干の改善がなされたと思われるが、入学試験の倍率が高かったこと、入学前教育を導入したことなども主たる要因であると考えられる。全体として、単位取得状況については 95%前後であり、問題ないものと考ええる。

最終評価については、全体として A (80 点以上) が 40%強、B (70 点～79 点) が 25%前後、C (60 点～69 点) も 25%前後であるが、平成 22 年度入学生について、C 評価が多くなっている。入学者数の増加により、その分成績不良者の割合が増えたとも考えられるため、C 評価が多い学生については、今後の学習指導において注意していかなければならないと考える。

評価方法については、平成 20 年度入学生については、3 年次の授業科目の多くが学外実習であるため、筆記試験の割合が減少しているが、平成 21・22 年度入学生については、筆記試験のみの評価が 60%超であり、課題による評価が 25%弱であることから、昨年度よりもさらに筆記試験による評価がふえており、看護師及び保健師の国家試験を視野に入れて評価す教員が増加しているものと考ええる。

2. 医療保健学部栄養学科

入学年度	科目区分	平均(単位の取得状況 %)			平均(最終の評価 %)				評価方法		
		本試	追再試	計	A	B	C	D	筆記	筆記・課題	課題
平成20年度	学部共通科目 (教養科目)	90.1%	6.2%	96.3%	44.6%	27.1%	24.6%	3.7%	44.0%	28.0%	28.0%
	専門基礎科目	88.9%	9.4%	98.3%	37.6%	31.0%	29.7%	1.7%	61.3%	22.6%	16.1%
	専門科目	93.2%	4.8%	98.0%	46.9%	25.1%	26.0%	2.0%	58.3%	22.2%	19.4%
	教職科目	98.0%	2.0%	100.0%	59.3%	20.9%	19.8%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	全体	91.4%	6.4%	97.8%	44.1%	27.2%	26.4%	2.2%	55.1%	22.4%	22.4%
平成21年度	学部共通科目 (教養科目)	89.3%	2.9%	92.2%	54.8%	21.5%	15.9%	7.8%	65.2%	21.7%	13.0%
	専門基礎科目	88.5%	9.5%	98.0%	42.4%	27.9%	27.5%	2.1%	67.9%	28.6%	3.6%
	専門科目	87.0%	11.3%	98.3%	41.0%	24.3%	33.0%	1.7%	58.8%	11.8%	29.4%
	教職科目	98.2%	0.0%	98.2%	55.2%	24.2%	18.8%	1.8%	75.0%	0.0%	25.0%
	全体	88.9%	7.3%	96.2%	46.8%	24.8%	24.6%	3.8%	65.3%	20.8%	13.9%
平成22年度	学部共通科目 (教養科目)	91.7%	3.3%	95.0%	51.4%	26.5%	17.1%	5.0%	62.5%	31.3%	6.3%
	専門基礎科目	80.8%	11.2%	92.1%	40.5%	25.1%	26.5%	7.9%	72.2%	22.2%	5.6%
	専門科目	78.6%	10.7%	89.3%	28.6%	30.4%	30.4%	10.7%	100.0%	0.0%	0.0%
	教職科目	87.0%	8.7%	95.7%	47.8%	17.4%	30.4%	4.3%	100.0%	0.0%	0.0%
	全体	85.8%	7.6%	93.5%	45.3%	25.4%	22.7%	6.5%	70.3%	24.3%	5.4%

栄養学科における平成 20 年度から平成 22 年度入学生の単位取得状況、最終評価お

よび評価方法について、科目区分ごとの平均は上記の通りである。

単位の取得状況について、平成 22 年度入学生については、95%より低くなっている。専門基礎および専門科目における単位取得状況が悪くなっており、これについては、個々の授業科目について、適切な教授法であるか、評価方法であるか等について、検討を行う必要があると考える。それ以外については、単位修得状況については、問題ないとする。

最終評価については、A (80 点以上) が 45%前後、B (70 点～79 点)・C (60 点～69 点)ともに 25%前後で、各年度入学生において、B 評価が C 評価を若干上回っている。おおむね適切な評価ができていると考える。

評価方法については、学年進行とともに、課題による評価が増加している。これは実験・実習科目の増加、学外実習科目の増加が影響しており、適切な評価方法であるとする。1・2 年次においては、演習・実技・実習科目が数多いにも関わらず、筆記試験による評価割合が大きく、管理栄養士国家試験を視野に入れた適切な評価方法であるとする。

(3) 単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の大学全体の現状。

看護学科と栄養学科では、演習、実験・実習の割合、単位認定の方法等において、それほど大きな違いがないのであるが、単位の取得状況において、栄養学科の方が、若干取得割合が高いという傾向が出ているが、平成 22 年度入学生については、逆転している。昨年度より、志願者が大きく増加したこと、入学前教育の効果など、これまでと異なった要因が存在しているため、今後十分な検証を行っていききたい。

評価については、両学科において差が生じ始めている。栄養学科の学生における A 評価の取得者が増加してきているが、全体としては適切な評価の割合であるとする。

平成 22 年度入学生については、看護学科では C 評価が増加していること、栄養学科では単位修得割合が 95%未満になってしまっていることなどの特徴が出てきている。こうした結果については、その原因について検討・考察する必要があると考える。教務・FD 委員会等で検討を行っていききたい。

平成 23 年度には両学科の在学生在が初めて国家試験を受験することになるが、各学科の教育目的・教育目標を達成しながら、国家試験を視野に入れた教育を実践していかなければならないのであり、教育目的・教育目標との関係で、適切な教育、適切な評価がなされているかについて、特に注意して検証していく必要があると考える。

【授業に対する学生の満足度について】

(1) 「学生の満足度」調査の概要

Ⅱ 教育内容－【教育改善への努力について】－(1)の「学生による授業評価アンケート」における最後の設問で「10. 授業の満足度を 5 段階で評価してください。」という設問で調査している。すべての授業において、授業時の印象が薄れないうちに短時間で調査するため、全体的な満足度のみの評価となっている。授業評価アンケートの

各項目の結果が高い授業が満足度も高い授業になっている傾向が高い。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて

1. 医療保健学部看護学科

学生授業評価アンケート結果における過去3年間の各授業の満足度平均は、下の表の通りである。

平成22年度については、講義・演習科目については、前後期ともに3.6を上回っており、前年度より高い満足度であったという結果が出ている。昨年度同様、中間評価に比べて、最終評価の平均値が高いこと、前期より後期の評価が高いこと、さらに前年度よりすべて時期に満足度が上回っていることなどから、看護学科担当の教員については、学生の満足度に配慮していると考えられる。

科目ごとの満足度については、前年度と同様、学生の苦手意識が影響していると考えられる科目について満足度が低い傾向は変わらないが、それらの科目についても、中間よりも最終評価が良くなっていることから、教員は学生の満足度に配慮するという姿勢が浸透してきているといえる。

なお、今年度から学外実習が本格的に開始され、それらの科目についても学生による評価の対象となったが、前後期ともに4点を超過しており、学生の満足度に十分配慮していると考えられる。

学科	科目区分	実施時期	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
看護学科	講義・演習科目	中間	3.71	3.74	3.52	3.61	3.60	3.61
		最終	3.66	3.63	3.53	3.68	3.63	3.74
	実験・実習科目※	中間	4.63		4.22		4.39	
		最終	4.19		4.40		4.29	
	学外実習科目	最終					4.01	4.13
※ 対象科目は2科目のみ								

2. 医療保健学部栄養学科

学生授業評価アンケート結果における過去3年間の各授業の満足度平均は、下の表の通りである。

平成22年度については、講義・演習科目については、看護学科同様、前後期ともに3.6を上回っており、前年度より高い満足度であったという結果が出ている。前期が中間評価より0.1ポイント低くなっているが、科目数が増えているにも関わらず、数字上は満足度が上がっていることは良い傾向であると考えられる。実験・実習科目については、前期よりも後期が低いという傾向は、相変わらずであるが、最終結果については、前年度を上回っているおり、実験・実習科目についても学生への満足度が配慮されていると考える。

個別の科目の満足度については、学生が苦手と意識している科目が低い傾向にあるが、徐々に改善傾向にあると考える。

学科	科目区分	実施時期	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
栄養学科	講義・演習科目	中間	3.50	3.56	3.59	3.55	3.65	3.61
		最終	3.54	3.56	3.64	3.61	3.64	3.64
	実験・実習科目	中間	4.08	3.86	4.06	3.74	4.05	3.78
		最終	4.16	3.79	4.00	3.78	4.02	3.84
	学外実習科目	最終						3.85

(3) 「学生の満足度」についての大学全体の現状分析

平成22年度の医療保健学部の学生による授業評価結果において、「学生の満足度」の項目について、すべての時期で両学科とも3.6を上回っており、またほとんどの時期で前年度を上回っていたことは、たいへん評価すべきであると考えられる。比較的評価の低い講義科目において、低い評価であった授業科目が徐々に改善され、ほとんどの科目で3及び4点台となっている。半期で2回実施する授業評価や授業参観などのFD研修の効果が現れてきているのではないかと考えている。

今後もこれまでの取組を継続して実施し、教員が学生の満足度に目を向けるような施策・研修を実施していきたい。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の退学、休学等の数

医療保健学部 看護学科の退学者一覧表

(平成23年3月31日現在)

学科	区分	平成20年度 入学	平成21年度 入学	平成22年度 入学	備考
看護学科	入学者数	75	76	※103	
	うち退学者数	8	4	5	
	うち休学者数	0	0	0	
	休学者のうちの復学者数	-	-	-	
	うち留年者数	0	0	0	
	※ 編入学生を含む				

医療保健学部 栄養学科の退学者一覧表

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

学科	区分	平成20 年度 入学	平成21 年度 入学	平成22 年度 入学	備考
栄養 学科	入学者数	33	56	64	
	うち退学者数	2	5	6	
	うち休学者数	0	0	0	
	休学者のうちの復学者数	-	-	-	
	うち留年者数	0	0	0	
	※ 編入学生を含む				

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）等に対する指導（ケア）の現状。

1. 医療保健学部看護学科

平成 20 年度入学者については、平成 20 年度(1 年次)に 6 名、平成 21 年度(2 年次)に 2 名の退学者が出ている。平成 21 年度入学者については、平成 21 年度(1 年次)に 3 名、平成 22 年度(2 年次)に 1 名の退学者が出ている。平成 22 年度入学者については、平成 22 年度(1 年次)に 5 名の退学者が出ている。平成 20 年度退学者の主な理由は、進路変更が 5 名であり、残り 1 名は学費未納による除籍である。平成 21 年度退学者については、理由が様々であり、就学意欲の低下が 1 名、就職を理由とする者が 1 名、学生個人の心身の事情が 2 名、家庭の事情が 1 名である。平成 22 年度退学者については、就学意欲の低下が 2 名、学力不足が 3 名となっている。その他の一名は他の教育機関への入学という理由であった。

2. 医療保健学部栄養学科

過去 3 年間の退学者数をみると、平成 20 年度入学者については、平成 20 年度(1 年次)に 2 名退学している。平成 21 年度入学者については、平成 21 年度(1 年次)に 4 名、平成 22 年度(2 年次)に 1 名が退学している。平成 22 年度入学者については、平成 22 年度(1 年次)に 6 名が退学している。平成 20 年度入学者の退学者については 2 名とも進路変更がその理由であり、平成 21 年度入学者の退学者は、進路変更が 1 名、学生個人の心身の事情が 2 名、家庭の事情が 1 名であった。平成 22 年度退学者については、就学意欲の低下、他の教育機関への入学が 2 名ずつと栄養学科とのミスマッチと思われる理由が過半数を占めている。その他の三名はそれぞれ就職、個人の心身の事情、学費未納による除籍が 1 名ずつであった。

3. 指導（ケア）の現状

退学を考え始めた学生とは丁寧な個人面談を実施して、その学生がどんな気持ちで

変更を希望しているのかを学生とともに考えている。本学はクラス担任制を導入しており、担任の働きかけや相談など、きめ細かな支援を行っている。また、保護者とも密接に連絡をとりながら、親身で細かな指導を行っている。

(3) 各学科の退学、休学等の現状分析

1. 医療保健学部看護学科

平成 20 年度入学者については、進路変更による退学者が 5 名あった。これは、設置認可後の学生募集であったため、本学看護学科に対する十分な説明が不足していたことも一つの要因と考え、入学前のオープンキャンパスや進学説明会では、学科に対する十分な説明を行うようにした。その成果もあって、平成 21 年度には、進路変更による退学者は減少することとなったが、学生個人の心身に関する事情による退学者が複数名いた。これらの学生は精神的な問題を抱えているケースとなっている。こうした学生に対応するため、クラス担任による面談やウェルネスセンターでのカウンセリングの活用を促進している。平成 22 年度には、学力不足と考えられる退学者が 3 名いた。学力不足対策については入学前教育、入学後教育等で対処しようと考えきたが、まだ十分な対策となっていないようである。今後の状況を見ながら、入学後のリメディアル教育とその単位化についても検討していきたい。

2. 医療保健学部栄養学科

平成 20 年度入学者については、退学理由はすべて進路変更であったが、入学前の学科についての説明が浸透した影響か、平成 21 年度の退学者について特徴的であったのは、学生個人の心身に関する事情による退学が 2 名いたということである。看護学科と同様に、これらの学生は精神的な問題を抱えているケースである。年々、ストレスを抱えている学生が増えている傾向にあるという印象であるが、退学に至らないよう、クラス担任による面談やウェルネスセンターでのカウンセリングの活用を促進している。平成 22 年度は上述の通り、栄養学科とのミスマッチと考えられる理由の退学者が多くいた。進学説明会、オープンキャンパス等で、学習内容、進路先などについて十分な説明をしていくなどの対策を取っていきたい。

(4) 大学全体の退学、休学等の現状分析。

上記のように、平成 20 年度については、進路変更が退学理由のほとんどであったが、平成 21 年度については、学生個人の心身に関する事情がそれぞれ複数名の退学理由となっている。そのため、ウェルネスセンターの支援により、問題を抱える学生への対処を強化していききたが、平成 22 年度については、学力不足、進路変更などの退学理由が増えてきた。上記対策は恒常的な退学者防止策であるので、継続的組織的な対策により、できる限り退学者が出ないように努力していきたい。

《V 学生支援》

【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対する、大学の建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像の明示方法。

本学では、大学要覧に建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的を平易な文章で記載している。また、本学のホームページでも同様に明示している。さらに、学生募集要項には、各学科の求める学生像について記載している。

(2) 入学志願者に対する、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）の明示概要。

学生募集要項に入学者受入方針と入学者選抜の方法を詳しく示してある。また、ホームページにも掲載している。例年5月より年4～5回程度、本学の専任教職員で実施している「高校訪問」（群馬県・栃木県を中心に約150校）や7月に開催している高校の教員対象説明会で、高校教員に対し入学者受入方針や選抜方法等について説明している。一方で受験生に対しては、6月末から10月まで本学で実施しているオープンキャンパスや、進学相談会で直接説明している。

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要

オープンキャンパスや進学相談会などの広報活動及び募集要項の配布、出願から入学手続きに至る入試業務全般は入試広報委員会のもと、各学科、大学事務局や法人事務局と連携を取りながら、入試広報課教職員が中心となり企画・運営をしている。また、高校訪問については入試広報課と学生募集委員会が中心となり実施している。しかし実際の活動は多岐にわたっているため、各学科の教職員やその他の部署の職員も手伝うなど全学的な協力体制の下に行われている。

入学志願者や受験生等からの問い合わせは、入試広報課の教職員が窓口となり対応しており、必要に応じて各学科にも対応してもらう体制となっている。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて(選抜方法ごとの概要)。

I. 入試の概要

1. 推薦入学試験

1.1 指定校推薦入試

①過去において本学に入学の実績がある高校を中心に指定校を定め、生徒の推薦を依頼

②高等学校から推薦者リストの受理

③願書受付 出願書類（志願票・写真票・受験票・調査書・出身学校長推薦書）及び入学検定料

④選考 小論文・面接（複数の教員による10分程度の個人面接試験）・書類審査

⑤合否判定（教授会での入試合否判定）

⑥合格発表 受験者全員に合否結果を郵送、出身学校長に合否結果を郵送で通知

1.2 推薦入試 (11月と12月の2回)

①願書受付 出願書類 (志願票・写真票・受験票・調査書・出身学校長推薦書) 及び入学検定料

②選考 小論文・面接 (複数の教員による10分程度の個人面接試験)・書類審査

③合否判定 (教授会での入試合否判定)

④合格発表 受験者全員に合否結果を郵送、出身学校長に合否結果を郵送で通知

2. A0入試 (前期、後期の2回)

①エントリーシートと課題の受付 (論文課題)

②事前審査 前期:ミニ講義体験 (グループディスカッション)、後期:面談 (複数の教員による30分程度の個人面談)・エントリーシート・課題の審査

③事前審査結果確認 (入試広報委員長による点数の確認と学長による受験の許可を・不許可の承認)

④事前審査の結果通知 事前面談者全員に受験許可・不許可を郵送で通知

⑤受験許可者の願書受付 出願書類 (志願票・写真票・受験票・調査書 (受験資格があることを証明する書類)) 及び入学検定料

⑥本審査 面接 (複数の教員による15分程度の個人面接)・書類審査

⑦合否判定 (教授会による入試合否判定)

⑧合格発表 受験者全員に合否結果を郵送で通知

3. 一般入試 (I期、II期の2回)

①願書受付 出願書類 (志願票・写真票・受験票・調査書 (受験資格があることを証明する書類)) 及び入学検定料

②選考 学力試験 (必修:英語I・II、国語 (国語総合に国語表現Iを加えたもの、古文・漢文を除く)、選択:数学I・A、生物I、化学I、物理Iから1科目)

③合否判定 (教授会での入試合否判定)

④合格発表 受験者全員に合否結果を郵送で通知

4. センター利用入試 (前期、中期、後期の3回)

①願書受付 出願書類 (志願票・受験票・調査書 (受験資格があることを証明する書類)) 及び入学検定料

②選考 大学入試センター試験 (必修:英語 (リスニングは除く)、選択:国語 (近代以降の文章)、数学 (数学I、数学I・A)、理科 (生物I、化学I、物理I) から1科目)

※本学での個別試験は課さない

③合否判定 (教授会での入試合否判定)

④合格発表 受験者全員に合否結果を郵送で通知

5. 特別選抜入試（社会人）

- ①願書受付 出願書類（志願票・写真票・受験票・調査書（受験資格があることを証明する書類）・履歴書）及び入学検定料
- ②選考 小論文・面接（複数の教員による10分程度の個人面接試験）
- ③合否判定（教授会での入試合否判定）
- ④合格発表 受験者全員に合否結果を郵送で通知

6. 編入学試験前期（推薦入学試験）

- ①願書受付 出願書類（志願票・写真票・受験票・志願理由書・健康診断書・出身学推薦書・卒業（見込み）証明書・学業成績証明書・看護師、栄養士の免許の写し）及び入学検定料
- ②選考 小論文・面接（複数の教員による15分程度の個人面接試験）・書類審査
- ③合否判定（教授会での入試合否判定）
- ④合格発表 受験者全員に合否結果を郵送、出身学校長に合否結果を郵送で通知

7. 編入学試験後期（一般入学試験）

- ①願書受付 出願書類（志願票・写真票・受験票・志願理由書・健康診断書・卒業（見込み）証明書・学業成績証明書・看護師、栄養士の免許の写し）及び入学検定料
- ②選考 学力試験（専門科目）・面接（複数の教員による15分程度の個人面接試験）・書類審査
- ③合否判定（教授会での入試合否判定）
- ④合格発表 受験者全員に合否結果を郵送、出身学校長に合否結果を郵送で通知

II. 入学試験実施体制

多様な選抜を実施するにあたり、入試広報課が中心となり、学長の下、大学運営評議会や教授会、入試広報委員会と密接な連携をして、「入学試験実施要項」に基づき全学を挙げての入試協力体制を組んでいる。すなわち、入学願書の受付から、当日の面接試験・学科試験の実施、試験後の採点、判定資料の作成、合否通知の作成・発送までの入試関連業務を全教職員で係分掌を定め、またそれぞれの係に主任を配置し、間違いなく進められるような体制で実施している。

実際の面接試験に関しては、複数の教員で一人の受験生に対応しており、面接の内容も判定要項の評価観点に基づき、それぞれが客観的に評価し、その結果の平均点で決定しており、公正性を保っている。

学科試験や小論文試験に関しても、学長から委嘱された学内の複数教員で問題を作成しており、また問題作成者以外の者が出題内容の適性をチェックする体制をとっている。その間、問題作成者や試験問題などの管理についても厳重に行っている。採点に当たっても複数の教職員で確認し、判定資料への入力・作成まで確実にこなっている。すなわち全体の運営に関しては、入試ミスを防ぐため複数の者による確認を徹底している。

可否判定については、教授会による判定会議を開き、作成した判定資料の結果から判定要項に基づき、厳正に合格者を決定している。

以上のことより、本学では多様な選抜を実施しているが、何れにおいても公正かつ適切に選抜試験を実施していると考えている。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対する、授業や学生生活についての情報の提供方法・概要

全入学手続き者に対しガイダンスを実施して、大学での学習内容と入学までの準備として取り組むべき課題を説明した。その上で、学科毎にレポート課題提示し、A0入試、推薦入試での入学手続き者には全員の提出を、それ以外の者については積極的な取り組みを求めた。また、主にA0入試、推薦入試での入学手続き者を対象に課題についてのスクリーニングを2回本学で実施するなど、大学入学までの学業について情報提供及び支援を行った。

一方で、自宅から通学ができない合格者に対して、学生課が作成したアパート情報を合格通知に同封し送付し、また前述のガイダンスでも質問のための時間を設定するなどして、駐車場や定期券など学生生活についての質問に答えた。

(6) 入学後（入学直前含む）の学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要。

前述の通り、全入学手続き者に対して入学前にガイダンスを実施し、学業や学生生活などについて説明をしている。

入学後には、まず入学式終了後、新入生と保護者を対象に授業・単位認定、学生生活、諸経費などについての概略を説明している。入学式の翌日には、短期大学部の新入生も含めた新入生全員を対象としたオリエンテーションを行い、まずは学生生活や事務諸手続についての説明を行っている。その後、大学の全新生を対象に、卒業要件、授業の履修方法、通常授業の概要、定期試験等について、教務課による説明を行っている。

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要。

各学科の学年ごとに担任より履修登録の方法について説明を行っている。入学時及び年度当初のガイダンスでは「履修の手引き」「履修登録カード」「シラバス(当該年度分)」を配布して、必修科目、選択必修科目、資格の取得に必要な科目、選択科目等に関する卒業要件などを説明し、またシラバスを参考にして具体的に科目選択をする方法について指導していく。後期開始時のガイダンスでは、「履修の手引き」「履修登録カード」を配布し、年度初めに配布した「シラバス」を使いながら履修指導を行っている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）

「履修のてびき」

(3) 基礎学力不足の学生に対する補習授業等の取組みの概要。

初年次教育として、1年生全員を対象に「授業に臨む姿勢」、「ノートを取り方」、「テキストの読み方」などについての授業や、「レポートのまとめ方」、「情報収集の仕方」などについての授業を実施しているが、基礎学力アップのためのいわゆる「リメディアル教育」を別枠で実施することはしていない。本学の場合、専門科目および専門基礎科目を学習するための基礎として位置づけられている学部共通科目（教養科目）も多いので、学期当初のガイダンス時には、シラバスを参照しながら、学科でこれから学習する事項、そのために必要とされる基礎学力、高校での授業科目と必要とされる基礎学力との関係、学科の教育課程における基礎科目と基礎学力・高校での授業科目との関係について説明し、学生各人が自分に必要な基礎科目を選択するように指導している。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制

学生の学習上の問題、悩み等に対しては、各学科の学科長および各クラス担任・副担任の教員を中心として、科目担当者との連携を取りながら、指導・助言のための取組みを行っている。学習上の諸問題として、たとえば、授業に対する欠席が目立つ学生への対策として、科目担当者に定期的に学生の出欠状況を確認し、欠席が目立つ学生に対してその原因を把握し対策を施すことによって出席を促すよう指導している。あるいは、授業の中で不明な点などがあるという問題に対しては、学生に科目担当者との積極的なかわりを持つよう指導する一方で、科目担当者へもそのような学生がいなか情報提供を求めるなど、学生が授業に積極的に関与できる環境づくりを進めている。

また、学生相談の相談内容のひとつとして学習上の問題を訴える学生も見受けられる。心因性ないしは発達的な問題を抱えているのではなく、純粹に勉強の仕方がわからない等の学習上の相談をしにくる学生に対しては、担当相談員（学部の教員）がその内容を聞き取り、学習方法についてのアドバイスを行っている。また、学習障害など発達的な問題によるものと考えられる場合は、心理学にかかわりのある教員が相談に応じ、個別に学習上のアドバイスを行う場合もある。いずれの場合も、必要に応じて、該当学生に許可を求めるなどして相談内容を担任・副担任に報告し、問題に対する対策をともに考えるなど、全学的な協力体制を敷いて対応している。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援

進度の早い学生や優秀学生のみを対象とした学習上の配慮・学習支援は実施していない。ただし、シラバスに各教員がオフィスアワーを記載し、学生が自発的に教員のもとに出向き、より発展した学習を行っていただけるよう配慮をしている。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制の現状。

(教員組織)

●学生支援センター

- ・学生相談 (奨学金、相談室)
- ・進路指導 (企業開拓、就職支援、キャリアサポート)

●ウェルネスセンター

- ・保健指導 (計画、管理、カウンセリング)

●学生委員会

●各科、担任

(事務組織)

学生課

福利厚生・課外活動・経済的問題などの学生生活全般について対応するために学生課は、学生支援センター・ウェルネスセンター・学生委員会と協力して業務に従事している。また、各科、担任と連絡を密に取りながら学生一人ひとりに合わせた、きめ細かい指導を実施している。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事の実施の状況。

1. クラブ活動

バレーボール、バスケットボール、フットサル、バトミントン、軟式野球、テニス、茶道、イラスト、軽音、グリーンエコ、Peer カウンセリング、仮装、ボランティア、が公認されている。

バスケットボール（女子）は、平成20年度に群馬県私大スポーツ大会で優勝している。同大会では、バトミントン（男子）が準優勝、バトミントン（女子）が3位と優秀な成績を挙げている。これらのクラブ活動は、各クラブで時間を設定し、週に1回程度行われており、学科や学年を超えた交流の場として、正規の授業では得られない貴重な経験が出来る機会となっている。

2. 学友会

学友会は全学生加入のもと、学生の自主的な活動により、品格教養の向上、学術・文化の探求、大学発展への寄与をはかり、心身共に健康な人間の育成を目的とする。全学生の意見を取り入れるために、各学科、学年、クラスから代議委員を2～4名選出し、40名前後の代議委員により、学友会役員が組織されている。代議委員は代議委員会を定期的を開催し、学友会主催の行事、学園祭や学園フェスティバルの企画運営など様々な活動を行っている。これらの活動において、学生委員会に所属する教員やクラス担任は補佐し、助言するなどの指導体制をとっている。

3. 学園祭（総合学園祭）

学園祭と学園フェスティバルは、毎年交互に開催し、学友会の中心行事であり、大学及び短期大学部の学生が共同で自主的に様々な催しを企画し運営する。平成21年度の学園祭は、附属幼稚園、高等学校と合同で開催した総合学園祭であった。実施に当たっては、代議委員会を中心にテーマを決定（平成21年度総合学園祭テーマ「CHANGE～明日へのとびら」）し、学生委員会所属の教員の助言、指導も行われながら、計画・準備が進められた。各学科による研究発表や作品展示等に加え、模擬店の出店、野外ステージでは、ダンス、バンド、歌、ファッションショー等の催しが行われた。また、平成記念ホールでは、看護学科の継承式、芸能人によるパフォーマンス、桐生市長とみどり市長による「食わず嫌い王」等のイベントも開催され、盛況に終了した。近隣の住民や卒業生、中学校、高等学校の生徒が多数来校し、学生と教員が一つになり、親交を深める事が出来た。平成22年度については、文化祭を実施しない代替行事として、学園フェスティバルを実施し、幼稚園、高校、短期大学部と一緒に予餞会のような発表会を実施した。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要

1. 食堂・学生ホール

11号館内1階に食堂、カフェ、ラウンジがある。食堂は、座席数260席である。カフェやラウンジにも椅子やテーブルがあり、学生が休息や自習をすることができるようになっている。飲み物や軽食の自動販売機やテレビも設置され、学生の憩いの場として利用されている。

2. 保健室

10号館（看護棟）2階に保健室を設置している。また、4号館1階に本学学生教職員や学校関係者が「心肺停止」状態になった場合に迅速に救命活動を行うことを目的として、AED（自動体外式除細動器）を設置している。

(4) 大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舎の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要。

下宿・アパート等の斡旋は行っていないが、希望する学生には、地元の信用できるアパート情報（アパート名、間取り、築年数、敷金、礼金、賃貸料、連絡先など）を提供している。また、学生の通学のために授業時間に合わせて、JR桐生駅から東武線新桐生駅経由でスクールバスを運行している。一方で自動車通学の学生のためには、駐車場を設置している。

(5) 平成22年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況

1. 日本学生支援機構奨学金

独立行政法人である日本学生支援機構の奨学金には、第1種奨学金（無利子）と第2種奨学金（有利子）とがある。平成21年度における日本学生支援機構奨学金の貸与

者(短期大学部含)は表 V-2 のとおりである。

日本学生支援機構奨学金の貸与者数(人)とその割合(%)

	平成 22 年度
第 1 種奨学金の貸与者	28
第 2 種奨学金の貸与者	161
第 1 種と第 2 種の併用貸与者	6
合 計	195
全学生に占める貸与者割合(%)	51.2%

(平成 22 年 8 月現在)

2. 桐丘学園独自の奨学金「関崎ミレニアム奨学金」

桐丘学園独自の奨学金として、「関崎ミレニアム奨学金」がある。これは経済的理由により修学が困難な学生に対して、桐丘学園が独自に貸与する奨学金であり、桐生大学短期大学部のほか、桐生大学や桐生第一高等学校、桐生大学附属幼稚園に籍を置く者で、貸与を希望し、学園による選考を経て認められた場合に貸与される。桐生大学では、平成 20 年度に 1 名、平成 21 年度に 3 名、平成 22 年度に 1 名が貸与を受けている。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要

1. 保健室

保健室は 10 号館 2 階西側に設置され、看護学科の保健委員(看護学科教員)が毎日の当番表にそって、必要時に対応している。当番になっている教員は専用の携帯電話をもっているため、必要時には直ぐに連絡を受けられるようにしている。また、AED は 4 号館の正面玄関入口、担架は 1 階東側倉庫内の入口に設置されており、緊急時の対応に備えている。

2. 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリング体制

ウェルネスセンターは保健室の管理、全学生の健康診断及び抗体検査を実施し、各学科の臨地実習に対応したワクチン接種を実施している。また、学生の悩みや問題などの相談を受けるために相談室を 10 号館 3 階東側に設けている。各学科の学校保健委員及び心理・カウンセリング担当の教員が、当番表にそって 12 時 30 分～13 時 20 分まで相談室に待機している。しかし、相談を受ける時間や相談員は、学生の要望や相談内容にも配慮し、別途相談時間を設けるなど随時対応している。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等の保管・保護状況。

入学時に「家庭状況調査表」を記入・提出させている。連絡や学生指導・学生支援のために必要な最小限の情報収集を目的としている。記入については、強制にならないよう配慮している。学生課が事務室所定の場所に保管し、管理に関する責任を負っ

ている。

その他、学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングなどの学生の心身面の健康に対する支援業務で学生の個人情報を取り扱う場合がある。たとえば、学生が健康診断を受診した場合の健康診断票についてはウェルネスセンター所属の教員が施錠可能な棚に診断票一式を保管し、その鍵を管理し、情報がむやみに漏洩することのないよう十分に配慮している。また、相談室に来室した学生の相談記録については、相談担当の教員が記録用紙を管理し、さらに、健康診断票と同様に記録用紙を鍵のかかる棚に保管している。また、記録用紙はスタンドアロンのパソコンにデータが保管されている。このパソコンは、相談室にかかわる教員のみが知るパスワードによって管理されており、個人情報の保護に十分な配慮をしている

(1) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

・学生支援センター

学生支援センターが就職支援の任務を主にになっている。同センターの就職支援業務は医療保健学部および短期大学の学生に対する学生相談、学生の進路指導、就職斡旋（紹介）、求人票の集計および開示、就職データの管理等である。組織体制（平成22年度）は、センター長（医療保健学部教授）、奨学金・福利厚生担当（短期大学部講師）、企業開拓・就職支援・キャリアサポート担当（学部教授・准教授、短期大学部准教授・講師）と短期大学の各学科最終学年担任で構成されていた。また、事務職員は含まれていない。

(2) 就職支援室、就職資料室等の現状、学生への就職情報等の提供方法。

・学生支援室の現状と情報提供

学生支援センターには、学生支援室1、2、3の3部屋があり、学生支援室1に就職に関する資料（求人票、各パンフレット等）がファイルされ置かれている。資料は一般職（栄養士含む）と看護職の2区分で整理されている。学生支援室2、3には求人票等を閲覧できるテーブルがあり、それぞれが個室になっているので、ここでの相談も可能である。学生はいつでも自由に入室、閲覧ができる。担当教員が不在のときは内線電話により各教員の研究室への連絡ができるように案内が掲示されている（研究室にも求人票のコピーがありこれをコピーすることも可能）。また、学生支援室前にはテーブルとキャビネットが置かれており、その他の就職関連資料を自由に持って行けるようにしてある。

・パソコンによる情報提供

就職情報は、学内のどのパソコンからも閲覧できるように整備してある。本学では、学生ひとり一人にユーザーIDとパスワードが設定されており、学内のパソコンであるならば、先のID等を利用することで学内専用の共有フォルダからアクセスでき、そこから求人票一覧と求人票そのものを閲覧できるようになっている。また、印刷が可能な環境では、学生は自由に求人票を印刷でき、コピーをとる手間を省いている。なお、全教

職員についても同様に求人票等の情報は閲覧可能になっている。また、学生にとって必要な情報は、掲示で周知するばかりでなく、直接担任教員にメールや内線電話により伝達し、学生への情報伝達を確実に行うよう心掛けている。

【多様な学生に対する支援について】

(1) 留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況、その学習支援、生活支援方法、体制。

留学生・社会人・帰国子女については、「小論文」「面接」を選考方法とする「特別選抜入試」を実施し、受け入れを推進している。また、「科目等履修生」(学則第 52 条)も受け入れており、その募集・入試も実施している。

平成 21 年度において、「特別選抜入試」を利用して入学した留学生・社会人・帰国子女はなく、また「科目等履修生」も応募がなかった。

【特記事項について】

(1) その他の学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していること。

学生の個人情報保護に関しては、大学・短期大学共通の学内規程である「個人情報保護に関する規則」第 3 条により、「すべての教職員は、本規則その他の本学の諸規程及び個人情報保護委員会の決定する施策を遵守し、個人情報を保護する責務を負」っている。具体的には、学生の個人情報の利用目的を明示した上での適切な手続きによる入手や学生個人情報の目的の範囲内での利用などについて義務を負っている。特に、学生個人情報の目的外利用や第三者供与については、法の求める手続きに従い、入学時の前期に学生本人および保護者に対して説明文書を配布した上で、「目的外利用や第三者供与についての同意書」を提出してもらっている。なお、提出にあたっては、強制にならないよう、十分に配慮している。

成績不良者については、各学科・学年を担当している担任およびそれを補佐する副担任が出席状況・単位修得状況等をチェックして、個々の学生に応じて、きめ細かに対応している。

《VI 研究》

【教員の研究活動全般について】

(1) 「専任教員の研究実績表」(平成 22 年度)

平成 22 年度 専任教員の研究実績表

医療保健学部 看護学科

氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
		著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
今関 節子	教授	1	0	1	0	無	有	
瀬野尾 章	教授	0	4	3	0	無	有	
加固 正子	教授	1	0	0	0	無	有	
佐々木 かほる	教授	0	0	2	視察報告:1 報告書:1	無	有	
松原 直樹	教授	0	1	0	講演:1	無	有	
松本 恭代	教授	0	2	1	0	有	無	
熊谷 一乗	教授	0	2	0	研究会報告:1	無	無	
松村 康弘	教授	1	4	2	0	無	有	
齊藤 敦子	教授	0	3	0	0	無	有	
鎌田 尚子	教授	2	4	0	対談等:2	無	有	
清水 千代子	准教授							
マチャコン H.T.C	准教授	0	2	0	0	無	有	
石沢 敦子	講師	0	0	0	0	無	有	
三木 園生	講師	0	0	3	0	無	有	
上星 浩子	講師	0	1	8	0	無	有	
佐藤 栄子	講師	0	3	0	解説:1	無	有	
福島 きよの	講師	0	5	0	0	無	有	
亀岡 聖朗	講師	0	3	1	0	無	有	
高橋 美砂子	講師	1	1	0	0	無	有	
林 かおり	講師	0	1	0	0	無	有	
内山 かおる	講師							
田邊 要補	講師	0	1	0	0	無	無	
西沢 三代子	講師	0	0	0	0	無	有	
浅井 直美	助教	0	0	1	0	無	無	
丸岡 紀子	助教	0	0	0	0	無	有	

医療保健学部 栄養学科

氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
		著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
多田 隼 卓史	教授	0	1	0	0	無	無	
井上 修二	教授	0	5	0	解説:3	有	有	
笠原 賀子	教授							
松本 伸子	教授	0	1	0	0	無	有	
榮 昭博	教授	0	1	0	0	無	無	
野中 博雄	教授	0	1	0	0	無	有	
笹澤 武	教授	0	0	0	新聞連載:1	無	有	
高橋 東生	教授	1	4	0	0	無	有	
清水 弘行	教授	3	4	0	1	無	有	
小林 葉子	准教授	0	3	6	0	無	無	
岸 美紀子	准教授	1	4	3	0	無	有	
今関 信夫	講師	0	3	0	0	無	無	
中山 優子	講師	0	0	3	研究ノート:1	無	有	
荒井 勝己	講師	0	1	3	0	無	無	
竹下 登紀子	講師	0	0	4	0	無	無	
石井 広二	講師	0	0	2	0	無	無	
羽場 亮太	講師	0	0	1	示説:3	無	有	
田口 和人	講師	0	0	0	0	無	有	
旭 久美子	講師	2	0	0	写真・ レシピ集:2	無	有	
小場 美穂	助教	2	0	4	0	無	無	

(2) 教員個人の研究活動の公開状況。

自己点検・評価報告書において、該当年度の所属教員の論文・学会発表等の研究活動状況を公表している以外は、個人で研究機関等のホームページで公表しているが、学校としては、JSTの論文・研究情報への情報提供を奨励している。

(3) 平成 22 年度の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況（件数）。

外部資金調達先等	平成 22 年度	
	申請	採択
科学研究費補助金	3	3

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況。

昨年度と同様、看護学科、栄養学科ともに共同研究組織での研究は実施していないが、専門分野の近い領域について、テーマごとの共同研究を実施し、論文および学会発表等を行っている。

【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度額等が記載されているもの）。

「桐生大学・短期大学部教員個人研究費規程」およびその細則である「個人研究費運用内規」「研究旅費に関する内規」で規定している。概要は次の通りである。

1) 教育研究費の交付金額は下記の通りである。

〈教授〉50万円 〈准教授〉40万円 〈講師〉30万円 〈助教〉15万円

2) 専任教員一人の研究旅費は、下記の通りである。

〈教授・准教授・講師・助教〉13万円

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保の概要。

平成 20 年度から「桐生大学紀要」を 1 回発行している。紀要には短期大学部の教員も登校可能であるが、大学の各学科の教員も積極的に投稿し、多数の論文が掲載されている。

さらに、各教員はそれぞれが所属する学会や研究会等で、研究成果を発表している。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況

	22年度	
消耗品	6,164,668	39.0%
会費・会議費	2,852,371	18.0%
旅費交通費	3,398,807	21.5%
教育研究用機器備品	522,795	3.3%
図書	1,879,702	11.9%
その他	1,002,840	6.3%
計	15,821,183	100.0%

平成 22 年度の決算より医療保健学部看護学科、栄養学科を合算した支出状況を概観すると、上記の通りである。消耗品費については文房具、コピー用紙等だけでなく、実験・実習用の消耗品が含まれているため、前年度同様、割合が多いものとなっている。

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況

各専任教員には、個別に研究室が与えられており、個室である場合が多いが、職分・部屋の広さ等の条件により、2人部屋となっている場合もある。各教員は、そこで研究に専念するとともに、学生指導を行っている。研究室については、全員にノートPCを配布し、学内LANにより常時インターネット接続が可能である。また、外線可能な電話機も設置している。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況

教員の研修については、四半期毎に事前に研修計画書を提出してもらい、それに基づいて研修を実施している。授業や会議等に支障ない限り、研修計画に基づいた研修は許可されている。週1日程度が目安ではあるが、特に週何日という取り決めはない。職分によって、差異はあるが、おおむね研修計画に基づいている限り、十分な研修日および研究時間が確保できている。

【特記事項について】

(1) その他教員の研究について努力していること。

大学と共通であるが、共同研究費を設定しており、申請があれば、大学評価室で審査の上、交付がなされることになっている。

《Ⅶ 社会的活動》

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

本学の教育理念である「社会に出て役立つ人間の育成」を実践していくためにも、社会的活動は大学・短期大学全体として重要な取組みと位置づけている。後述する「地域連携センター」の設置などは、地域貢献を主眼とする社会的活動に積極的に取り組む学校の姿勢のあらわれである。大学としては、教育課程の内外で周辺地域に貢献できるような社会的活動については、現状でもかなりの程度参画しているが、今後も、短期大学部と共同で、健康・栄養の分野では、地域における活動の中心となるべく、さらなる取組みを行っていきたいと考える。

(2) 社会人受け入れの状況。

これまでも社会人については積極的に受け入れる方針で募集活動等を行ってきたが、本学の場合、管理栄養士・看護師・保健師という国家資格に関わる領域であったため、教育課程において必修科目・実習等の制約が大きく、職業を続けながら登学することは困難であるため、実際の受け入れはほとんどないのが現状である。

教育課程上の制約から多くの社会人が応募してくることはないが、地域の健康・栄養等の分野で活躍する人材の知識・技術を向上させるため、積極的に受け入れていきたいと考えている。

(3) 平成 21 年度に大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況。

平成 21 年度

開催日	講座名	講師
10月17日	国家の品格—日本の心を取り戻す	藤原 正彦

(受講者 約 400 名)

(4) 平成 21 年度) の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について。

1. 群馬県警察本部との連携事業

- * 大学として“犯罪被害者支援に関する講演会”を、全学生を対象に年 1 回実施している。
- * 群馬県警・大学犯罪被害者支援ネットワークに参加し、県内大学との情報交換や学生の防犯に関する協力を行っている。
- * 犯罪被害者支援・犯罪防止セミナーを開催した（平成 22 年度）

2. 桐生市国際交流協議会

桐生市の国際交流の促進を図る本協議会に参加し、大学教員ならびに学生の国際感覚と理解を深めることに努力している。

3. 桐生大学—みどり市地域連絡協議会

平成20年4月8日の“桐生大学とみどり市との連携協力に関する包括協定”に基づいて、下記の事業が行われた。

- * 桐丘学園総合学園祭
- * みどり市環境基本計画の作成
- * みどり市ブランド創出事業
- * こども造形教室
- * みどり市施設巡りへの協力
- * みどり市男女共同参画推進事業
- * みどり市健康講座の開催
- * その他、合計17事業が実施された。

4. 群馬県看護師協会との連携

5. 群馬県栄養士協会との連携

6. 群馬県助産師協会との連携

【学生の社会的活動について】

(1) 平成22年度の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

みどり市や桐生市の地域活動への参加は、両市の関係諸団体や関係部署から依頼により行われてきたものが多い。その活動は下記のようなものがある。

- * 桐生市八木節祭りの企画・運営への参加
- * 群馬県の食材を利用した弁当の企画
- * その他、両市主催の各種イベントへの参加

(2) 学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等への評価。

桐生大学は、“桐生大学とみどり市との連携協力に関する包括協定”を結ぶなど、大学として学生が地域社会との連携に参加しやすい土台・組織体制をつくり、積極的な地域貢献活動への参加を呼びかけている。

【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 平成22年度の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況。

特になし

(2) 平成 22 年度の大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

特になし

(3) 平成 22 年度の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況。

国際学会発表 1 件（科研費補助金対象）

【特記事項について】

(1) その他の社会的活動。

社会的活動については、学園全体で取り組んでおり、例えば、同じ学園に属する高校である桐生第一高校、桐生大学附属幼稚園と一緒に地域のイベントとして、総合学園祭を開催している。他にも、高校や幼稚園と一緒に地域の催しに積極的に参加している。

また、周辺地域にある「みどり市民体育館」については、「桐生大学グリーンアリーナ」というネーミングライツを得ることにより、みどり市民の健康増進、生涯スポーツを支援している。

《Ⅷ 管理運営》

【法人組織の管理運営体制について】

(1) 理事長の大学の運営へのリーダーシップ、また大学に係る重要事項の決定と、理事長の関与。

理事長は常勤であり、定期的に学長及び学部長から経営面や教学面など全般にわたる報告を受け、それについて協議を行っている。さらに、場合によっては、各学科長からも直接報告を受けるなど、法人及び大学の現状把握に積極的に努め、適切に運営を行っている。また、大学の入試広報及び教学面に関わる具体的な重要事項についても、起案・報告書等の決裁を通じて、現状及び問題点を把握している。それらの過程で問題が生じた場合には、学長及び学部長と協議しながら、重要事項の意思決定に関与している

(2) 平成22年度の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）

理事会の開催状況（平成22年度）

開催年月日	出席者数	監事の出席状況	議 事 内 容
平成22年5月27日	7	2/2	1. 学校法人桐丘学園 平成21年度事業報告に関する件 2. 学校法人桐丘学園 平成21年度決算報告に関する件 3. 学校法人桐丘学園 平成21年度監査報告に関する件 4. 学校法人桐丘学園 役員および評議員の改選に関する件 5. 桐生大学短期大学部専攻科の改組に関する件 6. その他 原案のとおり承認・可決
平成22年6月30日	6	2/2	1. 桐生第一高等学校 学則変更に関する件 2. 桐生大学 学則変更に関する件 3. その他 原案のとおり承認・可決
平成22年9月29日	7	2/2	1. 桐生大学附属中学校設置に関する進捗状況の報告 2. 各校上半期の報告(学生・生徒等の募集計画を含む) 3. その他 原案のとおり承認・可決
平成23年1月27日	5	2/2	1. 認定こども園桐生大学附属幼稚園の移転に関する件 2. 認定こども園桐生大学附属幼稚園の補正予算(案)に関する件 3. 桐生大学附属中学校設置認可の報告および校舎変更に関する件 4. 諸規程等の一部改正に関する件 5. 桐生が岡遊園地観覧車ネーミングライツ取得に関する件 6. 桐生大学学生駐車場新設および補修工事に関する件 7. その他 原案のとおり承認・可決
平成23年3月29日	6	1/2	1. 東北地方太平洋沖地震による被害状況と復旧対策に関する件 2. 学校法人桐丘学園 平成23年度事業計画(案)に関する件 3. 学校法人桐丘学園 平成24年度予算(案)に関する件 4. 桐生大学大学院設置認可申請および寄附行為変更認可申請に関する件 5. 第3号基本金の取崩しに関する件 6. 校地取得に係る第3号基本金組入れに関する件 7. その他(年度末における各校の報告等) 原案のとおり承認・可決

「学校法人桐丘学園寄附行為」においては、理事会について下記の通り規定している。

(理 事 会)

第十六条 この法人に、理事をもって組織する理事会をおく。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、理事長が招集する。

- 4 理事会は、理事総数の三分の二以上の理事から、会議に附議すべき事項を示して、理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 理事会の招集は、各理事に対し会議開催の場所、日時および会議に討議すべき事項を書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合には、前項および本項本文の規定にかかわらず、相当と認める方法で通知することができる。
- 7 理事会に議長をおき、理事長をもってあてる。
- 8 理事長が第四項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。ただし、第十二項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りでない。
- 10 前項の場合において、理事会に附議される事項につき、他の理事に委任状を交付し、あらかじめ議決権の行使を委任した者は、前項の出席者とみなし、議決数に計上する。
- 11 理事会の議事は、法令およびこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 12 理事会の議決について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

理事の選任については、「学校法人桐丘学園寄附行為」第6条にしたがい、適正な手続きで専任されている。現員の理事の内訳は、所属長である1号理事が3名(定員3～4名)、「評議員のうちから互選により専任された」2号理事が1名(定員1名)、1号及び2号「理事の過半数により専任された」3号理事が3名(定員2～3名)である。したがって、私立学校法の規定に照らしても、著しい偏りは存しない構成になっている。

(3) 常任理事会、幹部会等の名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等。

該当なし

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成21年度における監事の業務執行状況。

「学校法人桐丘学園寄附行為」において、監事の業務について下記のように規定している。

(監事の職務)

第十五条 監事は、次の各号にかかげる職務を行う。

- 一、この法人の業務を監査すること。
- 二、この法人の財産の状況を監査すること。
- 三、この法人の業務または財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後二月以内に理事会および評議員会に提出すること。
- 四、第一号または第二号の規定による監査の結果、この法人の業務または財産に関し不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、または理事会および評議員会に報告すること。
- 五、前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること。
- 六、この法人の業務または財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること。

また、平成 21 年度の監事の業務執行状況は下記の通りである。

(1) 財産状況の監査

平成 20 年度会計決算に伴う会計帳簿類について、監査を実施。

監査の結果、異状なし。

平成 20 年度学校法人会計収入支出決算について理事会、評議員会において監査結果を報告。

また、公認会計士 園田昇、公認会計士 園田誠と連絡を取りながら指導を受けている。

(2) 業務状況の監査

毎回、理事会に出席し、法人の業務執行状況の掌握と運営について理事との協議、報告を実施している。

監査の結果、異状なし。

(5) 平成22年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

評議員会の開催状況（平成22年度）

開催年月日	出席者数	監事の出席状況	議 事 内 容
平成22年5月27日	15	2/2	1. 学校法人桐丘学園 平成21年度事業報告に関する件 2. 学校法人桐丘学園 平成21年度決算報告に関する件 3. 学校法人桐丘学園 平成21年度監査報告に関する件 4. 学校法人桐丘学園 役員および評議員の改選に関する件 5. 桐生大学短期大学部専攻科の改組に関する件 6. その他 原案のとおり承認・可決
平成22年6月30日	12	2/2	1. 桐生第一高等学校 学則変更に関する件 2. 桐生大学 学則変更に関する件 3. その他 原案のとおり承認・可決
平成22年9月29日	15	2/2	1. 桐生大学附属中学校設置に関する進捗状況の報告 2. 各校上半期の報告(学生・生徒等の募集計画を含む) 3. その他 原案のとおり承認・可決
平成23年1月27日	12	2/2	1. 認定こども園桐生大学附属幼稚園の移転に関する件 2. 認定こども園桐生大学附属幼稚園の補正予算(案)に関する件 3. 桐生大学附属中学校設置認可の報告および校舎変更に関する件 4. 諸規程等の一部改正に関する件 5. 桐生が岡遊園地観覧車ネーミングライツ取得に関する件 6. 桐生大学学生駐車場新設および補修工事に関する件 7. その他 原案のとおり承認・可決
平成23年3月29日	13	1/2	1. 東北地方太平洋沖地震による被害状況と復旧対策に関する件 2. 学校法人桐丘学園 平成23年度事業計画(案)に関する件 3. 学校法人桐丘学園 平成24年度予算(案)に関する件 4. 桐生大学大学院設置認可申請および寄附行為変更認可申請に関する件 5. 第3号基本金の取崩しに関する件 6. 校地取得に係る第3号基本金組入れに関する件 7. その他(年度末における各校の報告等) 原案のとおり承認・可決

「学校法人桐丘学園寄附行為」においては、評議員会について下記のように規定している。

(評議員会)

第二十一条 評議員は、評議員会を組織する。

- 2 評議員会は、理事長が招集する。
- 3 理事長は、評議員総数（現に在任する評議員および任期満了後なおその職務を行う評議員の総数をいう。以下同じ。）の三分の一以上の評議員から会議に附議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内に、これを招集しなければならない。
- 4 評議員会を招集するには、各評議員に対し、会議開催の場所、日時、および会議に附議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 5 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合には、前項および本項本文の規定にかかわらず、相当と認める方法で通知することができる。
- 6 評議員会に議長をおき、理事長がこれにあたる。
- 7 評議員会には、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決することができない。
- 8 前項の場合において、評議員会に附議される事項につき、他の評議員に委任状を交付し、あらかじめ議決権の行使を委任した者は、前項の出席者とみなし、議決数に計上する。
- 9 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 10 議長は、評議員として議決に加わることはできない。

（諮問事項）

第二十三条 次にかけらる事項については、理事長はあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- 一、予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）および基本財産の処分ならびに運用財産中の不動産および積立金の処分。
- 二、事業計画。
- 三、予算外の新たな義務の負担または権利の放棄。
- 四、寄附行為の変更。
- 五、合併。
- 六、目的たる事業の成功の不能による解散。
- 七、寄附金品の募集に関する事項。
- 八、その他、この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの。

（評議員会の意見具申等）

第二十四条 評議員会は、この法人の業務もしくは財産の状況または役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、もしくはその諮問に答え、または役員から報告を徴することができる。

(6) 法人の運営管理について今後改善や変更をしたいと考えている事項、また法人が抱えている問題あるいは課題。

特になし

【教授会等の運営体制について】

(1) 学長の教育活動全般についてのリーダーシップ、および大学に係る教育・研究上の事項の決定の流れ、学長の関与。

学長は「学長選考規程」に基づき、理事会で選考を行う。任期は4年で、再任を妨げないこととなっている。学長は、教授会の議長となり、学則第10条に規定されている事項についての審議を主宰するとともに、各種委員会の指揮監督を行う。また、大学・短期大学の基本方針・重要事項を審議する「大学運営評議会」の議長として、学則第9条に規定されている事項についての審議を主宰して、リーダーシップを発揮している。各種委員会での審議事項については、教授会で委任されている事項については、各委員会で審議し、学長の決裁を仰ぐこととなる。

このように学長は、大学の教育活動において、方針決定・運営に、リーダーシップを発揮して、大きく関与している。

(2) 大学運営評議会および教授会についての学則上の規定（大学運営評議会および教授会で議すべき事項等を含む）、平成22年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）

大学運営評議会について、学則上の規定は次の通りである。

（評議会）

第9条 本学に、本学の重要事項を審議するため大学運営評議会（以下「評議会」という。）を置く。

2 評議会は、次の各号に掲げる評議員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 学部長
- (3) 学長が指名する者

3 評議会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育及び研究活動の基本に関する事項
- (2) 大学の組織及び運営に関する事項
- (3) 学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- (4) 教員人事の方針及び重要な人事に関する事項
- (5) 大学の将来計画に関する事項
- (6) 学年歴及び全学的行事に関する事項
- (7) 入学、卒業又は課程の修了その他、学生の在籍に係る方針及び学位の授与に係る方針に関する事項
- (8) 教学関係予算の編成方針及び予算の配分等に関する事項
- (9) 学生の厚生補導の基本に関する事項

- (10) 学生の賞罰の基本に関する事項
- (11) 学長から諮問された事項
- (12) 教授会から提案又は付託された事項
- (13) その他必要な事項

4 評議会に関し、その他必要な事項は別に定める。

教授会について、学則上の規定は次の通りである。

(教授会)

第10条 本学に、学部の重要事項を審議するため教授会を置く。

2 学部の教授会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 当該学部の教授
- (2) 当該学部の准教授
- (3) 学部長が指名する者

3 学部の教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 学部内規程等の制定及び改廃に関する事項
- (2) 教員の人事に関する事項
- (3) 予算に関する事項
- (4) 学生の入学・進学・転学・休学・退学及び卒業並びに除籍に関する事項
- (5) 編入学生の単位の認定に関する事項
- (6) 研究生・聴講生・科目等履修生及び外国人学生に関する事項
- (7) 教育課程の編成及び試験に関する事項
- (8) 学生の厚生補導並びに賞罰に関する事項
- (9) 学長の諮問した事項
- (10) その他本学部の教育・研究及び運営に関する重要事項

4 教授会はその任務の一部を、教授会により設置が認められた各委員会に付託することができる。

5 教授会に関し、その他必要な事項は別に定める。

大学運営評議会開催状況（平成22年度）

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
22	4	13	(協議) 編入生の教職課程の履修について	9	10
22	4	27	連絡・報告事項のみ	8	10
22	5	11	(協議) 今年度のオープンキャンパスについて、今年度の入試の指定校について	10	10
22	5	25	連絡・報告事項のみ	10	10

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
22	6	8	連絡・報告事項のみ	9	10
22	6	22	(協議)専攻科の廃止・別科の設置について	6	10
22	7	13	(協議)授業の課題に対するネット情報の提出について	10	10
22	7	27	(協議)別科設置に伴う学則変更について	8	10
22	9	14	連絡・報告事項のみ	9	10
22	9	28	(協議)看護継承式について	10	10
22	10	12	連絡・報告事項のみ	9	10
22	11	2	連絡・報告事項のみ	10	10
22	12	14	(協議)群馬県・大学地域連携協議会からの研究者データの公表について,保健師教育について	9	10
23	1	18	連絡・報告事項のみ	9	10
23	2	8	連絡・報告事項のみ	8	10
23	2	22	(協議)短期大学部学位授与式の実施要項について	9	10
23	3	8	(協議)短期大学部学位授与式の実施要項について(再),新年度の年間行事予定	10	10
23	3	22	(協議)教職課程科目の変更に伴う学則改正について,委員会組織について	10	10

教授会開催状況 (平成 22 年度)

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
22	4	27	編入学者等の単位認定, 紀要投稿規定	19	24
22	5	25	平成23年度入学試験概要	23	24
22	6	22	(報告)専攻科の廃止について	22	24

年	月	日	主な議題	出席者数	定数
22	7	27	大学別科設置に伴う学則の改正について、「試験における不正行為者処分規程」について、平成23年度募集入試判定要項について	23	24
22	9	28	学生の身分について、編入学試験の判定について	22	24
22	11	2	AO入試(前期)の判定について	23	24
22	11	22	推薦入試(I期)の判定について、別科判定要項について	21	24
22	12	14	推薦入試(I期)の判定について	21	24
23	1	18	AO入試(後期)の判定について	24	24
23	2	8	一般入試(I期)の判定について、センター入試(前期)の判定について、別科一般入試の判定について	23	24
23	2	22	センター入試(前期)の判定について	23	24
23	3	8	(報告)短期大学の卒業判定結果および専攻科修了判定結果について	21	24
23	3	15	一般入試(II期)の判定について	20	24
23	3	22	センター入試(前期)の判定について	18	24
23	3	29	学生の身分について、「桐生大学履修規程」および「試験における不正行為者処分規程」の改正について	21	24

(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成22年度の開催状況等

教授会の下各種委員会の状況

委員会名	根拠規程	主な業務	開催状況(H22年度)
教務委員会	教務委員会規程	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の教育に係る規程の制定及び改廃に関する事項 ・編入学、転部、転入学等に関する事項 ・学科の教育に関する事項 ・他大学・短期大学等との教育連携に関する事項 ・高等学校教育との連携に関する事項 ・社会と連携する教育及び社会人教育に関する事項 	7回開催

		項 ・留学生教育に関する事項 ・教職課程に関する事項 他	
学生委員会	学生委員会規程	・学生行事の企画・運営に関する事項 ・学生指導に関する事項(学生の賞罰, 学生及び学生会の活動, 代議員会の運営補佐, その他学生指導) ・学生の福利厚生に関する事項(奨学金, 通学, 等) ・学生支援センターとの連携, その他	4回開催
入試広報委員会	入試広報委員会規程	・入学者選抜試験(学力試験、面接、小論文、実技、調査書その他による選抜)に関する事 ・合格者判定資料に関する事 ・学生募集に関わる広報に関する事 ・その他	8回開催
危機管理委員会	危機管理委員会規程	・総合的な危機管理体制の整備に関する事項 ・危機管理を必要とする諸問題に関する事項 ・全学的な防災訓練等の実施に関する事項 ・関係委員会等との連絡調整に関する事項 ・その他	なし
業務運営管理委員会		・各学科、事務部署について、業務運営・文書管理・備品管理について、年2回の定期点検を実施する。 ・各学科、事務部署ごとの定期点検報告書を学長に提出する。	年2回業務運営管理を実施
紀要委員会	紀要投稿規程	・投稿原稿の受理 ・投稿原稿の採否と投稿原稿の種類 ・出版先への依頼、投稿者との連絡・調整	持ち回りで開催
学生募集委員会		・学生募集の方針 ・学校訪問対応 ・進学説明会対応	4回開催
F D委員会	F D委員会規程	・教育研究活動改善の方策に関する事項 ・初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項 ・学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項 ・公開授業実施計画の立案、公開授業の実施・検討会の開催 ・F Dに関する教員への各種相談・指導に関する事項 ・教員のF D活動の指針に関する冊子及びF D活動報告書の刊行 ・その他	7回開催
倫理委員会	倫理委員会	・倫理審査の対象となる事項に関し定められた手続きを経た申請に対し、検討する。	3回開催
科学研究行動規範委員会	科学研究行動規範委員会規程	・桐生大学・短期大学部の科学研究における行動規範に違反する不正行為に対処し行動規範の遵守を促す	なし
動物実験委員会	動物実験委員会規程	動物実験責任者から提出された動物実験計画書が、適切かどうかを審査するとともに、適切な指導、助言を行う	1回開催
遺伝子組換え実験安全管理委員会	遺伝子組換え実験安全管理規程	桐生大学・短期大学部における遺伝子組換え実験を計画し、実施する際に、学長の諮問に応じて、実験について調査・審議し、その結果を学長に対し、助言又は勧告する。	1回開催
学校保健委員会		・学校保健に関する年間計画の作成 ・学生健康診断の実施計画・診断機関との連絡調整 ・抗体検査等の実施計画 ・保健室・相談室の運営 ・大学・短期大学部における感染症対策	4回開催
図書委員会	図書委員会規程	・図書館の運営管理方針の決検討 ・図書館の事業計画策定 ・図書購入計画の検討 ・定期購読雑誌の検討	2回開催

個人情報保護委員会	個人情報保護に関する規則	個人情報の保護に関する全学的な施策に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> ・個人データを含むコンピュータシステムの整備、個人データを含む帳簿等の管理など、個人データの適正な管理のための方法・措置に関する事項 ・個人データの開示、訂正もしくは抹消、利用停止、利用目的の通知の各請求、又は苦情申立がなされたときに、学長に付議された事項 ・個人データの情報漏れ等の事故を防止するための方法・措置及び事故が生じた場合の対策等に関する事項 ・その他 	なし
ハラスメント防止委員会	ハラスメント防止委員会に関する規程	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントに関する相談および苦情に対するための窓口を設け、相談員を置く。 ・ハラスメントに関する事実調査のため、調査員を置く。 ・ハラスメントに関する問題処理を行う。 ・ハラスメントを防止するため、学生及び教職員に対する啓蒙指導や広報活動を行う 	11回開催
情報セキュリティ委員会			5回開催

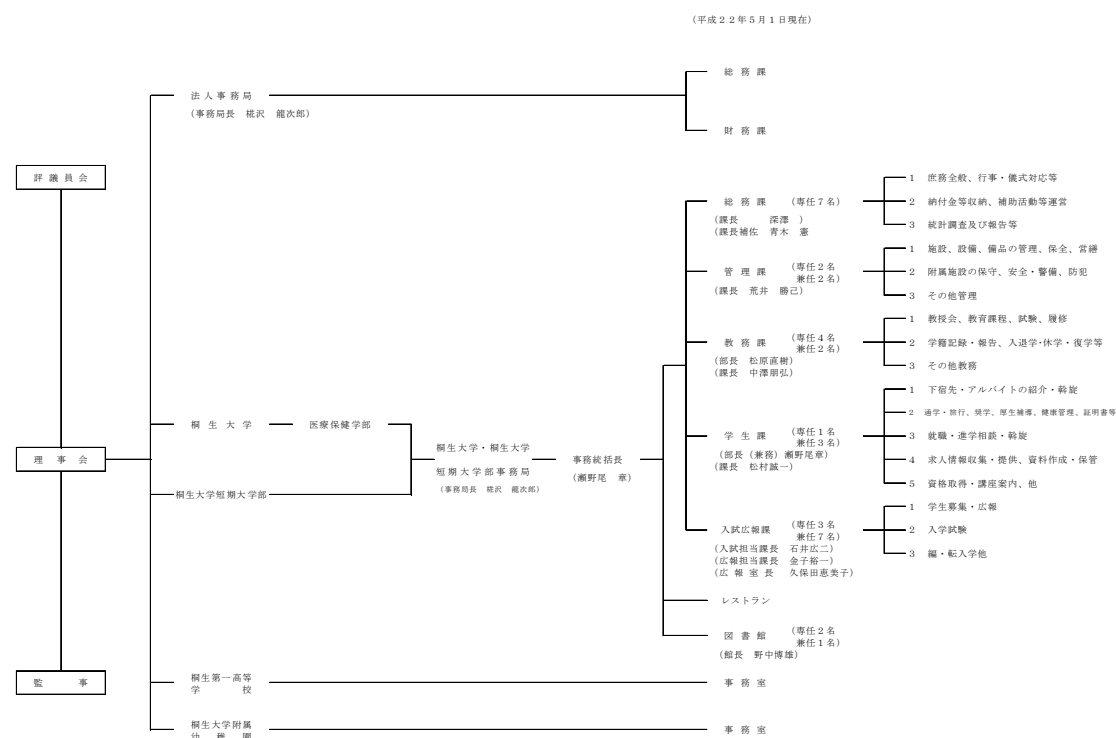
(4) 大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題

平成20年より、同じ敷地内に桐生大学医療保健学部看護学科および栄養学科を設置した。もともとは短期大学部にあった看護学科を改組し、また生活科学科100名定員のうち、60名を栄養学科に移行し、生活科学科の定員は40名に減少させた。そのため、それまでの350名から230名に収容定員を変更した。収容定員に応じ、多くの教員が短期大学から大学医療保健学部に移籍したため、それまでよりも小人数の教員で短期大学の運営がなされなければならなくなった。収容定員が減少しても、短期大学運営として、教務・入試広報・学生生活指導等、教員が関わる校務分掌上の領域が減少することはないので、1人の教員が受け持つ領域が多くならざるを得ない状況になっていることは課題である。学校保健、個人情報保護、図書など大学・短期大学一体で取り組んでも支障がない領域については、大学と共同で取り組むことで教員の負担軽減をはかっている。それでも、教務(教育課程の検討など)や入試広報(学生募集・入試の実施など)については、学科で独自に対応しなければならない領域も多いので、役割分担・効率的な運営により、教育研究活動の時間を確保するよう努めている。

【事務組織について】

(1) 現在の法人全体の事務組織図、事務部門の役職名（課長、室長相当以上。兼職の有無を含む）、各部門の人員（専任・兼任の別を含む）、各部門の主な業務

法人組織機構図



(2) 事務組織について整備している諸規程名

学校法人桐丘学園組織事務分掌規程

(3) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状

決裁については、各事務部署および各学科から起案書のかたちで大学・短期大学部事務局総務課に提出される。その際、各部門の責任者（学科長・事務部門の課長等）が起案者であるか、または承認していることが要件となる。その後、関係部署・短期大学部長・学長に回覧をし、原則として、それら役職者の承認を得ることが必要である。その後、本部事務局の財務課長・事務局長・理事長に回覧し、それらの役職者の承認を得て、起案書が最終的に決裁されることになる。

短期大学長印は学長が学長室の鍵のかかる場所に管理しており、理事長印も理事長が自身で理事長室の鍵のかかる場所に保管している。

重要書類については、4号館1階の事務局に設置してある耐火金庫（2種）に保管している。学籍簿・卒業判定資料・入学判定資料等の教務・入試関係重要書類もそれらの耐火金庫に保管している。

防災については、各号館の各階・各教室・部署等に防火責任者をおき、防災マニュアルに基づき対応することとしている。なお、年1回は大学・短期大学部合同で防災訓練を実施している。

情報システムについては、メディア情報センターで日常的なPC端末及び学内通信網のメンテナンスおよびセキュリティ対策を講じているが、情報セキュリティ委員会においても、安全対策の方針・見直し等を検討している。

(5) 事務職員と教員・学生との関係

事務職員のうち、教務課及び学生課の職員は学生に直接対応する機会が多い。教務課については、履修届の提出とそのチェック、追再試験の手続、証明書の発行等、ルールに基づいて実施される事務が多いので、ルールを守らない学生に対してはどうしても厳しく対応せざるを得ないことが多い。それでも、事務職員はルールの範囲内では柔軟に対応しているので、学生の不満が聞こえてくることは少ない。学生課については、代議委員会という学生の代表者会議やクラブ・サークル活動を手助けしているが、学生の意向を可能な限り汲んでいるせいか、比較的支持されていると考える。また、入試広報課については、オープンキャンパス等で在学生に協力してもらっているが、学生は進んで協力してくれているので、比較的良好な関係であると考えている。

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント (SD) 活動 (業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等) の現状

各種事務研修会 (日本私立短期大学協会主催、等) に担当者を出席させ、事務職員の能力開発及び日常事務処理の効率化に努めている。

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

平成20年度から同じ敷地内に大学を設置したため、事務組織も改編の途上にある。効率的に事務組織を運営するため、大学及び短期大学部事務局として運営しているが、学生の福利厚生、図書館・共有する施設の管理など、一体として処理できることについては、効率化が図られてはいるが、教務や入試広報分野については、一体とした処理ができない分野も数多く存する。今後は、そうした領域について、事務処理をマニュアル化し、いっそうの効率化を図るようにしていきたい。

また、小規模校であるため前述のように短期大学部教員の負担が大きくなりがちである。広報活動などにおいては、事務職員や大学教員と一体になって取り組むことで、負担軽減に努めたいと考える。

【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、大学が抱えている問題あるいは課題

大学の授業時間は、9時20分に1時限目が始まり、18時10分に5時限目が終了す

る。学生・来訪者等への十分な対応を行うため、職員については2交代制で対応しているが、教員については、担当授業時間や研究状況に柔軟に対応するため、1日の勤務時間についてフレックスタイムで対応している。職員については、勤務の現状をある程度正確に把握できてはいるが、教員については、勤務の状況を正確に把握することは難しく、担当している校務や教育により偏りが生じている可能性がある。そのため、年度末に全教員に対し、「教育研究学生指導等報告書」の提出義務を課し、教員の勤務状況のできる限り正確な把握に努め、職務の偏りを解消するよう努力している。

(2) 法人（理事長及び理事会等）と大学教職員の関係

法人との連携については、学長が理事を兼務しており、また短期大学部長が法人事務局長及び評議員を兼務しているため、理事長や理事会・評議員会の意向は短期大学の運営に十分に反映されている。また、短期大学の重要事項は教授会で審議・協議されるだけでなく、ほとんどの場合、理事会でも審議・決定されている。また、理事長は教員と積極的に面談するよう心がけており、日頃から、大学・学科の実態についての情報収集及び問題把握に努めている。さらに、教職員がその能力を最大限発揮できるような働きやすい職場環境の整備に努めている。

(3) 教員と事務職員との関係

(現状)

本学の場合、大学を含めて教員と事務職員がかなり協力して学校運営を行っていると考えられる。

入学式・卒業式などの儀式や公開講座・学園祭などの行事については、役割分担のもと、事務職員に委ねてしまうことなく、ほとんどの教員が運営に参加している。

また、入試広報活動については、模擬講義だけでなく、進学説明会や学校訪問においても、教員が重要な役割を果たしている。その際には、入試広報委員会及び学生募集委員会と入試広報課が密接に連携して、活動している。

教員の中には教育研究活動において支障が出るとの声も存しないことはないが、適切な役割分担の上で、業務を行っていけば、教育研究活動に支障が出るようなことはないと考えている。行事に積極的に関わることで、学生を理解する手助けとなり、また学生募集等の広報活動に関わることで、どのような教育が求められているのかを知る一助になると考えられ、むしろ効果があるものと考えている。

また、教員の教育研究環境について整備していくことはつねに優先して考慮しているが、効率化という観点からではなく、むしろ大学の置かれている状況、学生のニーズなどを把握する上で、教員が事務職員と協力して学務を行っていくことは大切であると考えている。実際に、学生募集に携わることで、授業改善に効果が現れている例も出ていると感じている。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状

教職員の健康管理については、労働安全衛生法及び労働安全衛生規則に基づく健康診断を年1回実施しており、診断結果により治療・再検査等が必要な教職員には、を受診・再検査等の指導を行っている。

就業環境の改善については、大学新設とともに、研究室・空調施設の改善等がなされている。また、すべての教員にノートパソコン（Microsoft Office インストール済）を貸与し、すべての研究室でネット環境が整備されている。また直接外線可能な電話の整備も行った。教室についても、年次計画により順次整備し、ほとんどの教室で情報機器の使用が可能となっている。

専任教員の勤務時間については、前述の通りフレックスで対応しているが、授業担当時間数や校務分担により、一部教員の終業時間が遅い場合がある。そのため、平成20年度から個々の教員が関わるすべての業務の実態を把握し、偏りを改善するため、全教員に「教育研究学生指導等報告書」の提出を義務づけている。

【特記事項について】

その他、運営管理について努力していることがあれば記述して下さい。

前項で述べたように、毎年度末に「教育研究学生指導等報告書」をすべての教員が記載し、提出している。教員の短期大学において果たす役割を多面的に把握して、業務の実態、業務の偏重をなくすことを目的としているが、正当な人事評価の利用へとつなげていきたいと考えている。また、教員の側でも、自己の業務を客観的に記録することで、短期大学における自己の役割を再認識し、また反省し、業務の効率化、今後の活動等に役立ててほしいという意図で実施している。

《Ⅸ 財務》

【財務運営について】

(1) 「中・長期の財務計画」

理事会で承認済みの事業計画にそって計画を策定している。今後の計画として、中学校の設置、大学院の設置、幼稚園園舎の取得等を予定している。

(2) 学校法人及び大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続き

各学科、課単位での行事、事業計画および前年度決算状況を基に法人事務局により予算案を作成し、3月の評議員会・理事会で決定される。

(3) 決定した予算の大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れ

理事会で決定した予算は、教授会を通して周知している。予算の執行に係る経理、業務の流れは次の通りである。

- (1) 起案書により学長、理事長の決裁を受け、発注・購入をおこなう。
- (2) 購入後、学内の所定用紙（支払請求書）を作成し、起案書の写し、納品書、請求書等を添付して大学事務局へ提出する。

(3) 支払請求書を理事長まで決裁を受け支払いをおこなう。

(4) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の公認会計士監査状況の概要

日常の会計処理上において会計士の判断を求める必要があるとみなされる場合は、その都度会計士に指導を受け適切な処理を行なっている。

監事の監査においては監事2名が理事会・評議員会に出席し理事の業務について報告を受けるとともに監査、指導を行なっている。また、会計監査については適宜会計士と意見交換をしている。

(5) 財務情報の公開の概要

事務所へ財務計算書を備え置くと共に大学報へ掲載、学内掲示板へ掲示等により公開している。平成18年度からは学園のホームページ上へ以下の計算書類を掲載している。

掲載している書類

- ・財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、監査報告書、在籍学生数等一覧

(6) 寄附行為に基づく、資金等の保有と運用の方針

元本の安全性の確保を最重要視し、資金元本が損なわれることを避けるため、安全な金融商品により保管・運用するとともに、預金については金融機関の経営の健全性に十分に留意する。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の資金収支計算書・消費収支計算書の概要

別紙様式1

(2) 学校法人の貸借対照表の概要（平成23年3月31日現在）

別紙様式2

(4) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の短期大学における教育研究経費比率（消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率）

教育研究経費比率（平成20年度～22年度）

区分		20年度	21年度	22年度
教育研究経費	(a)	125,527 千円	144,290 千円	236,485 千円
帰属収入	(b)	245,858 千円	487,040 千円	796,050 千円
教育研究経費比率	(a)／(b)	51.1%	29.6%	29.7%

【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程

学校法人桐丘学園 固定資産及び物品管理規程

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状

- ①火災等の災害対策
- ②防犯対策
- ③学生、教職員の避難訓練等の対策
- ④コンピュータのセキュリティ対策
- ⑤省エネ及び地球環境保全対策
- ⑥その他

① 火災等の災害対策

《Ⅷ 管理運営－事務組織について－(4)》で防災について記述した通りである。

② 防犯対策

学内へ進入した不審者については「不審者対応マニュアル」により、対応する。

学生駐車場まで校舎から数百メートルあるため、不定期にはあるが、教員が学校周辺の巡視を行い、学生が不審者等からの被害に遭わないよう、対策を行っている。また、不審者等への対応・連絡先等についても、防犯に関するポスター等で告知している。

③ 学生、教職員の避難訓練等の対策

Ⅷ 管理運営－事務組織について－(4)に記述した通り、年1回避難訓練を実施している。大学・短期大学のできるだけ多くの学生及び教職員が参加できるような日時の設定にしている（後期ガイダンス時、等）。例年、避難訓練の際には、桐生消防署から職員に来てもらって、避難の際の注意事項や消火器の使い方の講習・実施訓練などをあわせて行っている。

④ コンピュータのセキュリティ対策

サーバ室にはセキュリティシステムを導入してあり、入室権限がないものが勝手に入れないようにしている。サーバに関しては教職員用と学生用とを分けて設置しており、アクセスする際にはパスワードによる認証が必要である。さらに学内LANも教職員用と学生用で別になっており、学生ネットワークから教職員ネットワークへは侵入できないようになっているなど、セキュリティを高めている。

一方でサーバにはUPSを設置し、またデータのバックアップを毎日取っておくなど、万が一障害が発生した場合に備えている。

⑤ 省エネ及び地球環境保全

大学・短期大学全体としてISO14001の認証を受けている。そのため、大学・短期大学として次の5つの環境方針を設定している。「(1)地球環境の保全に貢献する人材の育成、(2)環境に配慮した学園運営、(3)環境システムの構築、(4)継続的改善、(5)法規制などの遵守」である。これらの環境方針を確実に実行するため、環境管理プロ

グラムを作成している。環境管理プログラムでは、まず環境に影響を与える事業等を抜き出し、それら事業が環境に与える影響を評価し、環境に大きな負荷を及ぼすものは、著しい環境側面として特定する。そうした手順の後に、年度の環境目的・目標を設定するのである。今年度の環境目的は「地球環境の保全に役立つ人材の育成」と「省エネルギーと廃棄物の減量化ならびに有機資材の循環の推進」である。

こうした環境方針および環境目的等に沿って、学生・教職員は大学・短期大学での日常生活を行うため、環境教育の推進やゴミの分別の徹底、廃棄物の削減への努力が日常的に行われている。

この取組みは、地球環境の保全にとって有益な活動であるが、本学の教育理念である「社会に出て役立つ人間の育成」に合致するものと考えている。

また、太陽光発電システムの設置・管理を行っている。

《X 改革・改善》

【自己点検・評価について】

(1) 自己点検・評価を、大学運営のなかでの位置づけ、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況、および今後の自己点検・評価を実施方法。

「自己点検・自己評価委員会規程」に基づき、大学の自己点検・評価を行い、教育研究活動の向上を図り、運営改善に向けて調査検討することとなっている。自己点検・自己評価委員会は、理事長、学長、事務局長、第三者評価連絡調整責任者（AL O）等より構成される委員会で、理事長を委員長とする。「建学の精神・教育理念、等」「教育の内容」「教育の実施体制」等について審議を行うこととなっている。なお、委員会は専門委員会を設置できることとなっており、現状では自己点検評価運営委員会がそれに該当する。

自己点検評価運営委員会は、自己点検評価実施に係る運営をおこない、各学科部局から提出された自己点検報告をとりまとめ、報告書を作成することを任としている。

自己点検・評価を実施することで、具体的な教育研究活動やその他の短期大学の活動状況が明らかになり、それらの活動に対する客観的な評価が可能となってきたと感じられる。教育理念、各科の教育目標・目的に合致しているか、学生の満足度の高い教育となっているか等の観点から、適切な点検・評価を行い、改善の努力をすることは、学生にとってよりよい大学となることにつながるものと考えている。したがって、自己点検・評価を適切に実施することで、大学の発展につなげていきたいと考える。

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 自己点検・評価に関わった教職員の範囲、および関わるべき教職員の範囲

自己点検・評価報告書を作成する自己点検評価運営委員会の委員が中心となって自己点検・評価を実施している。委員は、規程では、「第三者評価連絡調整責任者（AL O）、教務部長、学長より推薦された者」をあてることになっているが、「学長より推薦された者」については、各学科・各委員会・部局等にわたるよう委員を選任している。委員は、自身が所属する学科・委員会・部局を中心に、学科長・委員長・事務

担当課長等とともに、自己点検・評価のとりまとめを行っている。

自己点検・評価を実施することは、自身に関わるさまざまな業務の改善・効率化に寄与すると考えられるため、自己点検評価運営委員と学科・部局等の長にとどまらず、できる限り多くの教職員が関われるようなシステムに変えていきたい。

(2) 平成 22 年度までに行った自己点検・評価結果の活用についての実績。また今後、自己点検・評価の結果の活用方法。

平成 20 年度を対象とした自己点検・評価報告の結果、次のような改善がなされた。

一つは、学生による授業評価に関してである。これまではすべての授業評価結果が比較できることという点を重視していたため、授業形態に関わらず、すべての教科について同じ設問で評価を実施していた。自己点検・評価において、質問項目が実験・実習のような形態の授業にそぐわないとの問題点があげられた。その問題を F D 委員会で検討した結果、授業形態ごとに質問項目を変えることとした。それにより授業実態に即した適切な評価が実施できることとなった。

もう一つは、委員会開催状況である。自己点検・評価の過程で委員会の開催状況・議事内容等が不明確であるケースが出てきたため、平成 21 年度からは委員会について、学長に議事録を提出することを義務づけた。

【相互評価や外部評価について】

(1) 平成 22 年度までに行った相互評価及び外部評価の概要

該当なし

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況、および、今後の相互評価や外部評価についての活用指針

相互評価や外部評価のための特別な組織、規程等は整備していない。自己点検評価運営委員会規程にもとづき実施することになる。完成年度終了後に、相互評価や外部評価について検討したい。

【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価の予定。

平成 25 年度に日本高等教育評価機構において、認証評価を受ける予定でいる。